

# 講義概要

---

## 正課科目

シラバスは 2018 年 5 月 23 日時点の情報です。  
最新情報は、エクステンション・センター HP にて  
随時更新いたします。

URL : <https://www.andrew.ac.jp/extension-center/kouza/06.html>

講義名称	曜日
アジア共同体論 〈秋〉	木 4

【教員名称】 インテ  
内山 令和

【講義概要】

近年、東アジア・東南アジアを中心にアジア地域と日本との経済的な結びつきが急速に深まっている。また、文化や人の交流も活発化しており、グローバル化の中で、東・東南アジアの経済社会の「一体感」が感じられるようになってきている（例えば、K-POP や AKB48・SNH48・JKT48 を見よ）。しかし一方で、ヨーロッパとは違いアジア諸国の間には、経済発展の程度や政治体制、使用言語などに大きな差がある。つまり、アジアは非常に多様な姿を持っている。ここにアジアを考える難しさがある。

本講義では、経済・政治・社会・文化などアジアのさまざまな分野について研究している講師をお招きし、「多様なアジア」「一体化するアジア」の現状や展望についてお話ししていただく。そこから、「アジア共同体」のアジア経済の発展における意義と課題について考えていきたい。

【学習目標】

アジアの経済・政治・社会・文化について学び、「多様なアジア」「一体化するアジア」と「アジア経済の発展」についての理解を深める。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス  
本講義は、毎回異なるゲスト講師（学内および学外）によるインテグレーション科目である。  
以下には、予定されている講義テーマについて記す。  
秋学期開始時まで、各回の講師と講義テーマについて確定したスケジュールを発表する。  
なお、講師の都合によりスケジュールは変更されることがある。
- 第2回：日本の対外直接投資とアジアの経済発展  
第3回：中国・アジアへの企業進出と課題  
第4回：アジアにおける日本企業の現地化の課題  
第5回：アジア地域からの技能研修生の受け入れと課題  
第6回：アジアの金融システム安定のための課題と国際協力  
第7回：アジアの経済協力の新展開  
第8回：アジアにおける安全保障と協力  
第9回：アジア共同体と安定的な食料供給システムの構築  
第10回：アジアの環境問題と国際協力  
第11回：中国・アジアの生態環境問題と日本  
第12回：日本の大衆文化開放（韓国）と韓流ブーム（日本）  
第13回：インドネシアにおける日本と韓国のポップ・カルチャーの人気  
第14回：東アジア共同体構想の可能性と課題  
第15回：アジア共同体の未来

【事前および事後学習の指示】

テレビやインターネット・新聞・雑誌などで、アジア諸国のニュースに関心を持ってほしい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

授業に真剣に出席してメモを取り、きちんと復習しないと書けないレポートを1回課す予定である。

講義名称	曜日
アジア経済論Ⅱ 〈秋〉	月 2

【教員名称】  
内山 令和

【講義概要】

本講義では ASEAN（東南アジア諸国連合）加盟 10 カ国の経済とその地域協力、日本との経済関係について解説する。80 年代から工業化や経済成長を遂げた ASEAN4、後発国である CLMV 諸国の中からいくつかの国の経済を取り上げて概説する。

第1部：ASEAN の地域協力（第3回～第4回）  
第2部：ASEAN 先発国の経済（第5回～第10回）  
第3部：ASEAN 後発国（CLMV 諸国）の経済（第11回～第14回）

【学習目標】

東南アジア諸国の経済問題や周辺情勢に関心を持つこと。  
B. パラッサの経済統合理論を抑え、ASEAN の地域協力や市場統合の現段階を把握すること。  
ASEAN 諸国について、対象国の経済的な課題や日本との関係性、直接投資先としての優位性と劣位性をどうみるかなど、あらゆる角度から考える力を身につけること。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス：講義の進め方と重点、アジア経済を見る視点  
第2回：東アジア経済発展の経緯  
第3回：ASEAN（東南アジア諸国連合）の地域協力について、B・パラッサの経済統合理論  
第4回：ASEAN 経済統合への動きと課題－ AFTA から AEC へ－  
第5回：ASEAN4：マレーシアの概況、大戦後の歩み（5・13事件、マハティール元首相の開発主義、プミトラ政策）  
第6回：ASEAN4：マレーシア経済の概況（産業構造、貿易・直接投資）と経済成長の動向、日本との関係  
第7回：ASEAN4：マレーシアの外資導入政策と投資環境  
第8回：ASEAN4：タイ経済の概況と大戦後の歩み（5月事件、軍事政権と文民内閣の確執）  
第9回：ASEAN4：タイ経済の概況（産業構造、貿易・直接投資）と経済成長の動向、日本との関係  
第10回：ASEAN4：タイの外資導入政策と投資環境  
第11回：ASEAN 後発国（CLMV 諸国）の経済、メコン圏の地域経済協力  
第12回：CLMV 諸国の概況と大戦後の歩み  
第13回：CLMV 諸国の経済概況（産業構造、貿易・直接投資）と経済成長の動向、日本との関係  
第14回：CLMV 諸国の外資導入政策と投資環境  
第15回：総括

【事前および事後学習の指示】

ASEAN に関するニュースを新聞、雑誌、書籍、インターネット等を利用し、随時フォローしておくこと。

【テキスト】

アジア経済の変貌とグローバル化 坂田幹男・内山令和 晃洋書房

【参考文献】

日本の外務省や経済産業省、JICA（国際協力機構）、JETRO（日本貿易振興機構）、JBIC（国際協力銀行）、IMF（国際通貨基金）、日本アセアンセンター、現地政府の報告書等。

【コメント】

成績評価は基本的に期末試験で行う。場合によっては、中間試験を行う。

ア  
カ  
サ  
タ  
ナ  
ハ  
マ  
ヤ  
ラ

講義名称	曜日
異文化間コミュニケーション論 A 02 (秋)	火 1

**【教員名称】**

金本 伊津子

**【講義概要】**

『グローバル時代を生きるコミュニケーション・スキルを学ぼう』

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を超え、人は文化の壁を越え始めた。地球規模で地域・組織・家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーション(交流)やネゴシエーション(交渉)する異文化間コミュニケーション能力が重要視されるようになってきた。グローバル時代に直面する様々な問題を解決する鍵となる、言語・思考・価値観などの多様性をマネジメントする力が、現代のリーダーシップに不可欠な要素となった。『異文化コミュニケーション学』とは、このような時代背景から生まれてきた学問であり、このような時代を生きるための実践の学問である。

この科目においては、言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる様々な現象や問題点を解明する。『異文化間コミュニケーション論 A』においては、まず、異文化間コミュニケーション論における基本的な概念(キーワード)と理論に焦点を当てる。

**【学習目標】**

- (1) 言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる現象や問題点を理解し、その問題を解決できるコミュニケーション・スキルを身につける。
- (2) 英語教員志望者は、英語が使用されている国や地域の人々のコミュニケーション行動をその歴史的・社会的・文化的背景から理解する。
- (3) 自分自身のコミュニケーションの特性を理解し、自分自身についての理解を深める。

**【講義計画】**

- 第1回: コースの概要の説明:  
なぜ、今、異文化間コミュニケーションを学ぶのか?  
エクササイズ(1): アフリカ系アメリカ人の日本での体験 ("Struggle and Success" DVD) から考える
- 第2回: 文化とは何か?: 文化の「見える化」から見えるもの  
エクササイズ(2): 日本人にとっての太陽は何色? / 船はどちらに進む? / 雨は直線?
- 第3回: コミュニケーションのルールを探る: コミュニケーション・モデル  
エクササイズ(3): 自己開示とコミュニケーション
- 第4回: 言語コミュニケーションの特徴を分析する(1): ことばと文化の関係  
エクササイズ(4): クイズ「ちゃうちょうちやうちやうとちやうんとちやう」他
- 第5回: 言語コミュニケーションの特徴を分析する(2):  
ことばとコンテキストの関係
- 第6回: コミュニケーションのルールを探る  
エクササイズ(5): ゲーム "OUTSIDE EXPERT"
- 第7回: 非言語メッセージを戦略的に使う(1):  
身体特徴・動作学・近接空間学
- 第8回: 非言語メッセージを戦略的に使う(2):  
接触学・準言語(パラランゲージ)・時間学  
エクササイズ(6): 時間・空間の使い方チェック
- 第9回: コミュニケーションを文化比較する:  
デスモンド・モリスに学ぶコミュニケーションの多様性
- 第10回: 異文化との出会いから自分を見つめる:  
カルチャー・ショックと異文化適応能力  
エクササイズ(7): 異文化適応能力チェック
- 第11回: コミュニケーションの障害を理解する: ステレオ・タイプと偏見
- 第12回: グロービッシュとは?:  
国際語としての英語(lingua franca)と様々な英語(Englises)
- 第13回: 多文化組織におけるリーダーシップとは?:  
組織コミュニケーションと文化  
エクササイズ(8): 異文化のインターフェース
- 第14回: 日本人のグローバル・マイグレーション:  
海外の日本人と「国民」の多様化  
エクササイズ(9): 国際結婚のこどもたちの文化的アイデンティティ
- 第15回: 日本文化のグローバル化と文化のオーセンティシティ:  
寿司と SUCHI/ 柔道と JUDO  
まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回の授業に関連する参考図書(章・節)を授業中に指示する。
- ・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 毎回の授業において講義のための資料を配布する。  
石井敏、久米昭元、遠山淳(編)(2011)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2005)『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2009)『日本文化論のキーワード』有斐閣

**【コメント】**

- 成績評価の方法は以下のように総合的に評価する。  
(1) 授業への参加(10%)  
(2) 授業中に実施するエクササイズに関する提出物(40%)  
(3) 学期末テスト(50%)

講義名称	曜日
異文化間コミュニケーション論 B 02 (秋)	金 2

**【教員名称】**

金本 伊津子

**【講義概要】**

『グローバル時代を生きるコミュニケーション・スキルを学ぼう』

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を超え、人は文化の壁を越え始めた。地球規模で地域・組織・家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーション(交流)やネゴシエーション(交渉)する異文化間コミュニケーション能力が重要視されるようになってきた。グローバル時代に直面する様々な問題を解決する鍵となる、言語・思考・価値観などの多様性をマネジメントする力が、現代のリーダーシップに不可欠な要素となった。『異文化コミュニケーション学』とは、このような時代背景から生まれてきた学問であり、このような時代を生きるための実践の学問である。

この科目においては、言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる様々な現象や問題点を解明する。『異文化間コミュニケーション論 B』においては、異文化コミュニケーションの基礎知識の復習を行い、世界の地域(主に英語が使用されている国や地域)におけるコミュニケーションの特性を解明し、地球規模で起きている異文化間における問題をディスカッションをとおして理解する。

**【学習目標】**

- (1) 言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる現象や問題点を理解し、その問題を解決できるコミュニケーション・スキルを身につける。
- (2) 英語教員志望者は、英語が使用されている国や地域の人々のコミュニケーション行動をその歴史的・社会的・文化的背景から理解する。
- (3) 自分自身のコミュニケーションの特性を理解し、自分自身についての理解を深める。

**【講義計画】**

- 第1回: 1回: コースの概要の説明  
異文化コミュニケーションの基礎知識(1)
- 第2回: 異文化コミュニケーションの基礎知識(2)
- 第3回: 文化の志向性とコミュニケーション:  
コミュニケーションのプロトタイプとしての「ディベート」と「寄り合い」
- 第4回: 欧米と日本のコミュニケーション比較:  
文化の志向性とコミュニケーション・パターン
- 第5回: アメリカの社会・文化とコミュニケーション(1):  
「アメリカ人」はどのように作られるか?  
ディスカッション(1): 移民国家アメリカにおける危機:  
文化的不寛容社会の到来
- 第6回: アメリカの社会・文化とコミュニケーション(2):  
「アメリカ人」はどのようにものを決めるか?  
ディスカッション(2): 大統領選挙にみるコミュニケーション行動:  
多数決原理と全員一致
- 第7回: アメリカの社会・文化とコミュニケーション(3):  
「アメリカ人」はなぜ分断されるのか?  
ディスカッション(3): 対立コミュニケーションのメカニズム:  
宗教・人種(エスニシティ)・クラス・ジェンダー
- 第8回: イギリスの社会・文化とコミュニケーション(1):  
階層社会イギリスにおける分断  
ディスカッション(4): スコットランド独立問題 / 北アイルランド問題 / ウェールズのバイリンガリズム
- 第9回: イギリスの社会・文化とコミュニケーション(2):  
移民国家イギリスにおけるマイグレーションとエスニシティ  
ディスカッション(5): プレグジット(Brexit)とEUの未来
- 第10回: オーストラリアの社会・文化とコミュニケーション:  
白豪主義から多文化主義への転換  
ディスカッション(6): オーストラリアにおける多文化主義の未来
- 第11回: 日本の社会・文化とコミュニケーション:  
日本企業における対立回避のコミュニケーション
- 第12回: 異文化コミュニケーション研究(1):  
日本の小さな町の国際紛争:  
クジラ論争における欧米人のコミュニケーション行動
- 第13回: 異文化コミュニケーション研究(2):  
日本の小さな町の国際紛争:  
クジラ論争における日本人のコミュニケーション行動
- 第14回: ディスカッション(7): 日本の国際交渉力を分析する
- 第15回: 異文化コミュニケーション研究(3):  
異文化コミュニケーションの研究法  
まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回の授業に関連する参考図書(章・節)を授業中に指示する。
- ・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 毎回の授業において講義のための資料を配布する。  
石井敏、久米昭元、遠山淳(編)(2011)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2005)『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2009)『日本文化論のキーワード』有斐閣  
その他の参考文献については授業で紹介する。

**【コメント】**

- 成績評価の方法は以下のように総合的に評価する。  
(1) 授業中に実施するディスカッションへの貢献と提出物(50%)  
(2) 学期末テスト(50%)

講義名称	曜時
アジア文化研究—「文明の十字路口」トルコの歴史(秋集)	火 3/ 金 2

**【教員名称】**

今澤 浩二

**【講義概要】**

小アジア半島を中心とするトルコは、「鉄の民族」ヒッタイトをはじめ、古代ギリシア文明、ヘレニズム文明、ローマ帝国、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）、オスマン帝国などさまざまな民族・文明が興亡し、まさに「文明の十字路口」と呼ぶにふさわしい地域である。

この講義では、こうした重層的で多彩なトルコの歴史を、特に 20 世紀初頭まで 600 年にわたって君臨し続けたオスマン帝国を中心に概観する。

**【学習目標】**

- ①トルコの歴史を考えることを通じて、世界史における重要な諸文明について理解を深める。
- ②トルコの文化や社会を学び、日本と比較することを通して、異文化理解力を育む。

**【講義計画】**

- 第 1 回：小アジア半島（アナトリア）とは
- 第 2 回：ヒッタイト①
- 第 3 回：ヒッタイト②
- 第 4 回：トロイ
- 第 5 回：ギリシア文明
- 第 6 回：ペルシア帝国
- 第 7 回：ヘレニズム時代
- 第 8 回：ローマ帝国①
- 第 9 回：ローマ帝国②
- 第 10 回：ローマ帝国③
- 第 11 回：ビザンツ帝国①
- 第 12 回：ビザンツ帝国②
- 第 13 回：イスラームの成立と発展①
- 第 14 回：イスラームの成立と発展②
- 第 15 回：トルコ民族の進出①
- 第 16 回：トルコ民族の進出②
- 第 17 回：オスマン帝国の成立
- 第 18 回：初期の発展と挫折
- 第 19 回：コンスタンティノープルの征服
- 第 20 回：オスマン帝国の最盛期①
- 第 21 回：オスマン帝国の最盛期②
- 第 22 回：オスマン帝国の社会
- 第 23 回：オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」①
- 第 24 回：オスマン帝国の宮廷と「ハーレム」②
- 第 25 回：オスマン帝国の衰退①
- 第 26 回：オスマン帝国の衰退②
- 第 27 回：オスマン帝国の滅亡
- 第 28 回：トルコ共和国の成立
- 第 29 回：トルコと日本の関係
- 第 30 回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

4000 年にわたる長大な歴史を扱うことになるので、前回の復習を行なった上で、次回の授業に臨むこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 大村幸弘『鉄を生みだした帝国—ヒッタイト発掘—』（日本放送出版協会、1981）
- 森谷公俊『アレクサンドロスの征服と神話』（講談社、2007）
- 本村凌二『地中海世界とローマ帝国』（講談社、2007）
- 井上浩一『生き残った帝国ビザンティン』（講談社現代新書、1990）
- 根津由喜夫『ビザンツの国家と社会』（山川出版社、2008）
- 永田雄三（編）『西アジア史Ⅱ イラン・トルコ』（山川出版社、2002）
- 林佳世子『オスマン帝国 500 年の平和』（講談社、2008）
- 鈴木重・大村次郷『図説イスタンブール歴史散歩』（河出書房新社、1993）
- 新井政美『オスマン vs. ヨーロッパ—トルコの脅威—とは何だったのか—』（講談社選書メチエ、2002）
- 新井政美『トルコ近現代史—イスラム国家から国民国家へ—』（みすず書房、2001）
- 野中恵子『史跡・都市を巡るトルコの歴史』（ベレ出版、2015）
- 吉村作治『トルコ東西文明交流の地』（平凡社、1999）
- 大村幸弘・永田雄三・内藤正典（編）『トルコを知るための 53 章』（明石書店、2012）

**【コメント】**

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

講義名称	曜時
一般経済史Ⅱ（秋）	金 3

**【教員名称】**

富澤 修身

**【講義概要】**

まず、一般経済史で学ぶ内容を目次で確認し、粗筋を理解する。講義では 20 世紀と 21 世紀初めの経済史を論じる。本論では、まず、大企業の登場とその内部構造上の特徴、市場支配力について論じる。次いでこの時代の産業インフラである電力産業のシステムビルディングを論じ、1930 年代の米国ニューディール政策へと講義内容を繋げる。第 2 次大戦後については、米国を中心に戦後経済史を論じたのち、脱垂直的統合と情報化・グローバル化時代のモノ作りを論じる。

**【学習目標】**

2008 年 9 月に顕在化したアメリカ発の金融危機と実体経済の危機は、世界同時不況となって、前代未聞の事態に世界を陥れた。先進国経済は、一定回復しつつあるが、依然厳しい。他方、新興国経済も減速している。日本経済はこれからどうなるのであろうか。今こそ、歴史から学び、現状を正しく理解し、その成果を未来に生かすことが求められている。一般経済史の講義では、現代を理解し、未来を構想するための経済学の基本的な考え方と知識を歴史から学ぶ。

**【講義計画】**

- 第 1 回：1. はじめに
- 第 2 回：2. 大企業の登場 2.1. 大企業の誕生（1）
- 第 3 回：2.1. 大企業の誕生（2）
- 第 4 回：2.2. 生産管理（1）
- 第 5 回：2.2. 生産管理（2）
- 第 6 回：2.3. 労働力編成と労資関係
- 第 7 回：2.4. 空間的配置
- 第 8 回：3. 独占的企業（1）
- 第 9 回：3. 独占的企業（2）
- 第 10 回：4. 電力産業のシステムビルディング（1）
- 第 11 回：4. 電力産業のシステムビルディング（2）
- 第 12 回：5. ニューディール政策（1）
- 第 13 回：5. ニューディール政策（2）
- 第 14 回：6. 戦後経済史（1）
- 第 15 回：6. 戦後経済史（2）

**【事前および事後学習の指示】**

毎回講義開始時に、次回の講義に関連するキーワードを指定して、図書あるいはインターネットを活用して準備学習をさせる。事後学習としては、講義ノートの点検・整理をさせる。

**【テキスト】**

講義資料として、コピーを配布する。

**【参考文献】**

授業中に紹介する。

**【コメント】**

小レポート（小作文）提出と出席確認は抜き打ちで行う。

講義名称	曜日
英語の意味 (秋集)	火 4/ 金 3

**【教員名称】**

林 宅男

**【講義概要】**

この講義では、言葉が実際のコミュニケーションにおいて使われる中でどのような意味を付与され変化・拡張するかについて、英語という言語に焦点を当てて学ぶ。このような言葉の意味の研究は今まで様々な観点からの研究が行われてきたが、この授業では、認知意味論のアプローチに基づいて検討する。すなわち、ここでは、言語の意味を人間の基本的で一般的な認知能力や認識のパターンに照らして説明・分析し、記号としての言語の意味が、言語使用者の事態把握、主観、個人的経験及び知識とどのように関連し、コミュニケーション上の用法や機能とどのように結びついているか等について学ぶ。

**【学習目標】**

記号としての言語の意味を、記号と世界の対応関係から分析するのではなく、記号と世界の間人間を介在させ、言語使用者としての人間が伝え解釈する世界を表すものとして捉え、その分析を、語や文だけでなく談話のレベルでも行う。

**【講義計画】**

- 第1回：はじめに(オリエンテーション)
- 第2回：基本的概念 I
- 第3回：基本的概念 II
- 第4回：空間認知 I
- 第5回：空間認知 II
- 第6回：空間的意味の拡張 I
- 第7回：空間的意味の拡張 II
- 第8回：空間的意味の拡張 III
- 第9回：放射状カテゴリー I
- 第10回：放射状カテゴリー II
- 第11回：放射状カテゴリー III
- 第12回：構文 I
- 第13回：構文 II
- 第14回：構文 III
- 第15回：メンタルスペース I
- 第16回：メンタルスペース II
- 第17回：言語変化 I
- 第18回：言語変化 II
- 第19回：可算名詞と質量名詞 I
- 第20回：可算名詞と質量名詞 II
- 第21回：動詞の完了と未完了 I
- 第22回：動詞の完了と未完了 II
- 第23回：因果構造 I
- 第24回：因果構造 II
- 第25回：談話分析
- 第26回：談話分析
- 第27回：構築主義ディスコース I
- 第28回：構築主義ディスコース II
- 第29回：意味の創造性
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

理解を深めるための予習や授業で指示された課題で復習を行い、小テストのための準備をすること。

**【テキスト】**

実例で学ぶ認知言語学 宮浦国枝 (訳)  
4-469-21303-9 大修館書店

**【参考文献】**

**【コメント】**

出席、レポート、平常テスト、授業態度を総合的に評価する

講義名称	曜日
英米文学概論 02 (秋集)	火 3/ 金 1

**【教員名称】**

佐々木 英哲

**【講義概要】**

本講義では小説、詩、演劇の各分野で評価の定まった芸術家 (Shakespeare, O'Neill, Hawthorne, Melville, Plath) などの作品を順次取り上げ、解釈の一例を紹介するとともに、文学テキストを読み解く方法論を紹介する。受講生は、英語原典にあたりつつ、背景としての文化、歴史、思想などを学習する。

**【学習目標】**

本講義の目的は、以下の3点である。(1) 英語原典を正確に読みこなすこと。(2) 英語圏の文学を俯瞰し、文化的な背景を理解すること。(3) 文学研究をする際に必要な基礎知識の修得すること。

**【講義計画】**

- 第1回：導入：英語文学を読む意義と英語文学をめぐる背景を概観する。一例としてアメリカとピューリタニズムの関係を紹介する。
- 第2回：旧約聖書と文学：「神と人との関係」を読む。新約聖書と文学：キリスト教について基礎知識を学ぶ。
- 第3回：戯曲：Eugene O'Neill 及び代表作 Long Day's Journey into Night を俯瞰する。
- 第4回：戯曲：O'Neill の Long Day's Journey into Night に聖書的テーマを確認しつつ Act 4 を精読する。
- 第5回：文学批評理論：精神分析批評 (フロイト) を概観する。
- 第6回：文学批評理論：精神分析批評 (ラカン) を概観する。
- 第7回：詩：現代アメリカ詩を代表する Sylvia Plath の "Daddy" を読む。
- 第8回：詩 / 批評理論：Sylvia Plath, "Daddy" 及び "Lady Lazarus" を読み進めつつ、精神分析学批評の実践を試みる。
- 第9回：詩：現代イギリスを代表する桂冠詩人 Ted Hughes の詩を読む。
- 第10回：小説：小説を読む上で押さえておくべき Plot, Characters, Narrative Perspective, Setting を確認する。
- 第11回：小説：Nathaniel Hawthorne の長編 The Scarlet Letter (Chapter X) を読む。
- 第12回：小説 / 批評理論：引き続き The Scarlet Letter を読みつつ、読精神分析学批評の実践を試みる。
- 第13回：小説：英語圏 (カナダ) の現代作家 Margaret Atwood の "The Man from Mars" を読む。
- 第14回：文学論文の執筆作法 (ブレイン・ストーミング、問題設定、アウトライン作成、パラグラフ構成、引用方法) を学ぶ。
- 第15回：ワークショップ型の論文指導。
- 第16回：文学批評理論：ニュー・クリティシズム、ニュー・クリティシズム、ポストコロニアリズム、新歴史主義、カルチュラル・スタディーズを概観する。
- 第17回：文学批評理論：(ポスト) 構造主義を概観する。
- 第18回：文学批評理論：(ポスト) マルクス主義、フェミニズム、クィア・スタディーズを概観する。
- 第19回：小説：Herman Melville の短編小説 "Benito Cereno" について、作品アウトライン、作品背景、作者の伝記的情報を確認する。
- 第20回：小説：Melville による "Benito Cereno" の重要箇所を読む。
- 第21回：小説：引き続き "Benito Cereno" を読み進めつつ、ポストコロニアリズム、カルチュラル・スタディーズ、クィア・スタディーズといった文学批評理論の実践を試みる。
- 第22回：戯曲：ポストコロニアリズムを意識しつつ、Shakespeare の四大悲劇のひとつ Othello を概観する。
- 第23回：戯曲 / 批評理論：ポストコロニアリズムを意識しつつ、Shakespeare の四大悲劇のひとつ Othello を概観する。
- 第24回：戯曲：Othello (Act 2, Scene 1) を読む。
- 第25回：戯曲：Othello (Act 5, Scene 2) を読む。
- 第26回：詩：形而上詩人 Donne、王党派詩人 Herrick、ロマン派詩人 Shelley を読む。
- 第27回：小説：インド出身のノーベル賞作家 V. S. Naipaul の In a Free State に取られた一編 "One out of Many" を読む。
- 第28回：クリティカル・リーディングの実践：英語で書かれた文学論文を読む① 構成の説明、「序論」の読解
- 第29回：クリティカル・リーディングの実践：英語で書かれた文学論文を読む② 「本論」前半部の読解
- 第30回：クリティカル・リーディングの実践：英語で書かれた文学論文を読む③ 「本論」後半部及び「結論」の読解

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習：予習課題として授業で取り上げる作品の英語原典を翻訳する。  
60 時間  
事後学習：授業で扱った作品の原典を読み見直す。配布資料を読み直す。  
60 時間

**【テキスト】**

**【参考文献】**

ピーター・バリー『文学理論講義』訳 高橋和久 (ミネルヴァ書房) ISBN: 9784623070435  
高田 賢一 他『たのしく読めるアメリカ文学—作品ガイド 150 (シリーズ・文学ガイド)』ミネルヴァ書房  
中村 邦生 他『たのしく読めるイギリス文学—作品ガイド 150 (シリーズ・文学ガイド)』ミネルヴァ書房

**【コメント】**

レポートの内訳：ほぼ毎回授業後に提出する予習課題 50%、中間レポート 25%  
本講義は教職関係科目であるため、全出席が当然であることが前提となっている。

講義名称	曜日
会計学特講Ⅰ—国際会計検定対策(国際会計理論)〈秋〉	木 1

**【教員名称】**

小澤 義昭

**【講義概要】**

「最先端の国際会計の知識を身に付けて世界に羽ばたこう！」  
 今日、社会のあらゆる分野で国際化が進んでおり、特に経済や企業活動においては著しいものがあります。それにつれて経済を支えるインフラストラクチャーと言われる企業会計制度においても国際化が急速に進んでいます。そして、国際会計基準を習得することが、企業経理マンにとり不可欠な技能となってきました。そこで、この授業では、英文簿記会計で習得した知識を基礎に、ハイレベルの国際会計基準を学習して、東京商工会議所が主催するBATIC（国際会計検定）のSubject2の内容を理解することにします。

**【学習目標】**

この授業は、BATIC（国際会計検定）のSubject2を受験し、アカウントングマネジャーレベル（700点以上）を取得することを目標としています。従いまして、英文簿記会計の履修を済ませているか、Subject1のBookkeeper level以上に合格していることが履修の最低条件となります。

**【講義計画】**

- 第1回：当該講義の進め方とBATIC受験勉強のやり方  
 1. IFRSとその概念フレームワーク (International Financial Reporting Standards and its Conceptual Framework)  
 第2回：2. 財務諸表 (Financial Statements)  
 第3回：3. 公正価値測定 (Fair Value Measurement)  
 4. 現金と売上債権 (cash and Trade Receivables)  
 第4回：5. 棚卸資産 (Inventories)  
 6. 有形固定資産 (Property, Plant and Equipment)  
 第5回：7. 無形資産 (Intangible Assets)  
 第6回：8. 有形固定資産および無形資産の減損 (Impairment of Property, Plant and Equipment, and Intangible Assets)  
 9. リース (Lease)  
 第7回：10. 金融資産 (Financial Assets)  
 11. 金融負債 (Financial Liabilities)  
 12. 引当金、偶発負債及び偶発資産 (Provisions, Contingent liabilities and Contingent assets)  
 第8回：13. 資本 (Equity)  
 第9回：14. 収益認識 (Revenue Recognition)  
 第10回：15. 従業員給付 (Employee Benefits)  
 第11回：16. 法人所得税 (Income Taxes)  
 第12回：17. キャッシュ・フロー計算書 (Statement of Cash Flows)  
 第13回：18. 企業結合と連結 (Business Combinations/Consolidated Statements)  
 第14回：19. 為替レート変動の影響 (The Effects of Changes in Foreign Exchange Rates)  
 20. 会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬 (Accounting Policies, Change in Accounting Estimates and Errors)  
 第15回：21.1 株当たり利益 (Earnings per Share)  
 22. 期中財務報告 (Interim Financial Reporting)  
 23. 事業セグメント (Operating Segments)

**【事前および事後学習の指示】**

毎回、上記テキストの予習と復習が必要となります。

**【テキスト】**

国際会計検定公式テキスト 2018版 Subject 2 東京商工会議所  
 978-4-502-09470-5 中央経済社

**【参考文献】**

授業の中で紹介をいたします。

**【コメント】**

基本的には、BATIC/Subject 2を受験いただき、Accounting Manager Levelの実力をつけるのを目的としていますので、それに見合うテストを期末に実施し、評価することとなります。ただ、日々の努力も大切ですので、出席等も考慮に入れます。

講義名称	曜日
会社法 02 〈秋集〉	火 2/ 金 1

**【教員名称】**

瀬谷 ゆり子

**【講義概要】**

株式会社法を中心に、必要に応じて上場会社に適用される金融商品取引法も入れて解説する。体系的な理解ができるように、常に会社法のどの部分を論じているかを示しながら講義を進める。法制度の理解を深めるために、会社にかかわる事件が発生した場合は、可能な限り授業で紹介するので、受講者もつとめて新聞等を読む習慣をつけておいてほしい。毎回、その日の授業のアウトラインを記したA4サイズ紙1～2枚のレジュメを配布する。正しく理解ができているかを確認するために、適宜「クイズ」を実施する。条文の確認は毎回行うので、自分の六法を必ず持参すること。

**【学習目標】**

会社法の理念に始まり、株式会社を中心とした設立から解散・組織再編を含む法制度の全体像を把握するとともに、現実の会社と経済活動と結びつけて理解できるようにすることを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回：会社法の全体像  
 ・どの分野を対象とするか → 会社法（一部金融商品取引法を含む）  
 ・商法典と会社法の関係 取引法（＝商法）と組織法（＝会社法）  
 ・会社法の特徴的構造  
 ・会社をめぐる近時の諸問題、等  
 第2回：取引社会における会社の役割 会社概念と法人性  
 第3回：企業形態の選択 会社の種類  
 → 1人が複数か、組合形態か法人形態か  
 第4回：理念型としての法人の特質  
 会社の能力 → 政治献金の可否  
 法人格否認  
 第5回：株式会社の歴史と会社法制の変遷  
 第6回：株式会社設立 1 概要 資金調達方法  
 第7回：株式会社設立 2 機関 会社の区分と組織の構成  
 「公開会社」or「公開会社以外の会社」、「大会社」or「大会社以外」  
 第8回：株式会社設立 3 会社の創設 設立手続の瑕疵  
 第9回：株式の仕組みと株主の権利  
 第10回：株式譲渡 株式譲渡自由の原則  
 株式の取得方法 市場取引 TOB  
 第11回：自己の株式の取得  
 第12回：株式会社の機関構成  
 第13回：株主総会の権限 ▼取締役会あり ▼取締役会なし  
 第14回：業務執行機関1 取締役・取締役会制度  
 第15回：業務執行機関2 監査役（会）設置会社の場合  
 監査等委員会設置会社の場合  
 指名委員会等設置会社の場合  
 第16回：業務執行機関3 会社の代表権 代表取締役・代表執行役  
 第17回：取締役・執行役の行為規制 ▼善管注意義務 ▼忠実義務  
 競業規制、自己取引規制 etc.  
 第18回：監査制度 ▼大会社の監査 ▼大会社以外の会社の監査  
 第19回：役員責任1 対会社責任 株主代表訴訟制度  
 第20回：役員責任2 対第三者責任  
 第21回：決算と利益配当  
 第22回：剰余金の分配規制  
 第23回：資金調達1 新株発行  
 第24回：資金調達2 新株予約権/新株予約権付社債  
 第25回：資金調達3 社債発行  
 第26回：解散・清算、組織再編  
 第27回：企業結合1 合併 会社分割 事業譲渡  
 第28回：企業結合2 株式交換・株式移転  
 第29回：会社法の体系的な理解  
 第30回：まとめ 会社法の全体像

**【事前および事後学習の指示】**

授業での話に親しみを持つために、会社に関する事件について関心を払うことが必要です。東芝やシャープ、出光、そして日産など、有名企業の話について、新聞等の記事を注意してノートに記録しておいてください。毎回配布するレジュメには、当日の講義に関係する部分について、テキストの該当ページが示してあります。テキストの該当部分を読み、その日のテーマと照らし合わせて、ノートを作っておいてください。当日使った条文の確認は必ず行ってください。

**【テキスト】**

会社法概論 國友順一 編著  
 978-4-7823-0446-4 嵯峨野書院 この本を基本に使うが、すでに使用しているものがあればそれでもよい。ただし、新しい版であることが必要。

**【参考文献】**

江頭憲治郎『株式会社法（第7版）』（有斐閣、2017）  
 岩原伸作ほか編『会社法判例百選（第3版）』（有斐閣、2016）  
 なお、最新の六法（2018年版）を必ず用意すること。

**【コメント】**

授業中実施する「クイズ」は、法律の答案を書くための練習でもあります。受けなくても大丈夫評価とはしませんが、成績評価に際し、若干加算点として用います（ただし、解答内容に応じて、10%までの加算点とし、白紙の場合は対象外とします）。一人で本を読んで理解するのは大変な分野です。出席はとりませんが、授業に出席せず試験で合格点をとるのは困難だと思ってください。

ア  
力  
サ  
タ  
ナ  
ハ  
マ  
ヤ  
ラ

講義名称	曜時
学科特殊講義 — 音韻論入門 (秋集)	水 4/ 金 3

**【教員名称】**

Kevin R. Gregg

**【講義概要】**

音声学は言語の発音の物理学的かつ生理学的な面を調べる科学なら、音韻論は発音の心理学的な面を調べる。言語の母語話者は喋る際、身につけた規則に従う。本授業では、英語や日本語をはじめ世界のいろいろな言語を見て、言語の発音にかんする規則を見つけ出す。

**【学習目標】**

うまく行けば、受講者は音韻論の基礎知識を得るだけではなくて、音韻論という自然科学の調べ方（データの分析や仮設形成・検証）を経験する。そのため出来る限り、担当者がただ講義を行なうばかりよりも、受講者諸君が「言語学をする」ワークショップを行ないたい。

**【講義計画】**

- 第1回：概要
- 第2回：自然科学としての言語学
- 第3回：心理学の下位分野としての言語学
- 第4回：言語学修得と刺激の貧困
- 第5回：発声器官
- 第6回：子音
- 第7回：母音
- 第8回：記号・表記
- 第9回：音・音素、分布
- 第10回：データ分析・仮説検証
- 第11回：基底表示・表層形式
- 第12回：最善の説明への推論
- 第13回：規則と制約
- 第14回：弁別的組成：概要
- 第15回：母音の素性
- 第16回：主要類素性
- 第17回：調音点・調音様式素性
- 第18回：規則の形式化
- 第19回：α表記
- 第20回：語中音添加・削除
- 第21回：母音調和
- 第22回：規則の適用順序
- 第23回：証拠と推測
- 第24回：公式の種類
- 第25回：音節：概要
- 第26回：音節の構造
- 第27回：音節の制約
- 第28回：きこえ度
- 第29回：最大頭子音の原理
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

Fay ce que voudra.

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

小テストを毎週（多分12回）行ない、期末試験もある。宿題を毎回配る。宿題は採点しないが、提出しなければいけない。

講義名称	曜時
学科特殊講義 — 宮崎アニメの世界 I 02 (秋集)	水 3/ 水 4

**【教員名称】**

取屋 淳子

英語による

**【講義概要】**

"Anime" (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works after his retirement.

This course will look at a number of Miyazaki's movies including "My Neighbor Totoro" "Princess Mononoke" and "Spirited Away" from various angles. In addition to Miyazaki's works other Japanese anime movies will also be taken up the history of Japanese animation will be surveyed and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company which are the most widely known.

**【学習目標】**

By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime.

The course will not only examine the contents of the various works but will also take up such topics as the historical background to the movies the critical evaluation they received and the reaction of audiences worldwide.

Movies examined will include:

- Miyazaki Works: "Nausicaa of the Valley of the Wind" "My Neighbor Totoro" "Princess Mononoke" "Spirited Away" etc...
- Other Anime Productions: "Haku-ja den" "Akira" "GHOST IN THE SHELL" etc.

**【講義計画】**

- 第1回：Introduction of the lectures
- 第2回：Introduction of the lectures
- 第3回：Starting point of Miyazaki Hayao ①
- 第4回：Starting point of Miyazaki Hayao ①
- 第5回：Starting point of Miyazaki Hayao ②
- 第6回：Starting point of Miyazaki Hayao ②
- 第7回：History of Japanese Anime ①
- 第8回：History of Japanese Anime ①
- 第9回：History of Japanese Anime ②
- 第10回：History of Japanese Anime ②
- 第11回：History of Japanese Anime ③
- 第12回：History of Japanese Anime ③
- 第13回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ①
- 第14回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ①
- 第15回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ②
- 第16回：Miyazaki Hayao's Location Scouting in Europe ②
- 第17回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ①
- 第18回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ①
- 第19回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ②
- 第20回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ②
- 第21回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ③
- 第22回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ③
- 第23回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ④
- 第24回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ④
- 第25回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑤
- 第26回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑤
- 第27回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑥
- 第28回：Japanese Culture in Miyazaki's Anime ⑥
- 第29回：Review
- 第30回：Review

**【事前および事後学習の指示】**

詳細は講義中に指示するが、キーワードなど、自分なりの理解が深まるよう努力すること。

**【テキスト】**

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

**【参考文献】**

Hayao Miyazaki : Starting Point 1979 ~ 1996 (2014)

**【コメント】**

Attendance + Term paper and Final examination(in English).

講義名称	曜時
環境経済論Ⅱ (秋)	水 1

**【教員名称】**

浦出 俊和

**【講義概要】**

経済発展と環境保全との両立のためには、まず第一に、環境財・サービスの経済的特質を理解することが必要不可欠である。本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。

環境経済論Ⅱでは、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定である。

**【学習目標】**

本講義では、環境問題の経済的特質を理解することによって、社会にとつて望ましい環境保全のあり方について、各自が考察できるようになることが目標である。

**【講義計画】**

- 第1回：環境問題とは？－環境問題の経済学的意味
- 第2回：市場メカニズムとは？－需要と供給
- 第3回：市場均衡の経済学的意味－経済余剰について
- 第4回：環境問題と市場の失敗
- 第5回：環境問題と外部性(1)
- 第6回：環境問題と外部性(2)
- 第7回：環境問題と公共財(1)
- 第8回：環境問題と公共財(2)
- 第9回：環境政策の経済的手段と最適汚染水準
- 第10回：直接規制－数量規制
- 第11回：間接規制－課徴金制度・補助金制度
- 第12回：数量規制と課徴金制度の比較
- 第13回：京都議定書と排出量取引制度
- 第14回：共有資源の利用と管理
- 第15回：試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

新聞を毎日読むよう習慣付けること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 1) 栗山浩一・馬奈木俊介(著)『環境経済学をつかむ』(有斐閣)
- 2) 日引聡・有村俊秀(著)『入門環境経済学』(中公新書)

**【コメント】**

講義名称	曜時
環境問題概論 (秋集)	水 2/ 金 1

**【教員名称】**

巖 圭介

**【講義概要】**

地球温暖化、リサイクル、化学物質……、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、これからの自分の行動を決めていかねばならない。この講義では、これからの時代を生き抜くうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識と考え方を身につけてもらう。

**【学習目標】**

主要な環境問題(地球温暖化、ゴミ問題、人工化学物質汚染、酸性雨、オゾン層破壊、土壌劣化、水危機、食糧問題、エネルギー問題)について、起きている問題の内容とその原因を説明できる。それぞれの問題に対し、今何がなされているか、何ができるかを人に伝えられる。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地球温暖化1：現状と原因
- 第3回：地球温暖化2：これからの予測
- 第4回：地球温暖化3：適応策と緩和策
- 第5回：地球温暖化4：暮らしと対策
- 第6回：地球温暖化5：バイオマスエネルギー
- 第7回：地球温暖化6：国際的取組み
- 第8回：第1回イン・クラス・レポート
- 第9回：イン・クラス・レポートふりかえり  
原子力エネルギー
- 第10回：ゴミ問題1：基本の枠組みと現状
- 第11回：ゴミ問題2：リサイクル法
- 第12回：ゴミ問題3：容器包装リサイクル
- 第13回：ゴミ問題4：LCA
- 第14回：ゴミ問題5：循環型社会へ
- 第15回：第2回イン・クラス・レポート
- 第16回：イン・クラス・レポートふりかえり  
産業廃棄物
- 第17回：化学物質汚染1：DDTとPCB
- 第18回：化学物質汚染2：ダイオキシン
- 第19回：化学物質汚染3：農薬と化学肥料
- 第20回：化学物質汚染4：リスク論
- 第21回：第3回イン・クラス・レポート
- 第22回：イン・クラス・レポートふりかえり  
水質汚染
- 第23回：水と土の危機
- 第24回：食糧問題
- 第25回：第4回イン・クラス・レポート
- 第26回：イン・クラス・レポートふりかえり  
大気汚染と酸性雨
- 第27回：オゾン層破壊
- 第28回：地球の限界
- 第29回：まとめ：これからの地球に生きる
- 第30回：総復習

**【事前および事後学習の指示】**

日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため穴埋めプリントを配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートを取り、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

環境省編『平成29年版環境・循環型社会・生物多様性白書』、遠山益『人間環境学』装華房2001、安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー1998、東京商工会議所『ECO検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター2017他、松永和紀『メディア・バイアス』光文社2007他、適宜紹介する。

**【コメント】**

イン・クラス・レポートとは、授業時間中に出席してその場で書き上げて提出してもらうレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうことを目的として4回程度実施する。そのほか、実際にいろいろ調査して出してもらうアクションレポートも3回程度実施する。レポートをすべて提出した上で、試験で6割程度得点すれば単位を与える。

講義名称	曜日
監査論 [2] (秋)	木 4

**【教員名称】**  
朴 大栄

**【講義概要】**

2008年9月のいわゆるリーマンショック後の経済停滞は世界的な経済活動の後退を生じさせ、日本においてもこれまで以上の企業倒産を引き起こしてきた。過去においても、長期の不況が多く企業の倒産を誘発してきた。倒産企業においては、経営者による不正や財務諸表の粉飾が判明することもある。最近では、倒産には至っていないものの、東芝やオリンパスの損失隠し事件に関連して会計・監査の信頼性が問題となっている。このような状況のもと、監査の中身に對する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を図らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の情報公開制度ならびに監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義を受講する前に「ディスクロージャー制度論」を受講しておくことが望ましい。

**【学習目標】**

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する金融商品取引法監査ないし会計監査を中心に、監査ならびに企業情報の公開に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。

1. 経済事件の背景を理解する。
2. 企業の情報公開の内容・種類について理解する。
3. 会社法、金融商品取引法、公認会計士法等、監査を取り巻く法律を理解する。
4. 監査の必要性、監査の基礎理論を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：監査とは：監査論の導入部分として、監査の概略を説明します。ビデオなども活用します。
- 第2回：財務諸表監査の歴史の変遷と監査目的の変化 — イギリスからアメリカへ
- 第3回：財務諸表監査の歴史の変遷と監査目的の変化 — 貸借対照表監査から財務諸表監査へ
- 第4回：日本の財務諸表監査発展史
- 第5回：監査基準と監査環境の変化
- 第6回：監査の必要性
- 第7回：監査を要請する法律 — 金融商品取引法
- 第8回：監査を要請する法律 — 会社法
- 第9回：監査を担当する専門家 — 公認会計士と法律
- 第10回：監査を担当する専門家 — 公認会計士法
- 第11回：監査を担当する専門家 — 監査法人と独立性
- 第12回：監査人の義務と責任
- 第13回：監査を取り巻く組織
- 第14回：監査結果の報告
- 第15回：健全な社会と新たな課題 - 社会を揺るがす経済事件

**【事前および事後学習の指示】**

監査論の基礎として、企業情報の開示制度を勉強しておく必要がある。受講生は日本経済新聞の経済欄および証券欄を読んでおくこと。企業の情報公開、証券取引所における株価変動、株主総会等の記事に特に注意しておくこと。

また、各自が就職希望など関心のある企業、業種について、企業情報を新聞やホームページで見えておくこと。

**【テキスト】**

はじめてまなぶ監査論 盛田良久、百合野正博、朴大栄編  
978-4-502-22041-8 中央経済社

**【参考文献】**

講義中に適宜指示する。

**【コメント】**

講義中の態度も含めて、総合的に評価します。

講義名称	曜日
企業倫理論 (秋)	金 1

**【教員名称】**  
谷口 照三

**【講義概要】**

〈職場での倫理的ジレンマを模擬体験してみよう〉

「企業が事業を営む」と言われる。企業の目的は「利益追求」と言われるが、その実現には「事業を効果的に営むこと」が必要である。「事業」とは「提供すべき財やサービス」であり、「効果的に営む」とは、「その事業を社会や人間生活のニーズ（必要性・欠乏感）にตอบสนองするように構想し、実行すること」、さらにそのために「働く人々や他の関係者・関係集団および環境との健全な諸関係を構築すること」の二点に集約できる。この二点の間の上向きの循環過程を形成することは、経営の理想であり、経営の卓越性を漸進的に探求することである。さらに、その道を進むためには、多くの人を構成メンバーとする役割分担のシステムである組織を形成し、それが有効的に機能するのみでなく、生き生きとした状態とならなければならない。そのためには、組織の内外に生じる人々の間での、また集団や団体間の利害関係が調整されていなければならない。このような利害調整は、企業のあらゆる構成メンバーがそれぞれの仕事とのかかわりの中で、なされる必要がある。今日、このような利害関係の調整は、とりわけ倫理的な視点からなれることが要請されている。「倫理的」とは、根本的には「他者への配慮」と言ってよい。今日においては、「他者」の範囲は人間に止まらない。そこには、他の生命や種々の環境が含まれる。企業という組織で働くということは、今日においては、それぞれの仕事をこのような意味での「他者への配慮」を伴った意思決定の中で遂行していくことを意味しており、その重みはますます増している。

しかしながら、このことに関して自覚的であればあるほど、自己の中で「仕事と『他者への配慮』に関してジレンマに陥る可能性が多い。だが、この問題への適切な応答がない限り、人々が『生き生きとした状態』にはならない。いかにして、企業や職場において『倫理にかなった意思決定』が可能か。この問題は、企業という組織と共に個人の課題でもある。本講義では、意思決定に係る倫理的なジレンマの性質と「企業が事業を営む」ことに係る倫理的な意思決定の基盤をよく理解し、その上で、現実起きた問題を題材に、「難しい選択」に悩み、「倫理に合った意思決定」を行おうる「倫理的フィトネス」を習性化するスタート台に立てるような疑似体験を用意する。

**【学習目標】**

この講義を受講する学生諸君は、以下の三つの目標を設定しなければならない。①組織社会と言われる現代社会における代表的な企業を巡ってなぜ倫理が問われるのかを理解し、説明できること。②意思決定上の倫理的ジレンマの性質と倫理的四肢決定の基盤を理解すること。③疑似体験を通し、「倫理に合った意思決定」のプロセスを試行錯誤的に漸進的に身につけること。

**【講義計画】**

- 第1回：「企業と倫理」（原稿を用意し配布）、テキスト「まえがき」
- 第2回：テキスト第1章「『あれも正しい』『これも正しい』 — 誰もが直面する『難しい選択』」
- 第3回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
- 第4回：テキスト第2章「『正』対『悪』の選択 — カギとなる倫理とモラル/パロメーター」
- 第5回：テキスト第3章「『正しい』選択を導く倫理的（エシカル）フィトネス」
- 第6回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
- 第7回：テキスト第4章「核となる価値観（コア・バリュー）」(1)
- 第8回：テキスト第4章「核となる価値観（コア・バリュー）」(2)
- 第9回：テキスト第5章「『あれも正しい』『これも正しい』 — ジレンマパラダイムの本質」
- 第10回：テキスト第6章「その他の三つのジレンマパラダイム」
- 第11回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
- 第12回：テキスト第7章「『難しい選択』の問題を解決するための原理」
- 第13回：テキスト第8章「そして『倫理』が残った」
- 第14回：ケースメソッド（事例を用いた意思決定訓練）
- 第15回：テキスト「エピローグ 健全で誠実な文化を持つ組織を構築する — 経済危機時代における倫理（エシックス）」

**【事前および事後学習の指示】**

学習目標を実現するためには、講義に出席するのは当然とし、講義計画に従いテキストなどを用い、予習および復習を確実に実行しなければならない。特に、テキストに出てくる事例などを自らの問題と捉え、意思決定分析（何が問題なのか（問題の所在）」、「いくつかの考えられる意思決定案の策定（代替案の案出）」、「自分ならどのような決定を行うか（最終案の決定とその理由）」を簡素にまとめて置くこと）を実行することが肝要である。

**【テキスト】**

意思決定のジレンマ ラッシュワース・M・キダー  
978-4-532-16956-5 日本経済新聞出版社

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【コメント】**

毎回「記名式で数分程度の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー」を配布・回収するが、これは主体的に勉強してもらうことを希望しているものであり、出席点ではない。成績の評価は、学期末試験（50%）、課題レポート（50%）によって行うが、いずれも三つの達成目標に対応している。

講義名称	曜時
共通自由特別講義—マルコ福音書を読む 〈秋〉	水 4

**【教員名称】**

滝澤 武人

**【講義概要】**

新約聖書の「マルコ福音書」を最初から順番に読みすすめます。

**【学習目標】**

授業を熱心に聴講し、イエスの人間性と思想を追求してください。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション（新約聖書・マルコ福音書・イエス）
- 第2回：プロローグ・福音（1・1－15）
- 第3回：第1部 召命（1・16－3・12）
- 第4回： //
- 第5回：第2部 選任（3・13－6・6）
- 第6回： //
- 第7回：第3部 派遣（6・7－8・21）
- 第8回： //
- 第9回：第4部 予告（8・22－10・52）
- 第10回： //
- 第11回：第5部 神殿（11・1－13・37）
- 第12回： //
- 第13回：第6部 受難（14・1－15・47）
- 第14回： //
- 第15回：エピローグ・復活（16・1－8）

**【事前および事後学習の指示】**

「特別講義」ですので、予習・復習が必ず必要です。  
テキストをくり返し熟読しながら、深く熟考してください。

**【テキスト】**

新共同訳『新約聖書』（A5判・紙装）  
978-4-8202-3227-8 日本聖書協会

**【参考文献】**

授業中に指示します。

**【コメント】**

試験は「論述式」で実施する予定です。  
教科書（新約聖書）は必ず購入し、毎回必ず持参してください。  
単位取得には、毎回の出席と熱心な聴講が必要です。  
特別講義ですから、キリスト教や聖書に対する知的関心が必要です。

講義名称	曜時
金融論Ⅱ 〈秋〉	月 3

**【教員名称】**

木村 二郎

**【講義概要】**

金融論Ⅱでは、金融政策や金融行政の仕組みや役割の理解につとめます。この講義では、とりわけ近年、世間の耳目を集めている金融政策や金融行政、そして、それらの変化を題材に、金融の現実への理解を促します。

**【学習目標】**

金融現象を理解するための基礎的な観点に立ち、現実の金融の動きを自身で理解する力を獲得し、向上させることを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：講義紹介。スケジュール。
- 第2回：金融政策と金融行政
- 第3回：金融行政の歴史（経済の変化と規制の変化）
- 第4回：金融行政の内容1（日本の金融ビッグバン）
- 第5回：金融行政の内容2（BIS自己資本比率規制）
- 第6回：金融行政の内容3（預金保険制度）
- 第7回：金融政策とは何か
- 第8回：金融政策の戦後史Ⅰ
- 第9回：金融政策の戦後史Ⅱ
- 第10回：金融政策の内容1（金融政策手段）
- 第11回：金融政策の内容2（金融調節の構造）
- 第12回：金融政策の内容3（新しい金融政策手段）
- 第13回：金融政策の内容4（金融政策の限界）
- 第14回：資本主義経済と金融
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

・詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。

**【テキスト】**

金融入門（第2版）〈日経文庫〉日本経済新聞社編  
978-4-532-11367-4 日本経済新聞社

**【参考文献】**

関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄『金融論』青木書店、2000年  
川波洋一・上川孝夫『現代金融論』有斐閣、2004年  
池尾和人『現代の金融入門【新版】』ちくま新書、2010年

**【コメント】**

学期末試験を重視する（80%）。授業時間中に作成する小テスト（レポート）を評価に加える（20%）。

講義名称	曜日
経営学 03 (秋集)	月4/木1

**【教員名称】**

齋藤 巡友

**【講義概要】**

経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生み出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠だけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては多くの人々にとって有用なものである。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、経営学の全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感しやすいように、適宜事例をとりあげて説明する。

**【学習目標】**

本講義の学習目標は以下の通りである。

1. 経営学がどのような学問であるかを理解する
2. 経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。
3. 新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について
- 第2回：経営学とは
- 第3回：企業の特徴
- 第4回：企業の種類
- 第5回：企業の形態 1：会社とは
- 第6回：企業の形態 2：株式会社の特徴
- 第7回：経営組織 1：組織とは
- 第8回：経営組織 2：基本的な組織形態
- 第9回：経営組織 3：職別組織と事業部制組織
- 第10回：経営組織 4：その他の組織形態
- 第11回：経営戦略 1：経営戦略とは
- 第12回：経営戦略 2：新規事業の創造
- 第13回：経営戦略 3：競争戦略
- 第14回：経営戦略 4：多角化戦略
- 第15回：中間試験
- 第16回：企業の国際化
- 第17回：マーケティング 1：マーケティング戦略
- 第18回：マーケティング 2：消費者行動
- 第19回：人的資源管理 1：人事労務管理
- 第20回：人的資源管理 2：モチベーション
- 第21回：人的資源管理 3：リーダーシップ
- 第22回：生産管理 1：テイラーの科学的管理法
- 第23回：生産管理 2：フォード・システム、トヨタ生産方式
- 第24回：財務管理 1：財務諸表からわかる企業の実態
- 第25回：財務管理 2：投資計画の策定
- 第26回：財務管理 3：資金の調達と利益の還元
- 第27回：コーポレート・ガバナンス 1：所有と経営の分離とエージェンシー問題
- 第28回：コーポレート・ガバナンス 2：ガバナンスのメカニズム
- 第29回：企業の社会的責任
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は講義時に指定する）。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探してみる。

**【テキスト】**

ケースに学ぶ経営学 [新版] 谷口明文・西澤昭夫・権奇哲・大滝精一・福岡路・安田一彦・藤本雅彦・澁谷寛・高浦康有  
978-4-641-18358-2 有斐閣

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【コメント】**

中間試験および学期末試験に基づき成績評価を行う。  
なお、講義に対して積極的に参加（講義中に発言するなど）している学生には別途加点する。

講義名称	曜日
経営学 04 (秋集)	火5/金4

**【教員名称】**

正亀 芳造

**【講義概要】**

経営学は、企業（会社）を対象とする学問です。本講義では、企業（会社）の仕組みや行動を可能な限り具体的事例を交えながら講義します。  
大学を卒業すれば、皆さんの多くが働く場として選ぶのは企業です。あるいは、起業したいと思っている人もいるでしょう。本講義の目的は、皆さんの将来にとってこのように深い関わりを持つ企業について、その基本的知識を身につけることにあります。

**【学習目標】**

本講義は、以下の4つを学習の到達目標としています。

- 目標1：会社の役割と仕組みを説明できる。  
目標2：会社における社員の役割、モチベーション、育成について説明できる。  
目標3：会社の基本職能について説明できる。  
目標4：現代企業の新動向について説明できる。  
補 足：毎回の授業で話す「重要キーワード」について説明できれば、目標1～4は達成することができます。

**【講義計画】**

- 第1回：授業の進め方
- 第2回：会社の経営とはどんなことか
- 第3回：会社はどのようにして社会に役立っているのか
- 第4回：会社は誰が動かしているのか（1）株式会社とその機関
- 第5回：会社は誰が動かしているのか（2）コーポレートガバナンス
- 第6回：会社は誰が動かしているのか（3）コーポレートガバナンスの改革
- 第7回：会社はどのような方針で動いているのか（1）経営理念
- 第8回：会社はどのような方針で動いているのか（2）経営戦略
- 第9回：会社はどんな仕組みで動いているのか（1）経営組織の基本モデル
- 第10回：会社はどんな仕組みで動いているのか（2）日本の経営組織
- 第11回：第1回中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
- 第12回：会社は他の会社とどのように協力しているのか（1）企業集団と系列・下請
- 第13回：会社は他の会社とどのように協力しているのか（2）ネットワーク組織、戦略的提携
- 第14回：会社はどのようにしてモノを造るのか（1）テイラー・システム
- 第15回：会社はどのようにしてモノを造るのか（2）フォード・システムとその後
- 第16回：社員は仕事をどのように分担しているのか
- 第17回：社員はなぜ働くのか（1）モチベーション
- 第18回：社員はなぜ働くのか（2）リーダーシップ
- 第19回：社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（1）雇用システム
- 第20回：社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（2）雇用管理の新動向
- 第21回：第2回中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
- 第22回：社員はどのような報酬を求めるのか（1）報酬と賃金
- 第23回：社員はどのような報酬を求めるのか（2）賃金体系の変遷
- 第24回：社員はどのようにして育てられるのか（1）人材育成
- 第25回：社員はどのようにして育てられるのか（2）キャリア・デザイン
- 第26回：会社はどのようにしてモノを売るのか
- 第27回：会社は海外でどのようにして経営しているのか
- 第28回：会社は利益をどのようにして測定するのか
- 第29回：会社は資金をどのように調達しているのか
- 第30回：第3回中間確認テストとこれまでの講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

第2回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指定したテキストの該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。また、講義の受講後は、重要キーワードを中心に復習するとともに、他の文献や資料を活用してさらに深く調べるように努力すること。

**【テキスト】**

経験から学ぶ経営学入門 上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明 有斐閣

**【参考文献】**

吉田和夫・大橋昭一（監修）深山明・海道ノブチカ・廣瀬幹好（編）『最新基本経営学用語辞典（改訂版）』同文館出版、2015年。  
その他、講義中に適宜指示します。

**【コメント】**

期末試験の成績をもとに評価を行います。  
ただし、講義中の優れた質問ないし発表、レポートの成績の合計を期末試験の成績に加点します。（加点についての詳細は、第1回目の講義時に説明します。）

講義名称	曜時
経営学史B (秋)	火 1

**【教員名称】**

野田 俊範

**【講義概要】**

経営学は、ドイツとアメリカにおいて 20 世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。

本講義では、そのドイツ経営学のなかでも特に経営社会学と呼ばれる学問の、生成・展開の歴史を概観する。あわせて、経営における人間過程に関する具体的現実としての経営社会政策についても取り上げる。ドイツ経営社会学・経営社会政策の歴史を学ぶことを通じて、経営共同体の理念を中心概念とするドイツ的な経営思想の意義や可能性について考えてほしい。

**【学習目標】**

1. 経営社会学の歴史を学ぶ。
2. 経営社会政策の歴史を学ぶ。
3. ドイツ的経営思想・経営理念について考える。

**【講義計画】**

- 第 1 回：はじめに  
 第 2 回：経営社会学の生成  
 ー 経営社会学とは何か  
 第 3 回：古典派の経営社会学 (1)  
 ー ドイツ合理化運動の展開  
 第 4 回：古典派の経営社会学 (2)  
 ー 経営社会学の萌芽  
 第 5 回：古典派の経営社会学 (3)  
 ー 経営社会学と労働疎外…ブリーフスの労働疎外論  
 第 6 回：近代派の経営社会学 (1)  
 ー 技術と人間労働の和解…ポピッツ・グループによる研究  
 第 7 回：近代派の経営社会学 (2)  
 ー 技術の進歩と「労働の二極分化」…ケルン=シューマンによる研究  
 第 8 回：ドイツの経営政策と経営理念 (1)  
 ー ヘル・イム・ハウゼの労資関係  
 第 9 回：ドイツの経営政策と経営理念 (2)  
 ー 企業自主化の構想/立憲的工場制度  
 第 10 回：ドイツの経営政策と経営理念 (3)  
 ー 経営共同体思考の展開  
 第 11 回：共同決定と経営社会学 (1)  
 ー ドイツにおける共同決定制度  
 第 12 回：共同決定と経営社会学 (2)  
 ー 共同決定と経営社会学  
 第 13 回：労働の人間化と経営社会学 (1)  
 ー ドイツにおける労働の人間化  
 第 14 回：労働の人間化と経営社会学 (2)  
 ー 労働の人間化と経営社会学  
 第 15 回：おわりに

**【事前および事後学習の指示】**

適宜指示します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

若尾祐司/井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005 年。  
 面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998 年。  
 その他、必要に応じて適宜指示する。

**【コメント】**

学期末試験により評価する。

講義名称	曜時
経営学特別講義—日本企業のグローバル戦略(秋)	月 2

**【教員名称】**

櫻井 結花

英語による・インテ

**【講義概要】**

This class is designed especially for exchange students and Japanese students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy. The aim of this course is to examine various issues that contemporary Japanese companies have been facing with the changing business environment in the rapidly globalized economy. Lectures are given by guest speakers who are former and current executives of renowned Japanese trading companies and/or manufacturing companies. Lectures are conducted in English.

**【学習目標】**

The aim of this course is to help students to understand major issues that Japanese companies have been facing with in the changing business environment and the global economy.

**【講義計画】**

- 第 1 回：Overview: The current world economy and Japanese economy  
 第 2 回：Trade and investment relations between Japan and other countries  
 第 3 回：The European Union in a changing global environment  
 第 4 回：Japanese economic growth in the globalized economy  
 第 5 回：Business strategies of Japanese firms after rehn shock  
 第 6 回：Challenges and perspective of Japanese firms  
 第 7 回：Production system in the Japanese firms: Vertically integrated model  
 第 8 回：Production system in the Japanese firms: Horizontally divided model  
 第 9 回：Case study: Japanese electric appliance manufacturers  
 第 10 回：Case study: Sogo shosha (general trading companies)I  
 第 11 回：Case study: Sogo shosha (general trading companies)II  
 第 12 回：Understanding culture in international business  
 第 13 回：Thailand: the major destination of Japanese foreign direct investment  
 第 14 回：China: a burgeoning economic powerhouse  
 第 15 回：India: a fast growing market

**【事前および事後学習の指示】**

You are encouraged to read three newspaper articles in relation to Japanese firms every day.  
 As lectures are conducted in English, Japanese students are required to improve their English efficiency prior to attend the class.

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

Attendance means participation which include in-class discussions and mini-tests.

講義名称	曜時
経営学特講—会計とグローバル化(秋)	木 1

**【教員名称】** 英語による  
柴 梨梨亜

**【講義概要】**  
この講義は英語と日本語を交えて、グローバルな視点で会計について考えることができるために、様々な視点から会計について学習する。それぞれの意見を交換して、様々な考え方や発想を学ぶ。  
This class will be conducted in English and Japanese. We will learn about the role of accounting in the global economy. We will exchange opinions and learn about new concepts.

**【学習目標】**  
会計や関連知識の学習とともに、様々なビジネスの専門英語学習や文化について理解する。  
プレゼンテーション能力を高める。  
The goal will be to learn about accounting in relation to other fields, as well as learn Japanese technical words on accounting and understand culture differences. Also to improve presentation skills.

**【講義計画】**

- 第1回：講義の流れやメインテーマや活動内容についての紹介。  
Introduction and brief explanation of the class main theme and learning activities.  
世界経済とグローバル化。  
World economy and globalization
- 第2回：国際的な事業の展開。  
Doing business worldwide
- 第3回：ビジネスと会計。なぜ会計が必要なのか。  
Business and accounting. Why accounting is necessary?
- 第4回：経済と会計。会計がどのように経済に影響しているのか。  
Economy and accounting. How accounting influences economy?
- 第5回：会計と文化。どうして会計は各国で異なる発展をしてきたのか。  
Accounting and culture. Why accounting had developed differently in each country?
- 第6回：会計と環境。環境会計とは何か？  
Accounting and environment. What is environmental accounting?
- 第7回：会計の道具である簿記の発祥の歴史。  
Brief history of bookkeeping, which is the tool of accounting.
- 第8回：簿記と会計  
Bookkeeping and accounting
- 第9回：会計の目的  
Objectives in accounting
- 第10回：会計原則と会計基準。世界共通の基準に向けた動き。  
Accounting principles and accounting rules.  
The movement towards having a uniform international accounting rules.
- 第11回：企業の財務報告  
Financial reporting of enterprises
- 第12回：財務報告の事例プレゼンテーション  
Presentations of financial reporting of listed companies
- 第13回：財務報告の事例プレゼンテーション  
Presentations of financial reporting of listed companies
- 第14回：世界と国際財務報告基準 (IFRS)  
International Financial Reporting Standards (IFRS) worldwide
- 第15回：総括と討議  
Final review and discussions

**【事前および事後学習の指示】**  
講義の一部は英語で実施されるので、英語でコミュニケーションがとれるための学習をしておくこと。  
Part of the class will be in Japanese, so try to study some Japanese important phrases

**【テキスト】**

**【参考文献】**  
必要に応じてプリントを配布  
Printed material will be distributed in class

**【コメント】**  
テキストがないため、クラスでの説明、議論や発言がとても大切。学生は最後にスライドを準備してプレゼンに挑戦してもらいます。  
The discussions and work in class are very important.  
Students will be required to make a presentation in class at the end.

講義名称	曜時
経営財務論 (応用) (秋)	木 3

**【教員名称】**  
齋藤 巡友

**【講義概要】**  
企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な使途および配分を決定することである。経営財務論では、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達の段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資の段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分 (利益還元) の段階である。本講義では、経営財務の基礎的な知識を前提とした上で、これらの財務的意思決定に関して現実の企業が直面している問題の本質を理解するのに役立つ概念や理論について学ぶ。

**【学習目標】**  
経営財務に関する諸問題を理解するための知識を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの構築が本講義の目標である。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について。経営財務論 (基礎) の復習
- 第2回：投資の意思決定 1：キャッシュフローの算出
- 第3回：投資の意思決定 2：投資の評価手法
- 第4回：株式による資金調達
- 第5回：負債による資金調達
- 第6回：資本構成の理論 1：MM の無関係理論
- 第7回：資本構成の理論 2：トレードオフ理論、ペッキング・オーダー理論
- 第8回：利益還元政策 1：MM の配当無関係理論
- 第9回：利益還元政策 2：配当および自社株買いに関する代表的な理論・仮説
- 第10回：日本企業の財務政策
- 第11回：コーポレート・ガバナンス 1：エージェンシー問題とは
- 第12回：コーポレート・ガバナンス 2：日本企業のコーポレート・ガバナンス
- 第13回：デリバティブと企業のリスクマネジメント
- 第14回：M&A (企業合併・企業買収) について
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**  
講義前に講義資料をアップロードするので、準備学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**  
砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門 (第2版)』日本経済新聞社  
高橋文郎・井出正介著『経営財務入門 第4版』日本経済新聞出版社  
米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ  
リチャード＝ブリーリー・スチュワート＝マイヤーズ・フランクリン＝アレン著  
『コーポレートファイナンス 第10版上』日経BP社  
『コーポレートファイナンス 第10版下』日経BP社  
ジョナサン＝パーク・ピーター＝ディマーズ著  
『コーポレートファイナンス入門編第2版』丸善出版株式会社  
『コーポレートファイナンス応用編第2版』丸善出版株式会社  
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社  
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社

**【コメント】**  
学期末試験および小テスト、レポートに基づき成績評価を行う。

講義名称	曜日
経営分析論 (秋)	月 4

**【教員名称】**

小澤 義昭

**【講義概要】**

「企業のミカタを教えます。 実践経営分析の力を身につける。」  
 経営分析は、対象となった企業の財務諸表だけでなく、同業他社との比較、数期間の推移の分析を通して、企業がどれだけ「稼いでいるか」と言う収益性、「資金がどれだけ継続的に回転しているのか」を示す安全性、「この企業の将来はどうか」を示す成長性及び「この会社の付加価値等に問題はないか」を示す生産性を総合的に把握する手段を学ぶものです。この講義を通して、このような分析能力をつけていただき、社会に出た時に直接役に立つ知識を身につけていただきたいと思います。

**【学習目標】**

この講義の目的は、経営分析の一般的な手法を身につけ、企業の価値を数値的な面から評価できる能力を身につけていただくことにあります。経営分析入門を受講頂いた上で、授業を真面目に聞いて一緒に勉強していただければその力をつくつと信じています。なお、この講義は、春学期の「経営分析入門」を受講されているのを前提に話を進めさせていただきます。

**【講義計画】**

- 第1回：経営分析の目的と考え方及び手法の概要  
(経営管理に役立てるため、投資判断のために必要な情報を会社の数値から分析する基礎を学びます。)
- 第2回：安全性の分析 (その1)  
(資金の状況から支払能力をみて、会社の倒産からの安全性を学習します。)
- 第3回：安全性の分析 (その2)  
(資金の状況から支払能力をみて、会社の倒産からの安全性を学習します。)
- 第4回：安全性の分析 (その3)  
(資金の状況から支払能力をみて、会社の倒産からの安全性を学習します。)
- 第5回：収益性の分析 (その1)  
(企業の利益をあげる力を見ようとするのが、収益性の分析です。これを基礎から学習します。)
- 第6回：収益性の分析 (その2)  
(企業の利益をあげる力を見ようとするのが、収益性の分析です。これを基礎から学習します。)
- 第7回：収益性の分析 (その3)  
(企業の利益をあげる力を見ようとするのが、収益性の分析です。これを基礎から学習します。)
- 第8回：生産性の分析 (その1)  
(生産効率の良しあしを生産性といいます。これを基礎から学習します。)
- 第9回：生産性の分析 (その2)  
(生産効率の良しあしを生産性といいます。これを基礎から学習します。)
- 第10回：生産性の分析 (その3)  
(生産効率の良しあしを生産性といいます。これを基礎から学習します。)
- 第11回：成長性の分析 (その1)  
(企業が発展する力を判断するのが成長性です。これを基礎から学習します。)
- 第12回：成長性の分析 (その2)  
(企業が発展する力を判断するのが成長性です。これを基礎から学習します。)
- 第13回：総合分析 (その1)  
(企業の総合力を分析します。)
- 第14回：総合分析 (その2)  
(企業の総合力を分析します。)
- 第15回：総まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

予習の必要はありませんが、授業の後に復習を少しでもしていただければと考えています。

**【テキスト】**

レジュメを作成してお渡しする予定です。  
 経営分析の基本 (第5版) 佐藤裕一 978-4-532-11925-6 日本経済新聞出版社  
 経営分析の知識 岩本繁 日本経済新聞出版社

**【参考文献】**

講義中に参考文献を紹介させていただきます。

**【コメント】**

授業への出席と理解度を判定するために、授業中に配布したレジュメを参照しながら、授業中に小テストを2回実施します。これは資料を見ながらのテストですので、授業にきちんと出席していれば、それほど難しいものではありません。これを上記で「出席」と称しています。また、受講者の理解度を確かめるための期末テストを持ち込み不可で実施します。これを上記では「試験」と称しています。これらを総合的に勘案して評価させていただくつもりです。

講義名称	曜日
経済開発論Ⅱ (秋)	月 1

**【教員名称】**

望月 和彦

**【講義概要】**

本講では、経済発展に密接に関係する資源問題、環境問題、人口問題を扱う。資源問題と環境問題においては、世間一般で主張されているものとは異なる考え方があることを紹介することにより、多面的なものの見方・考え方を理解する。

**【学習目標】**

本学の教育の目標である「世界の市民の養成」に則り、世界の市民にふさわしい知識と判断力を涵養する。単に教員が一方的に話しをするのではなく、受講生に質問を通して言葉のやりとりをすることにより講義を進めていく形式をとる。

**【講義計画】**

- 第1回：導入 本講の基本的な考え方 科学的思考とその対立物
- 第2回：資源問題の起源 産業革命以前の世界
- 第3回：エネルギー転換としての産業革命
- 第4回：資源問題
- 第5回：環境問題総論
- 第6回：環境問題各論 その1 オゾン層破壊
- 第7回：環境問題各論 その2 地球温暖化
- 第8回：環境問題各論 その3 種の多様性など
- 第9回：環境問題各論 その4 廃棄物
- 第10回：経済成長の制約はあるか
- 第11回：人口問題 人口の意義
- 第12回：歴史的な人口動態と人口の抑制因
- 第13回：経済発展と人口
- 第14回：人口減少社会の衝撃
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

毎回配布されるプリントと各自のノートで復習を行うこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

プリントに書かれている資料が参考文献となる。

**【コメント】**

2回の小テストとレポートで成績評価を行う。ただし受講者数により小テストが実施できない場合には、レポートと期間内試験のみによって成績評価を行うことになる。

講義名称	曜時
経済学 05 〈秋集〉	月4/木3

**【教員名称】**

澤田 鉄平

**【講義概要】**

経済学は体系的な学問であるが、学派があり、それぞれの考え方に特徴がある。中でも本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な部分を扱う。範囲は公務員試験程度とし、市場、各経済主体の活動、一国経済、国際経済を網羅的に講義する。一部数学を使うことになるため、講義でも復習するが、学生自身が十分に準備すること。

**【学習目標】**

経済学の基礎を習得し、実践的に活用できること。

**【講義計画】**

- 第1回：ミクロ経済学概論
- 第2回：2次関数と微分の復習
- 第3回：消費者行動Ⅰ——効用関数と予算制約
- 第4回：消費者行動Ⅱ——効用最大化、需要関数、弾力性
- 第5回：企業行動Ⅰ——費用関数
- 第6回：企業行動Ⅱ——利潤最大化
- 第7回：完全競争市場Ⅰ——均衡理論
- 第8回：完全競争市場——余剰分析ほか
- 第9回：不完全競争市場Ⅰ——独占
- 第10回：不完全競争市場Ⅱ——寡占・複占・ゲーム理論
- 第11回：市場の失敗Ⅰ——外部効果
- 第12回：市場の失敗Ⅱ——情報の非対称性・公共財・政府の役割
- 第13回：国際貿易Ⅰ——自由貿易均衡と貿易政策
- 第14回：国際貿易Ⅱ——比較生産費説
- 第15回：ミクロ経済学まとめ
- 第16回：マクロ経済学概論
- 第17回：財市場の分析Ⅰ——消費関数・貯蓄関数
- 第18回：財市場の分析Ⅱ——IS曲線
- 第19回：金融市場の分析Ⅰ——貨幣供給と貨幣需要
- 第20回：金融市場の分析Ⅱ——LM曲線
- 第21回：IS-LM分析
- 第22回：消費と投資
- 第23回：総需要曲線
- 第24回：総供給曲線
- 第25回：AD-AS分析
- 第26回：インフレーション
- 第27回：経済成長理論
- 第28回：国際マクロ経済Ⅰ
- 第29回：国際マクロ経済Ⅱ
- 第30回：マクロ経済学まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

数学が苦手な学生も多いことと思うが、2次関数と微分、グラフを多用するため、あらかじめ高校のテキスト程度の数学を予習し、講義中に配布する問題・解答をよく復習すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

西村和雄 (1995) 『ミクロ経済学入門』岩波書店  
 二神 孝一、堀 敬一 (2009) 『マクロ経済学』有斐閣  
 ほか

**【コメント】**

講義名称	曜時
経済学史Ⅱ [2] 01 〈秋〉	水3

**【教員名称】**

北田 了介

**【講義概要】**

授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。本講義は、17世紀以来の経済学説（重商主義から古典派経済学、およびマルクスの経済学）とその時代背景ををたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。

**【学習目標】**

経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、社会がいかなる知の形式から成立しているかをさぐっていく。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション  
経済学および経済学史を学ぶことの意義
- 第2回：重商主義から重農主義へ
- 第3回：アダム・スミスの経済思想（1）  
道徳哲学と「同感」
- 第4回：アダム・スミスの経済思想（2）  
分業論から価値・価格論
- 第5回：アダム・スミスの経済思想（3）  
経済発展の歴史と「重商主義」批判
- 第6回：マルサスの経済思想（1）  
人口をめぐる公準と人口抑制のための命題
- 第7回：マルサスの経済思想（2）  
救貧法の歴史と救貧法批判
- 第8回：リカードの経済思想（1）  
古典派経済学における価値論の方向付け
- 第9回：リカードの経済思想（2）  
収穫逦減法則と利潤率の低下
- 第10回：リカードの経済思想（3）  
比較生産費説と穀物論争
- 第11回：J.S. ミルの経済思想  
定常状態論からアソシエーション論へ
- 第12回：マルクスの経済思想（1）  
『初期マルクス』：ヘーゲル批判から『経済学・哲学草稿』へ
- 第13回：マルクスの経済思想（2）  
商品論と剰余価値論
- 第14回：マルクスの経済思想（3）  
資本蓄積論
- 第15回：その後の展開と秋学期のまとめ  
限界革命からケインズの登場

**【事前および事後学習の指示】**

教科書をつかった講義前の予習および講義後の復習が必要。とりわけ教科書内に示されている章末問題については定期試験に反映されるため、しっかりと調べておくことが望まれる。

**【テキスト】**

教養としての経済思想 北田了介（編著） 萌書房

**【参考文献】**

講義内で随時紹介する。

**【コメント】**

授業では毎回、出席とともに簡単な問題に回答してもらいます。無回答の場合は減点の対象となります。

講義名称	曜時
経済学特別講義—戦後日本経済の光と影〈秋〉	水 2

**【教員名称】** 英語による  
伊代田 光彦

**【講義概要】**  
After World War II the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?

The lecture shows historical changes of the Japanese economy by using tables and figures in the beginning. Then it focuses on the following three points: (a) rapid economic growth and its bright and gloomy sides, (b) the bubble economy and its consequences, and (c) some current topics. We show some lessons from the lecture above (a) and (b).

**【学習目標】**  
The purpose of this lecture is: (a) to learn some lessons from rapid economic growth and the bubble economy, and (b) at the same time to grasp an overview of the development of the postwar Japanese economy.

**【講義計画】**  
第1回：1. Introduction  
Introduction (lecture guide, plan, etc.)  
第2回：2. Historical Changes of the Japanese Economy  
Facts (economic growth, economic structure)  
第3回：Reforms and the beginning of strong growth  
第4回：\* Presentation by the students  
Education system and the problems in his or her country  
第5回：3. Rapid Economic Growth  
General background  
第6回：Positive effects  
第7回：Negative effects  
第8回：Towards a welfare-oriented society  
第9回：4. Bubble Economy and its Consequences  
Bubble age (burst, triggering role of policies)  
第10回：The process of bursting the bubble  
第11回：Its consequences (bad loan, outstanding government bonds)  
第12回：5. Some Current Topics  
Income and asset distribution  
第13回：Typical household and pension scheme  
第14回：6. Concluding Remarks  
The quality of life in the mature society  
第15回：Summary

**【事前および事後学習の指示】**  
Study guide: To review the handout is needed, which makes sure of your lecture understanding. This is your minimum requirement for the next lecture. Studying textbook is strongly recommended.

**【テキスト】**  
Postwar Japanese Economy: Lessons of Economic Growth and the Bubble Economy Iyoda, Mitsuhiro (2010).  
978-1-4419-6331-4 Springer Handouts will be provided. Use the library for the textbook.

**【参考文献】**  
Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap.3, Massachusetts Institute of Technology.  
Nakamura, Takafusa (1995). The Postwar Japanese Economy, 2nd ed., University of Tokyo Press.  
Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap.3, Cambridge University Press.  
Itoh, Makoto (2000). Japanese Economy Reconsidered, chap.4, Palgrave.

**【コメント】**  
Evaluation will be based on attendance (30%) and two papers (reports)(70%).

講義名称	曜時
経済学特講—英語で学ぶ世界の中の日本経済〈秋〉	木 2

**【教員名称】** 英語による  
モグベル ザファル

**【講義概要】**  
This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies that supported its postwar economic growth. Lectures will focus on familiarizing economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations, and on examining the Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

**【学習目標】**  
The course will start with an review of the Japanese economy in the world economy today, and will move on from there to a presentation of one topic per session. Topics will be drawn from current issues of concern related primarily to the Japanese economy, but also to social and political developments in Japan. Lectures and class discussions will be conducted in English and require a high level of English proficiency. Students will be expected to actively contribute to the discussion portion of the lectures. Note that the order and content of topics are subject to change.

**【講義計画】**  
第1回：Overview of the Japanese economy in the world economy  
第2回：Japan's geo-political environment and unresolved territorial issues  
第3回：Facing the daunting challenges of globalization  
第4回：Basic principles of international balance of payments  
第5回：Japan's merchandise trade  
第6回：Japan's trade in services  
第7回：Japan's international investments  
第8回：Japan in the Trans-Pacific Partnership  
第9回：Japan and East Asian economic integration  
第10回：Japan and its competitors in the world economy  
第11回：Trade friction and its legacy  
第12回：Policies and strategies in Japan's international economic assistance  
第13回：Postwar history of the yen in the foreign exchange market: Part 1  
第14回：Postwar history of the yen in the foreign exchange market: Part 2  
第15回：Summarization and discussion  
Alternative scenarios for Japan in the global economy

**【事前および事後学習の指示】**  
Instructions for class preparation:  
1. Read materials in advance and be prepared to participate in discussion.  
2. Be prepared to ask questions on topics of study, and provide comparative information on the economy of your home country.

**【テキスト】**

**【参考文献】**  
No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

**【コメント】**  
Attendance will be taken in class. Final grade will be based on attendance, contribution to class discussion and result of test given at the end of the semester.

講義名称	曜時
経済学特講—経済学部に必要な中高数学 02(秋)	木 2

【教員名称】  
孟 哲男

【講義概要】

本講義では経済学を学ぶ上で、最低限理解しておく必要がある数学を基礎から復習しつつ身につけることを目的とします。毎回の授業は基本的に、「前回の演習問題の解説」→「公式や例題の解説」→「問題演習」という流れで進めていきます。なお、受講生のレベルに応じて講義の内容および演習問題の難易度を微調整していく予定です。

【学習目標】

高校レベルの数学が経済学においてどのような形で応用されるかを実感してもらい、また例題を十分理解し自分で演習問題が解けるようになることを目標とします。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：数学記号と演算
- 第3回：一次関数とグラフ
- 第4回：グラフ、連立方程式の応用（需要・供給分析、余剰分析）
- 第5回：グラフ、連立方程式の応用（45度線分析）
- 第6回：数列とその応用例
- 第7回：二次関数とグラフ
- 第8回：グラフの平行移動
- 第9回：指数、対数
- 第10回：導関数の概念
- 第11回：微分の法則
- 第12回：微分の応用例（利潤最大化問題）
- 第13回：微分の応用例（価格弾力性）
- 第14回：総復習（1）
- 第15回：総復習（2）

【事前および事後学習の指示】

授業中に配布した演習問題は、例題を参考にして最初から最後まで自分でやってみること。授業中に解き残された演習問題は、次回の授業開始前までに必ずやっておいてください。  
配布したプリント（例題や演習問題）は、まとめて保管し、毎回持参してください。

【テキスト】

【参考文献】

- E. ドウリング (1995) (大住栄治・川島康男訳) 『例題で学ぶ入門・経済数学』シーエーピー出版。
- 石川秀樹 (2015) 『経済学と(経済学、ビジネスに必要な)数学がイッキにわかる!!』学習研究社。
- 木村哲三・浦田健二 (2010) 『経済学を学ぶための基礎数学』同文館出版。

【コメント】

「試験」の得点のみで評価します。

講義名称	曜時
経済学特講—社会的連帯経済とワーカーズコープ(秋)	水 4

【教員名称】  
津田 直則

インテ

【講義概要】

現代資本主義社会には多くの問題が累積し危機が進行している国も多い。しかし欧州では新たな社会への潮流が各国で広がっている。それが非営利組織の集まりからなる非営利セクターであり、欧州では国内だけでなくEUその他の国際組織でも「社会的連帯経済」と呼ばれている。その事業規模はイタリアのようにGDPの10%を超える国まで現れている。

社会的連帯経済の中心は協同組合で、生協や農協などの伝統的協同組合に加えて各国で労働者協同組が革新を起こしている。日本の非営利セクターや伝統的協同組合は、ばらばらでまとまりがなく衰退させているが、労働者協同組合は日本では法律が存在しないにもかかわらず種々の法人格を使って発展している。その中でもワーカーズコープ連合会は、事業高300億円を超え、連帯精神が優れた協同組合として地域社会の各種課題に協力、協同、連帯により取り組んでいる。講義では世界の社会的連帯経済の潮流、新たな文明への可能性、日本のワーカーズコープの事業活動の最前線などについて講義する。

【学習目標】

- 1) 社会的連帯経済とは何かを世界的レベルで理解すること。
- 2) 資本主義経済と社会的連帯経済との違いについて理解すること。
- 3) ワーカーズコープがどのような事業や活動をしているかについて理解すること。

【講義計画】

- 第1回：社会的連帯経済と非営利組織
- 第2回：ワーカーズコープの歴史と理念
- 第3回：資本主義パラダイムと新しい社会のパラダイム
- 第4回：映画『ワーカーズ2』上映と振り返り
- 第5回：東北復興と住民主体のまちづくり、ワーカーズコープづくり
- 第6回：中山間地域の地域おこし・仕事おこし（林業・再生可能エネルギー）
- 第7回：関西地域でのワーカーズコープの実践①
- 第8回：関西地域でのワーカーズコープの実践②
- 第9回：地域で循環するコミュニティ経済を目指して
- 第10回：地域の財産から、若者自身が仕事をおこすこと
- 第11回：寝たきりにしない、させない。「仕事」「福祉」「生きがい」を自らの手で
- 第12回：地域の課題、自分の困難から地域づくり、仕事おこしを考えよう①（ワークショップ）
- 第13回：地域の課題、自分の困難から地域づくり、仕事おこしを考えよう②（ワークショップ）
- 第14回：協同で働くこととは（全国のワーカーズコープ論寄附講座から）
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

配布資料は授業終了後にSドライブに入れるので見ること。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

- 1) 講師の希望によりレポート提出の可能性あり。
- 2) 出席カードは度々配り試験評価への参考にする。

講義名称	曜時
経済学特講－ニュースでわかる中国語Ⅱ（秋）	木 3

**【教員名称】**

石黒 亜維

**【講義概要】**

この科目は、中国語初級以上の能力を持つ学生対象の科目である。  
近年中国は政治的にも経済的にも存在感を高めている。日本との関係について言えば、とりわけ経済的繋がりがますます重要なものとなっている。他方で日中間には、歴史認識、経済権益などをめぐってさまざまな問題が存在し、ことあるごとに双方の民衆的ナショナリズムが噴出する状況にある。このような日中関係を中国のマスメディア（媒体）はどのようにとらえているのであろうか。

本講義では、中国で発行されている新聞・雑誌などの出版物および映像メディア等から、主に日中関係、日中文化比較に関するトピックを取り上げ、それらに関連する中国語の文章を講読する。受講者には毎回中国語文の音読、逐語訳をしてもらい、中国語と日本語の言語的な特徴についても考えていきたい。講義では映像資料も適宜活用する。なお、「ニュースでわかる中国語Ⅱ」では、主に政治・経済、芸能・文化にかかわる領域に対する理解を深めることを重視する。

**【学習目標】**

中国語文の日本語への逐語訳を通じて、日中双方のロジックを理解する。物事を多角的に見ることが出来る目を養い、日中相互認識の差異および特徴をとらえる。

**【講義計画】**

- 第1回：中国のメディア事情①
- 第2回：中国のメディア事情②
- 第3回：中国の新聞を読む①
- 第4回：中国の新聞を読む②
- 第5回：中国の新聞を聴く①
- 第6回：中国の新聞を聴く②
- 第7回：中国の映像メディアを読み解く①
- 第8回：中国の映像メディアを読み解く②
- 第9回：中国の映画、音楽から考える①
- 第10回：中国の映画、音楽から考える②
- 第11回：中国の放送メディアを読む①
- 第12回：中国の放送メディアを読む②
- 第13回：現代中国の政治・経済を理解する①
- 第14回：現代中国の政治・経済を理解する②
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

映画「クレイジー・イングリッシュ」の主人公李陽は、外国語の学習方法について「最大声」「最快速」「最明晰」という「三最口腔」（“口”の三大原則）を提唱しています。自宅で予習・復習する際にも、授業で取りあげた文章は「大きな声」で朗読するよう心がけて下さい。また言葉の背景となる文化を理解するために、日頃より新聞や雑誌などのメディアを通じてさまざまな関連情報を収集するよう努めてください。

**【テキスト】**

オリジナル教材として適宜配布する。

**【参考文献】**

必要に応じて参考文献を紹介する。

**【コメント】**

出席状況（受講態度を含む）、学期末試験および授業で行う小レポートから総合的に判断する。  
なお、筆記試験の内容は中国語文読解問題を中心としたものである。

講義名称	曜時
経済学のための数学入門〔2〕（秋）	木 4

**【教員名称】**

藤間 真

**【講義概要】**

この講義は、経済学を勉強するのだが、数学が苦手で不安に思っている、あるいは、実際に困っている諸君を対象にしています。具体的には、次のような諸君です。

- (1) 経済学を始める前に、不安な数学を必要な範囲で勉強しておきたいという諸君
- (2) 経済学の勉強を始めたが、数学が苦手なのでよくわからないという諸君
- (3) 経済学の大部分は理解できたのだが、計算の部分がわからないという諸君
- (4) 面倒な計算練習抜きで経済学を理解したいという諸君

講義は、指定した教科書（必要最低限のことを詳しく書いたもの）を毎回1章ずつ解説して進める予定です。その際、面倒な計算をできるだけPCにやらせるやり方も説明します。

きちんと予習し、きちんと出席し、きちんとノートを取り、きちんと練習問題に取り組み、苦手な諸君も、必要最低限の数学的能力が身につくはずですよ。

ただし、高校までの数学とは違う切り口で進めますから、大学入試までの勉強法とは違う勉強法が必要になります。

なお、受講生数がPC実習室の定員を大幅に超えた場合、PC利用の比率を下げる場合があります。

**【学習目標】**

この講義では、経済学を本格的に学ぼうとすると必要となる数学の基礎知識を、マスターしてもらうことを目標としています。

また、そのために有用なPC用のソフトウェアになれることも目標としています。

**【講義計画】**

- 第1回：第1回はオリエンテーションを行います。履修する予定の人、履修するか迷っている人は、出席することを強く推奨します。
- 第2回：数学をパソコンでするとき、有用なソフトについて  
数学の学び方について
- 第3回：利子のつき方の違いが将来の大きな違い－単利と複利の計算－
- 第4回：今の100万円と1年後の100万円は価値が違う!?  
－割引現在価値－
- 第5回：土地の値段を求めよう－等比数列の和（等比級数）の計算－
- 第6回：数式アレルギーを癒す Part I  
－経済学に必要なところだけざっくり復習－
- 第7回：数式アレルギーを癒す Part II  
－経済学に必要なところだけざっくり復習＋ちょっと新しいこと－
- 第8回：経済学はグラフが命－グラフの読み方－1次関数の式とグラフ－
- 第9回：売上げを式で表現してみよう－2次関数の式とグラフ－
- 第10回：生産量と費用の関係の式を考えよう－3次関数の式とグラフ－
- 第11回：利潤や効用の最大値を求めよう－微分の意味と計算方法(1)－
- 第12回：利潤や効用の最大値を求めよう－微分の意味と計算方法(2)－
- 第13回：変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方  
－偏微分の意味と計算方法(1)－
- 第14回：変数が多いときの利潤や効用の最大値の求め方  
－偏微分の意味と計算方法(2)－
- 第15回：総まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

今回の扱う章を、講義ごとに指示し、またM-Portで公表する予定です。事前に教科書の該当する章に目を通し疑問点をまとめてください。講義計画執筆時（2018年1月）の予定では、講義前日までに提出された質問については、講義中に扱うような形を取る予定です。

**【テキスト】**

経済学と経済学、ビジネスに必要な数学がイッキにわかる!! 石川秀樹  
9784054062085 学習研究社

**【参考文献】**

適宜指示します。

**【コメント】**

問題演習（複数回で実施する予定です）の結果と、学期末試験の結果を総合的に評価します。  
なお学期末試験のレベルは教科書の「確認テスト」と同レベルを予定しています。  
詳細は第1回で示します。

講義名称	曜日
経済基礎 B 01 (秋)	月 1

**【教員名称】**  
大澤 健

**【講義概要】**  
21世紀の経済を理解するうえで、もっとも重要な概念であるグローバル化について講義します。グローバル化がなぜ起こるのかを説明するとともに、それが資本主義の発展段階の中で、どのように成長していくのかを考察していきます。現在、われわれの周りで起こっている経済現象の深層を理解しましょう。

**【学習目標】**  
資本主義社会がどのような社会であるかを理解するとともに、現在起きているグローバル化をそれと結びつけて考えられるようになることを目指します。グローバル化の意味を知り、自分と世界の未来について思いを巡らせることができるようになれば、と思います。

**【講義計画】**  
第1回：ガイダンス  
第2回：身の回りの「グローバル化」を探してみよう。  
第3回：資本主義社会の基本的性質①資本の循環と4つの市場  
第4回：資本主義社会の基本的性質②この社会の基本的な矛盾  
第5回：国家とは何か。  
第6回：資本主義の成長と国家の役割の変化。  
第7回：資本主義の発展過程①重商主義段階  
第8回：資本主義の発展過程②産業革命と資本主義のはじまり  
第9回：資本主義の発展過程③資本主義のひろがりとキャッチアップ型国家  
第10回：資本主義の発展過程④資本主義の矛盾と帝国主義  
第11回：資本主義の発展過程⑤20世紀の経済システム  
第12回：資本主義の発展過程⑥1980年代からのNIEsの台頭  
第13回：資本主義の発展過程⑦社会主義の崩壊と市場経済への移行  
第14回：資本主義の発展過程⑧統合される4つの市場と国家の役割の変化  
第15回：ふりかえり

**【事前および事後学習の指示】**  
日本経済新聞を毎日読むこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**  
講義中に指示する。

**【コメント】**  
講義中に行う練習問題を出席点として加算します。また、レポートも加点要素として考慮します。いずれも、提出しなかったからといって減点はしません。

講義名称	曜日
経済基礎 B 03 (秋)	火 2

**【教員名称】**  
梅本 哲世

**【講義概要】**  
この講義のテーマは「戦後日本経済入門」である。第二次世界大戦後の日本経済の発展過程を現在に至るまで概観する。戦後復興、高度経済成長、オイルショック・ニクソンショックと低成長、バブルの発生と崩壊、平成不況など、戦後の主な経済事象について説明する。

**【学習目標】**  
戦後の日本経済の発展をたどることにより、現在の日本経済についてより深く理解することを目的とする。

**【講義計画】**  
第1回：はじめに  
第2回：敗戦と経済改革  
第3回：経済復興とドッジ・ライン  
第4回：高度経済成長 その1  
第5回：高度経済成長 その2  
第6回：オイルショックとニクソンショック  
第7回：低成長時代の日本経済  
第8回：プラザ合意と円高不況  
第9回：バブル経済の発生  
第10回：バブルの崩壊と金融危機  
第11回：平成不況  
第12回：グローバル化と「構造改革」  
第13回：金融の「自由化」と日本経済  
第14回：アベノミクスと日本経済  
第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**  
テキストを事前に読んでください。

**【テキスト】**  
概説日本経済史 近現代 [第3版] 三和良一  
978-4-13-042138-6

**【参考文献】**  
その都度指示する

**【コメント】**

講義名称	曜時
経済基礎 B 04 (秋)	木 2

**【教員名称】**

北野 友士

**【講義概要】**

近年、生きていくために必要なお金の知識や能力である金融リテラシーの重要性が指摘されています。わが国では 2013 年に金融経済教育推進会議が設置され、金融経済教育を推進する動きが加速しています。本講義は金融経済教育推進会議が提供している連携講座の内容を参考にして提供する講義です。

**【学習目標】**

- ・卒業後に社会人として生きていくために必要な最低限度の金融リテラシーを身につける。
- ・ライフプランに基づくキャッシュフロー表を作成できる力を身につける。
- ・人生に潜むリスクを知り、リスク管理の手法を学ぶ。

**【講義計画】**

- 第 1 回：導入—金融経済教育の重要性
- 第 2 回：人生とお金
- 第 3 回：お金を稼ぐ
- 第 4 回：お金と経済
- 第 5 回：ライフプランを描く①ライフプランの基本
- 第 6 回：ライフプランを描く②キャッシュフロー表の作成
- 第 7 回：お金を借りる①決済と信用
- 第 8 回：お金を借りる②多重債務と住宅ローン
- 第 9 回：お金を増やす①投資の基本
- 第 10 回：お金を増やす②投資信託
- 第 11 回：リスクに備える①生命保険を中心に
- 第 12 回：リスクに備える②損害保険を中心に
- 第 13 回：トラブルに強くなる
- 第 14 回：ライフプランを描く③ライフプランの見直し
- 第 15 回：経済基礎 B のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業で使うパワーポイントは全て金融経済教育推進会議の HP に公開されているものなので、各回のパワーポイントを事前に必ず目を通してください ([https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku\\_kogi/](https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku_kogi/))。また講義後はパワーポイントに再度目を通すとともに、日常生活の場面で得た知識をどのように生かすかを考えてください。

**【テキスト】**

大学生のための人生とお金の知恵 金融広報中央委員会

**【参考文献】**

**【コメント】**

毎回の講義内容に沿った課題を課しますので、課題の提出をもって出席点といたします。単に教室にいるだけで出席ではありませんので、ご注意ください。

講義名称	曜時
経済基礎 B 05 (秋)	木 3

**【教員名称】**

矢根 真二

**【講義概要】**

「入門経済学」の講義で、フリーソフト R を使った実践的な「データ分析の初歩」的な考え方を学習します。ネット上に豊富にあるデータをビジュアルに報告するレポート等に活用して下さい。

**【学習目標】**

基本的な目標は、因果関係を含めた事実を科学的に判断する初歩的な考え方の習得です。そのためには、各自が自宅の PC に R をインストールして、実際に自らの手でデータ処理してもらうのがベストです。そうすれば、興味あるデータを自分なりに処理してレポートするのも容易になるはずですよ。

**【講義計画】**

- 第 1 回：事実判断の落とし穴：J リーグは誕生日とお金で決まる？  
授業も大学生生活も会社も選択には「正しい」事実判断が重要です！
- 第 2 回：EBPM: 証拠に基づいた判断？
- 第 3 回：経済モデルの理論と実証？
- 第 4 回：データを収集すれば分かる？
- 第 5 回：見えないモノを見る化する知恵？
- 第 6 回：頻度と確率？
- 第 7 回：なぜランダム性とサンプル数が大事？
- 第 8 回：世間に絶対はない？
- 第 9 回：相関関係と因果関係の関係？
- 第 10 回：レポートそれとも試験？
- 第 11 回：単一の説明変数？
- 第 12 回：複数の説明変数？
- 第 13 回：結果の吟味？
- 第 14 回：因果関係を説明する手法の発展
- 第 15 回：講義総括

**【事前および事後学習の指示】**

R はスマホでも動かせることはいませんが、自宅 PC にインストールして、習うより慣れろで馴染むのが基本です。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

R に関する解説はネット上に無数にあります。その読解が難しければ、初めに文献リストを紹介しますので、興味や必要に応じて活用して下さい

**【コメント】**

ただし、多人数の場合には、評価方法を変更する場合があります

講義名称	曜時
経済基礎 B 07 (秋)	火 1

**【教員名称】**

吉弘 憲介

**【講義概要】**

本講義の目的は、映画やアニメ、漫画といった題材を入り口に、経済学について知識や理解を深めることである。

を学んでいく。

経済学を含め、科学は一種の「魔術」であり、知らない人には「ごちゃごちゃ」したものを感じる。本講義では、映像作品を入り口に、経済政策や金融政策、資源経済の歴史と現状を解きほぐし理解可能なものとしていく。

**【学習目標】**

経済学や社会科学に関連する思想や出来事は、普段触れる様々なストーリーに隠れている。それらを読み取る、社会科学上のリテラシーを身につけるのがこの講義の目標となる。また、宿題、感想レポートの提出を通じて計画的に課題をこなす能力を養う。

**【講義計画】**

第1回：ガイダンス

第2回：資本主義の物語 アダム・スミス、リカード、マルクス

第3回：資本主義の物語 映像作品「千と千尋の神隠し (1)」

第4回：資本主義の物語 映像作品「千と千尋の神隠し (2)」

第5回：1980年代からの大回転 富裕層の逆襲

第6回：1980年代からの大回転

映像作品「バックトゥザフューチャー (1)」

第7回：1980年代からの大回転

映像作品「バックトゥザフューチャー (2)」

第8回：金融経済の席卷と格差の世界

第9回：金融経済の席卷と格差の世界 映像作品「ウォール街 (1)」

第10回：金融経済の席卷と格差の世界 映像作品「ウォール街 (2)」

第11回：モノ・カルチャーとしての鉄オル 搾取と革命と貧困の寓話

第12回：残酷な世界としてのリアル鉄オル 「ブラッド・ダイヤモンド (1)」

第13回：残酷な世界としてのリアル鉄オル 「ブラッド・ダイヤモンド (2)」

第14回：講義振り返り

第15回：まとめと試験について

**【事前および事後学習の指示】**

宿題提出物について、学習を義務付ける。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

グッドウィン&パー、脇山訳『エコノミクス—漫画で読む経済の歴史』みすず書房、2017年。

**【コメント】**

4つの講義の塊が終了した時点で、それぞれ小レポートの提出を課す(1回10点全部で40点)。期末試験で残り60点分を評価する。

講義名称	曜時
経済情報処理論Ⅱ (秋)	金 1

**【教員名称】**

櫻井 雄大

**【講義概要】**

「経済情報処理論Ⅰ」と「経済情報処理論Ⅱ」は同一年度に履修することをお勧めします。ⅡではⅠで触れなかった内容を扱います。

この講義では、主に経済学部生が今後の学習/研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。

経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、具体的な利用実例を示しながら説明するとともに、プログラミングの基本項目など技術的な項目も解説します。

**【学習目標】**

情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることが目標としています。

**【講義計画】**

第1回：復習—コンピュータの仕組み

第2回：論理演算の基本

第3回：学内の情報環境について

第4回：経済学におけるコンピュータの活用 1

(インターネット資源の調査と利用)

第5回：経済学におけるコンピュータの活用 2 (データの統計処理)

第6回：経済学におけるコンピュータの活用 3 (シミュレーション)

第7回：経済学におけるコンピュータの活用 4 (数値解析)

第8回：経済学におけるコンピュータの活用 5 (データマイニング)

第9回：経済学におけるコンピュータの活用 6 (複雑系)

第10回：プログラミング詳説 1 (プログラムが扱うデータの概念、型と構造)

第11回：プログラミング詳説 2 (流れの制御—条件分岐と反復処理)

第12回：プログラミング詳説 3 (処理の部品化—関数とライブラリ)

第13回：プログラミング詳説 4

(現実とプログラムのマップ—アルゴリズムの選択と設計)

第14回：プログラミング詳説 4 (制御と計測)

第15回：これまでの講義まとめ、最終試験

**【事前および事後学習の指示】**

準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。

また、必ずノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

講義内で適宜提示します。

**【コメント】**

備考

出席は、不定期に実施する小テストの点数で評価する予定です。

講義名称	曜時
経済数学Ⅱ (秋)	水 3

**【教員名称】**

二替 大輔

**【講義概要】**

本講義では、経済数学Ⅰの知識を前提として、多変数関数（2変数関数）の微分と最適化について講義していきます。講義では、毎回演習問題を解くことにより、確実な知識の習得を目指します。

**【学習目標】**

経済分析を行うための数学の基本的な知識を習得する。  
多変数関数の微分が解けるようになる。  
多変数関数の最適化問題を解けるようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス・経済数学Ⅰの復習
- 第2回：多変数関数とそのグラフ
- 第3回：偏微分
- 第4回：接平面の方程式と全微分
- 第5回：等高線の傾きと陰関数定理
- 第6回：多変数関数の合成関数の微分 (1)
- 第7回：多変数関数の合成関数の微分 (2)
- 第8回：前半のまとめと中間試験
- 第9回：行列とベクトル (1)
- 第10回：行列とベクトル (2)
- 第11回：制約なし最適化問題 (1)
- 第12回：制約なし最適化問題 (2)
- 第13回：制約付き最適化問題 (1)
- 第14回：制約付き最適化問題 (2)
- 第15回：後半のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義内容の復習及び問題演習の復習を毎回必ず行ってください。

**【テキスト】**

経済学で使う微分入門 川西諭 9784883841493 新世社

**【参考文献】**

石村園子『やさしく学べる基礎数学』, 共立出版株式会社, 2001年  
A. C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎 [第4版] (上), (下)』, シーエーピー出版, 2010年

**【コメント】**

中間試験 (40%) と期末試験 (40%) および講義中に課す課題 (20%) で評価します。

講義名称	曜時
経済政策Ⅱ (秋)	金 1

**【教員名称】**

吉弘 憲介

**【講義概要】**

経済政策Ⅰでは、福祉国家という現代社会における国家と経済の関係について学んだ。Ⅱでは、これを前提に日本と世界の経済社会の姿をより詳細に学んでいく。具体的には、日本及び先進国が直面する種々の経済・社会的課題を幅広く学び、その根底にある持続可能性について検討と理解を深めていく。個別のテーマとしては、少子高齢化とこれに伴う財政と社会の持続可能性、また、個人における経済的リスクの質的变化による統治の不能に関する問題を取り扱う。

**【学習目標】**

2000年代以降の日本で進行する経済・社会問題についての知識を得る。また、新聞などを取り入れ、就職活動や社会人となった時に必要とされる知識を貯え、それぞれの問題について自分の力で何らかの意見を出せる力を養うことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：人口減少の衝撃
- 第3回：空き屋と経済の関係
- 第4回：劣化するインフラと財政問題
- 第5回：インフラ問題の構造と都市の考え方
- 第6回：高齢化問題と介護財政
- 第7回：高齢化問題と年金財政
- 第8回：日本財政の持続可能性
- 第9回：いかなる税制度を構築すべきか
- 第10回：移住定住政策と地域競争
- 第11回：移住定住について映像視聴か講師による講義
- 第12回：古いリスクと新しい社会的リスク
- 第13回：格差は世界を飲み込むか
- 第14回：講義振り返り
- 第15回：まとめと試験について

**【事前および事後学習の指示】**

宿題を通じて、学習時間の確保を義務付ける。

**【テキスト】**

みんなで作るまちづくりー全員参加型の就労のあり方 (仮) 難波利光編著  
ミネルヴァ書房 2018年10月1日刊行予定

**【参考文献】**

**【コメント】**

試験のほか、講義中にランダムで3回宿題を課す。これをレポートの点数としてカウントする。

講義名称	曜時
経済地理学Ⅱ 〈秋〉	金 3

**【教員名称】**

安倉 良二

**【講義概要】**

「産業立地に関する地理学的アプローチ—第3次産業を中心に—」  
 経済事象を理解する場合、それが「どこで起こっているのか」という空間と関連づけた考察が求められる。後期の講義では、第3次産業の中でも、日常生活に密接な関わりをもつサービス業と商業を中心に、ビジネスの場であるオフィスの立地にも注目する。とりわけ、商業については都市との関わりで中心市街地（商店街）のまちづくりについて詳述する。なお、第1・2次産業のトピックについては、前期の「経済地理学Ⅰ」で取り上げるので並行履修を薦める。

**【学習目標】**

地図や図表、写真を活用して産業立地に関する地理学的な見方を身につけてもらうことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：オフィス（1）— 都市階層とオフィス立地 —
- 第2回：オフィス（2）— オフィスの立地と都市構造 —
- 第3回：オフィス（3）— 都市内部におけるオフィス街の変容 —
- 第4回：オフィス（4）— 情報化の進展とオフィスの立地再編 —
- 第5回：サービス業の立地— 事業所サービスと個人サービスを中心に —
- 第6回：公共サービスの展開と地域の文脈— 保育サービスを中心に —
- 第7回：日本の大型店立地政策（1）  
— 20世紀：大店法の運用と地域商業 —
- 第8回：日本の大型店立地政策（2）  
— 21世紀：「まちづくり三法」と地域商業 —
- 第9回：中心商店街の衰退と活性化（1）  
— 大型店の立地変化と中心市街地活性化法 —
- 第10回：中心商店街の衰退と活性化（2）  
— コミュニティの再生に向けた取り組み —
- 第11回：中心商店街の衰退と活性化（3）  
— 観光資源の活用・創出による取り組み —
- 第12回：コンビニの立地— ドミナント展開のメカニズム —
- 第13回：買い物難民・フードデザート問題（1）  
— 地域別にみた問題点 —
- 第14回：買い物難民・フードデザート問題（2）  
— 問題解決に向けた取り組み —
- 第15回：卸売業・物流センターの立地

**【事前および事後学習の指示】**

「商店街の活性化（まちづくり）」や、流通業界における店舗や物流センターなどの立地、ならびに買い物難民問題、東京への一極集中などを取り上げたニュースに関心を持ち、日常生活における問題意識と結びつける習慣をつけておくと、本講義の内容もより深く理解できるはずである。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

毎回の講義で使うレジュメにおいて、地理学および隣接分野（都市計画学・商業学）の文献を積極的に引用する。

**【コメント】**

期末試験のほか、講義終了10～15分前に配布するコメントペーパーの内容（講義内容への関心）を評価する。

講義名称	曜時
言語表現論 〈秋集〉	月 4/ 木 2

**【教員名称】**

西岡 武彦

**【講義概要】**

日英を比較した講義・演習を行います。「する」的言語、「なる」的言語といった言語観がありますが、このような言語観も含めて日本語と英語に対する言語観を探っていきます。語学に興味があるだけでなく、英語に自信がある人の参加が望ましい。

**【学習目標】**

日常無意識に話している言語を客観的に見て面白いと実感することを目標にします。

**【講義計画】**

- 第1回：Orientation  
 受講にあたっての注意  
 ◆いかなる理由があろうと4回以上の欠席は単位を与えません。（3回までは認めます）  
 ◆遅刻は2回で1回の欠席扱いにします。  
 ◆スマートフォンを授業中に机の上に出している場合や、使用した場合はその時点で単位を与えません。  
 ◆試験を行う際、遅刻をした場合は受験できません。  
 ◆試験中、不正行為を行った場合は、単位を与えません。  
 ◆授業中に勝手に教室を退出した場合は、欠席扱いとします。（トイレは授業前に済ませること）  
 授業の進め方などの説明
- 第2回：日英言語観（1）
- 第3回：日英言語観（2）
- 第4回：日英言語観（3）
- 第5回：日英言語観（4）
- 第6回：日英言語観（5）
- 第7回：日英言語観（6）
- 第8回：日英言語観（7）
- 第9回：日英言語観（8）
- 第10回：日英言語観（9）
- 第11回：日英言語観（10）
- 第12回：日英言語観（11）
- 第13回：日英言語観（12）
- 第14回：日英言語観（13）
- 第15回：日英言語観（14）
- 第16回：日英言語観（15）
- 第17回：日英言語観（16）
- 第18回：日英言語観（17）
- 第19回：日英言語観（18）
- 第20回：日英言語観（19）
- 第21回：日英言語観（20）
- 第22回：日英言語観（21）
- 第23回：日英言語観（22）
- 第24回：日英言語観（23）
- 第25回：日英言語観（24）
- 第26回：日英言語観（25）
- 第27回：日英言語観（26）
- 第28回：日英言語観（27）
- 第29回：日英言語観（28）
- 第30回：日英言語観（29）

**【事前および事後学習の指示】**

大きなテーマを終えた段階でテストを行いますから、それに備えて授業後は特に復習を行ってください。

**【テキスト】**

特になし

**【参考文献】**

授業中に適宜案内します。

**【コメント】**

4回以上の欠席は単位を与えません。

講義名称	曜時
現代資本主義論 [2] (秋)	火 4

**【教員名称】**

森本 壮亮

**【講義概要】**

テレビや新聞のニュースでは、日本経済は停滞していると言われながらも、企業業績は非常に好調だと言われている。自分たちのバイトの賃金は上がっているが、就職してからの賃金は上がっているという話は聞かない。また、企業業績が好調だと言われている割には、非正規雇用は増えている。これらは、一体どうということなのか？

本講義は、経済原論の授業の延長線上に、現代日本経済が抱える諸問題について、トピックごとに考え分析していく。(それゆえ、経済原論の授業を受けたことがある学生であれば、理解しやすいはずである)

**【学習目標】**

選択必修科目の「経済原論」を履修した学生を想定して、各自が「経済原論」で学習した経済理論を用いて、現代日本を分析できるようになることが目標である。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション、日本の経済問題
- 第2回：日本経済の今
- 第3回：日本経済のあゆみ
- 第4回：『経済原論』の復習（1）：資本主義経済の基礎
- 第5回：『経済原論』の復習（2）：利潤の拡大方法
- 第6回：雇用・労働問題（1）：賃金と労働時間
- 第7回：雇用・労働問題（2）：  
女性と学生の社会進出（パート労働とアルバイト）
- 第8回：利潤率の傾向的低下法則
- 第9回：日本の経済政策：構造改革
- 第10回：1990年代のグローバル化
- 第11回：産業の空洞化
- 第12回：日本の金融（銀行の覇権と凋落）
- 第13回：日本型企業システムの崩壊
- 第14回：地方の夢と現実
- 第15回：これからの日本経済

**【事前および事後学習の指示】**

- ・最低でもこの授業を受けている期間中は、図書館などで新聞の経済ニュースを読み続けること。
  - ・授業の予習/復習として、テキストと指定している『高度成長』という本を読むこと。
- (年末年始の宿題として、この本に基づいたレポートを提出してもらう予定なので、準備しておくこと。)

**【テキスト】**

高度成長 日本を変えた6000日 吉川洋 9784122056336 中公文庫  
初回の授業時までに用意する必要はない。

**【参考文献】**

岡田知弘・佐佐和幸編『入門 現代日本の経済政策』法律文化社、2017年。

**【コメント】**

- ・レポートの具体的なやり方は、1回目もしくは2回目の授業でアナウンスする。
- ・レポートは5回ほど出す予定であり、レポートの量は多いので、その点は覚悟すること。
- ・出席は取らないが、レポートは授業の内容に基づくので、欠席が多いと単位が取れない。
- ・Google検索によるレポートの提出が毎年一定数見られるが、そのような解答は間違っていることが多いので、単位取得のための点数(60点)が取れていない。
- ・4年生だから成績評価が甘くなる、ということは一切ない。
- ・完全に努力に比例した成績評価を行うので、努力した者にはSが、しなかった者にはDがつく。
- ・きちんと出席してノートを取って授業を受けていれば、落ちることはほぼない。

講義名称	曜時
現代社会論 (秋集)	火 2/ 金 3

**【教員名称】**

篠原 千佳

**【講義概要】**

この講義では、社会学の基礎知識を学習し、さまざまな現代社会の問題について社会的に考察する。トピックとしては、孤立化社会、学校教育と就職問題、非行と犯罪、地域社会の崩壊と再生、グローバル化と社会の多様化、社会階層と格差、メディアと大衆文化、人権問題と雇用均等、福祉国家、安心社会から信頼社会への変化、幸福感と社会意識、グローバル化社会と日本の役割を予定している。

**【学習目標】**

社会学の理論・研究方法など基礎知識を習得しながら、最近のグローバル化する社会で起こっている様々な問題を、社会的に理解・分析する基礎力を育成する。この学期の最終目標は、各受講生が、多様化する現代社会の現象や問題を多角的な視点で理解・分析できるようになり、解決方法を模索・提示できる能力を身につけることである。

**【講義計画】**

- 第1回：講義紹介
- 第2回：社会学とは、グローバル化社会とは
- 第3回：現代社会をキャッチするー社会学理論と調査方法
- 第4回：孤立化社会と親密性の罠1ー氾濫する親密性
- 第5回：孤立化社会と親密性の罠2ー近代化、個人主義、孤立化
- 第6回：学校から職業へ1ーライフコース、未来予想図は見える？
- 第7回：学校から職業へ2ー自己実現と学歴社会のホント
- 第8回：図書館調査活動ー現代社会リサーチプロジェクト
- 第9回：非行文化喪失と少年犯罪1ー犯罪の現状と変化
- 第10回：非行文化喪失と少年犯罪2ーソーシャル・ネットワーク
- 第11回：地域社会の崩壊と再生1ー地域社会、多様化、リスク
- 第12回：地域社会の崩壊と再生2ー地域社会の社会的分析
- 第13回：格差と不平等1ー総中流社会から格差社会へ
- 第14回：格差と不平等2ー少子高齢化社会と階層社会
- 第15回：これまでのまとめと復習
- 第16回：現代社会と宗教の役割
- 第17回：社会変動と大衆文化1ー出版不況を考える
- 第18回：社会変動と大衆文化2ー大衆社会と文化論的解釈
- 第19回：家族とジェンダー1ージェンダー視点で見る近現代日本社会
- 第20回：家族とジェンダー2ー性別役割と社会制度を考える
- 第21回：福祉国家1ー福祉レジームと社会保障制度
- 第22回：福祉国家2ー日本の出産、保険、年金、介護
- 第23回：安心社会から信頼社会へ1ーリスク社会を生きる
- 第24回：安心社会から信頼社会へ2ー市民社会とNGO・NPO
- 第25回：グローバル化と社会意識1ーグローバル化と幸福感
- 第26回：グローバル化と社会意識2ー世界の中の日本を考える
- 第27回：グローバル社会と日本の役割1ー日本とUN国際機関の役割
- 第28回：グローバル社会と日本の役割2ー日本に課せられた役割
- 第29回：今学期のまとめと復習
- 第30回：期末試験準備

**【事前および事後学習の指示】**

講義時の指示に従い、教科書と関係資料を毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。基本的には、教科書の該当する章(約10~20ページ)を熟読し、その章の設問に答えられるよう準備をしておくこと。講義時間内外での提出課題は個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。

**【テキスト】**

Do! ソシオロジー 改訂版ー現代日本を社会学で診る 友枝 敏雄・山田真茂留(編) ISBN-10: 4641124965 ISBN-13: 978-4641124967 有斐閣アルマ

**【参考文献】**

指定のテキスト以外の参考文献は講義中に指示する。

**【コメント】**

期末試験(基礎)30% 期末試験(論述)40% 授業参加・貢献30%  
基本的な理解を試験と自由選択テーマの論述で確認するほかに、授業への参加・貢献の総合的な判断で評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に授業に参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生と共に課題に取り組むことが求められる。

講義名称	曜日
現代中国社会 (秋)	水 2

**【教員名称】**

坂井田 夕起子

**【講義概要】**

めざましい経済発展を続けてきた中国は現在大きな社会の転換点に来ている。本講義では、21世紀の中国社会・政治・経済の移り変わりや諸問題について講義を行う。授業で扱う内容については、できる限り時事問題をリアルタイムで扱いたいので、シラバスの順番や内容は一部変更することもある。レジュメは毎回 M-Port の「お知らせ」で配布する。一週間前には履修者各自が受け取れるようになっているので、自分で印刷して持参すること。過去のレジュメは S ドライブの xiqizi フォルダに置いておく。

**【学習目標】**

現代中国の政治、経済、民族、教育問題および台湾・香港との関係について理解するための基礎的な知識を身につける。そして、獲得した知識を用いて、日々の新聞や TV ニュースなどを正確に理解し、日本との関わりを考えられるようになることを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション：現代中国社会の授業全体について。  
社会主義国として出発した中国が、改革開放政策によって大きく政策を転換し、その後の経済発展と格差社会を形成した状況を説明する。
- 第2回：在日中国人と日本
- 第3回：中国の若者は日本をどう見ているか
- 第4回：「世界の工場」から「世界の市場」への変化
- 第5回：中国に進出した日系企業とチャイナ・リスク
- 第6回：「一帯一路」構想とは何か
- 第7回：ヨーロッパの中国人
- 第8回：現代中国の光と影
- 第9回：中国の教育問題
- 第10回：中国のメディア規制について
- 第11回：中台関係とは何か
- 第12回：中国と香港
- 第13回：中国の民族問題 チベット
- 第14回：中国の環境問題
- 第15回：期末試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

毎回、M-Port の「お知らせ」でレジュメを配布します。各自、印刷して持参してください。事前に読んで、自分なりの興味関心を高めておくこと。過去のレジュメと欠席が多い人用の課題は、S ドライブの xiqizi フォルダに置きます。また、授業で興味関心を持ったテーマについては、参考文献を読んでおいてください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 安田峰俊『野心 郭台銘伝』プレジデント社。
- 安田峰俊『暗黒・中国からの脱出』文春新書。
- 林望『習近平の中国 百年の夢と現実』岩波書店。
- ふるまいよしこ『中国メディア戦争』NHK出版新書。
- 毛丹青ほか『知日 なぜ中国人は、日本が好きなのか!』潮出版社。
- 『在中日本人 108 人のそれでも私たちが中国に住む理由』CCCメディアハウス。
- 『在日中国人 33 人の それでも私たちが日本を好きな理由』CCCメディアハウス。
- 金順姫『隠された中国』平凡社新書。
- 津上俊哉『「米中経済戦争」の内実を読み解く』PHP 新書。
- 福島香織『本当は日本が好き中国人』朝日選書。
- 山谷剛史『中国のインターネット史 ワールドワイドウェブからの独立』星海社新書。
- 梶谷懐『日本と中国経済：相互交流と衝突の 100 年』ちくま新書。
- 倉田徹『香港 中国と向き合う自由都市』岩波書店。
- 野嶋剛『台湾とは何か』ちくま新書。
- 東山彰良『流』講談社。
- 赤松・若松編『台湾を知るための 60 章』明石書店。

**【コメント】**

授業のレジュメは毎回、M-Port の「お知らせ」で配布します。各自、印刷して持参してください。  
授業は 15 分以上の遅刻は認めません。  
就職活動や入院など、やむをえない事情で欠席が多くなる学生には課題を出します。必ず 12 月までに教員に相談してください。1 月に入ってから相談は受け付けません。  
試験は論述式です。授業で配布したレジュメや手書きのノートは持込を許可します。授業中にしっかりノートをとっておくと試験で役立つと思います。

講義名称	曜日
公共経済論 I (秋)	火 1

**【教員名称】**

西崎 勝彦

**【講義概要】**

市場経済では財・サービスは基本的に市場で取引され、市場を通じて財・サービスが消費・分配・生産される。市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが、市場は万能ではなく、ときに「失敗」することもある(例。規模の利益による自然独占)。また、市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが、価格がうまく決まらない財・サービス(例。公共財)は市場での取引が難しい。こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの消費・分配・生産を分析するための学問が公共経済学である。この授業では公共経済学の基礎について説明し、それをもとに市場経済における公共部門の役割について考える。

この授業では、公共経済学における分析の基本となるミクロ経済学の復習も兼ねて、まずは市場の「成功」について説明する。それを踏まえて「公共財」と「外部効果」が存在する経済について説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う(スライドは授業資料として出席者に配布する)。また、毎回の授業の残り 20 分ほどで課題(レポート)を提出してもらおう(毎回の授業の最初に前回の課題を解説する)。

**【学習目標】**

- (1) 市場の「成功」と「失敗」を理解する。
- (2) 公共財の性質とその供給に関する問題を理解する。
- (3) 消費・生産によって生じる外部効果とそれへの対応を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：公共経済学とは(ガイダンス)
- 第2回：消費者行動
- 第3回：生産者行動
- 第4回：市場と価格メカニズム
- 第5回：市場均衡とパレート効率性
- 第6回：厚生経済学の基本定理
- 第7回：市場の「失敗」
- 第8回：公共部門の役割
- 第9回：公共財の性質と「ただ乗り」問題
- 第10回：公共財の供給
- 第11回：外部効果と生産者行動
- 第12回：外部効果と消費者行動
- 第13回：共有地の悲劇
- 第14回：公共経済学の展開
- 第15回：試験および総括

**【事前および事後学習の指示】**

テキストに掲載されている練習問題に取り組むなどして、問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい。

**【テキスト】**

公共経済学 奥野信宏  
978-4000266970 岩波書店 本書に基づいてスライドを作成し、それを授業資料として出席者に配布する。本書で不足している部分については、参考文献をもとに適宜補足する。

**【参考文献】**

- 緒方隆, 須賀晃一, 三浦功【編】(2006)『公共経済学』勁草書房。
- ジョセフ・E・スティグリッツ/藪下史郎【訳】(2003)『公共経済学』東洋経済新報社。
- 須賀晃一【編】(2014)『公共経済学講義－理論から政策へ－』有斐閣。
- 常木淳(2002)『公共経済学』新世社。
- 土居丈朗(2002)『入門公共経済学』日本評論社。

**【コメント】**

講義名称	曜時
公共経済論Ⅱ (秋)	火 3

**【教員名称】**

西崎 勝彦

**【講義概要】**

市場経済では財・サービスは基本的に市場で取引され、市場を通じて財・サービスが消費・分配・生産される。市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが、市場は万能ではなく、ときに「失敗」することもある(例、規模の利益による自然独占)。また、市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが、価格がうまく決まらない財・サービス(例、公共財)は市場での取引が難しい。こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの消費・分配・生産を分析するための学問が公共経済学である。この授業では公共経済学の基礎について説明し、それをもとに市場経済における公共部門の役割について考える。

この授業では、同じ学期に開講予定の「公共経済論Ⅰ」の内容は理解しているものとして、そこで扱わないテーマ(投票、費用・便益分析、課税・公債発行、自然独占、公共料金規制、公共投資、社会保障、地方分権)について説明する。説明はスライドを使った講義形式で行う(スライドは授業資料として出席者に配布する)。また、毎回の授業の残り20分ほどで課題(レポート)を提出してもらう(毎回の授業の最初に前回の課題を解説する)。

**【学習目標】**

- (1) 公共部門の意思決定の仕組みを理解する。
- (2) 公益事業の成立とそれへの規制を理解する。
- (3) 公共投資が社会に与える影響を理解する。
- (4) 高齢化社会における公共部門の役割を理解する。
- (5) 地方分権の意義を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：公共経済学とは(ガイダンス)
- 第2回：社会的決定
- 第3回：社会的費用・便益分析
- 第4回：税と公債
- 第5回：規模の利益と自然独占
- 第6回：自然独占と競争
- 第7回：公的企業と料金規制
- 第8回：私的企業と料金規制
- 第9回：社会資本と公共投資
- 第10回：地域格差と公共投資
- 第11回：所得再分配政策と社会保障
- 第12回：高齢化と公共交通
- 第13回：地方分権
- 第14回：公共経済学の展開
- 第15回：試験および総括

**【事前および事後学習の指示】**

テキストに掲載されている練習問題に取り組むなどして、問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい。

**【テキスト】**

公共経済学 奥野信宏  
978-4000266970 岩波書店 本書に基づいてスライドを作成し、それを授業資料として出席者に配布する。本書で不足している部分については、参考文献をもとに適宜補足する。

**【参考文献】**

- 緒方隆、須賀晃一、三浦功 [編] (2006) 『公共経済学』 勁草書房。  
 ジョセフ・E・スティグリッツ/ 藪下史郎 [訳] (2003) 『公共経済学』 東洋経済新報社。  
 須賀晃一 [編] (2014) 『公共経済学講義－理論から政策へ－』 有斐閣。  
 常木淳 (2002) 『公共経済学』 新世社。  
 土居文朗 (2002) 『入門公共経済学』 日本評論社。

**【コメント】**

講義名称	曜時
公的扶助論B (秋)	火 2

**【教員名称】**

砂田 貴彦

**【講義概要】**

公的扶助論Aを補完し、現行生活保護制度の意義や役割、課題について学びます。明治期以降現在に至るわが国公的扶助制度の変遷について、それぞれの時代の制度・政策の考え方や実態、問題点を考察します。また、現行生活保護制度の原理、原則及び運用の実態などについて学びます。加えて2000年の社会福祉構造改革以降今日まで、生活保護制度の変革の内容について考察し、現代社会における公的扶助制度の意義・役割、課題などについて考察します。

※公的扶助論Aの内容から、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験合格を目指し、テキストに加え、社会福祉士国家試験の過去問題等を活用し、公的扶助制度について、更に踏み込んだ内容の講義です。

そのため、下記の要件を2つ以上満たす学生の受講が本講義の対象となります。

- 1) 公的扶助論Aを修得済の学生【必須】
- 2) 社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験を目指している学生
- 3) 公務員等で社会福祉職採用を目指している学生

**【重要】** 上記に当てはまらない学生は履修前に担当教員にメール等で相談するか、初回授業には必ず参加のこと。

特に公的扶助論Aの単位修得をしていない学生の受講は、学生の授業理解の面で望ましくありませんので、履修時には特に注意してください。

**【学習目標】**

- 最低生活やセーフティネットの概念について理解する。
- 生活保護制度の歴史について理解する
- 現行生活保護制度の理念と内容について理解する。
- 生活保護制度と「自立」の関係について理解する。
- 現行生活保護制度の課題・問題点について理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション 公的扶助論Aの再確認
- 第2回：生活保護の歴史(恤救規則、救護法、旧生活保護法から新生活保護法へ)
- 第3回：生活保護制度の基本原則(1)(概要)
- 第4回：生活保護制度の基本原則(2)(補足性の原理)
- 第5回：生活保護制度の原則
- 第6回：生活保護の種類と体系
- 第7回：生活保護の実施体制(1)(行政組織の役割、権限)
- 第8回：生活保護の実施体制(2)(福祉事務所と社会福祉主事)
- 第9回：生活保護の運営(1)(申請から決定まで)
- 第10回：生活保護の運営(2)(調査、認定、開始・変更・低廃止)
- 第11回：生活保護の運営(3)(医療扶助と介護扶助)
- 第12回：被保護者の権利と義務、不服申立制度
- 第13回：生活保護の財政 生活保護の動向と課題
- 第14回：生活困窮者自立支援制度の意義と役割
- 第15回：課題と展望のまとめ 試験

**【事前および事後学習の指示】**

公的扶助論の中核である生活保護制度は歴史的にも古く、また現行制度はその上に成立していることから、複雑で精緻な制度です。専門職として実践力を期待される重要な学習分野です。予習・復習を繰り返して、各回の講義を理解するよう努めてください。

**【テキスト】**

社会福祉士シリーズ16 公的扶助 低所得者に対する支援と生活保護制度  
 福祉臨床シリーズ編集委員会 伊藤秀一 編  
 978-4-335-611171-1 弘文堂 公的扶助論Aと同じテキストを使用  
 生活保護のてびき 生活保護制度研究会 編集  
 978-4-474-05584-1 第一法規 公的扶助論Aと同じテキストを使用

**【参考文献】**

生活保護手帳 別冊問答集 中央法規出版  
 健康で文化的な最低限度の生活 1～5巻 柏木ハルコ 小学館

**【コメント】**

試験の結果に出席状況等を加味して単位認定する。  
 試験は100点満点中60点以上を合格点とする。  
 出席回数、当該授業を履修する学生の出席回数の中央値の半分未満の場合は不合格とする。  
 詳細は授業初めに説明するため、初回授業には必ず出席すること  
 毎回、授業内で出席確認を兼ねた事前、事後課題を課すが、提出がない場合は欠席として扱う

ア  
力  
サ  
タ  
ナ  
ハ  
マ  
ヤ  
ラ

講義名称	曜日
国際金融論 [2] (秋)	金 2

**【教員名称】**

岡野 光洋

**【講義概要】**

本講義ではまず為替レートとは何かを学び、外国為替市場の仕組みについて概観する。外国為替取引や国際収支勘定、国際通貨等の基本的な理解を深めたのち、為替レートの決定理論について学ぶ。講義の後半では、近年の国際金融を巡る諸問題について、個別にテーマを取り上げて論じていく。具体的には、ユーロに代表される通貨統合の問題、サブプライムローン問題や欧州債務危機、アジア通貨危機などである。なお各論においては講義時における最新のトピックも扱うことを予定している（中国経済の動向、原油価格の動向、米国の利上げ動向など）。

**【学習目標】**

リーマン・ショックや欧州債務危機は、日本を含む世界各国の景気を悪化させた。日本経済を分析する上でも、世界の相互依存関係を考慮した国際金融的な視点が一層重要になるだろう。本講義では、為替レート決定等の国際金融現象を、経済理論を用いて分析・理解するとともに、国際金融社会の諸問題についての理解を深めることを目的とする。本講義を通じて、様々なマクロ経済政策に対する判断力を養う。

**【講義計画】**

- 第1回：国際金融とは (1) 経済活動と国際収支
- 第2回：国際金融とは (2) 外国為替市場と基軸通貨の役割
- 第3回：外国為替市場 (1) 直物取引と為替予約、通貨オプション
- 第4回：外国為替市場 (2) 為替レート変動がマクロ経済活動に与える影響
- 第5回：外国為替市場の均衡 (1) 一物一価の法則と購買力平価
- 第6回：外国為替市場の均衡 (2) 相対的購買力平価と実質為替レート
- 第7回：サブプライムローン問題と金融危機 (1) 地価の上昇と住宅バブル
- 第8回：サブプライムローン問題と金融危機 (2) 証券化とリスクの所在
- 第9回：サブプライムローン問題と金融危機 (3) 政府の対応とその後の影響
- 第10回：欧州債務問題 (1) ギリシャ債務問題の背景とその後の動き
- 第11回：欧州債務問題 (2) 財政不安と長期金利
- 第12回：欧州債務問題 (3) ユーロの課題、EUの課題
- 第13回：円高・円安と日本の金融政策 (1) 量的質的金融緩和とマイナス金利
- 第14回：円高・円安と日本の金融政策 (2) 円高が招く不況とデフレ
- 第15回：まとめと復習

**【事前および事後学習の指示】**

マクロ経済学の基礎を修得していることが望ましい。講義前後には各自で予習・復習をすること（事前学習 30 時間・事後学習 30 時間）。そのために必要と思われる参考書及び補助教材（新聞・専門雑誌等）は適宜指示・提供する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 高木信二 (2011) 『入門国際金融 [第4版]』(日本評論社)
- 小林正宏・中林伸一 『通貨で読み解く世界経済』(中公新書)

**【コメント】**

講義名称	曜日
国際経済論Ⅱ (秋)	木 3

**【教員名称】**

モグベル ザファル

**【講義概要】**

現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」（つまり、貿易）に焦点を置きます。あつかうテーマとしては、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などです。この講義に登場する貿易の現状分析と理論体系は過去 250 年にわたり次のような問題を提起しつづけてきました。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こるのか、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易をもたらす利益はどのようにして分配されるのか。自由な貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を、現状分析と理論の観点から分りやすく解説します。

**【学習目標】**

国際経済論・Ⅱの下記のテーマについて学び理解することを目指す：  
 (1) 貿易理論 (2) 貿易政策

**【講義計画】**

- 第1回：貿易理論展望と貿易の「錬金術」
- 第2回：自由貿易 vs 保護主義：その歴史と現状
- 第3回：重商主義と絶対優位
- 第4回：特化と分業の限界
- 第5回：比較生産費説 (1) リカード・モデルの概要
- 第6回：比較生産費説 (2) 比較優位と比較劣位
- 第7回：機会費用と生産可能性フロンティア
- 第8回：オッファー・カーブと交易条件
- 第9回：ヘクシャ・オーリン理論 (1) 集約度と要素賦存比率
- 第10回：ヘクシャ・オーリン理論 (2) 要素価格均等化
- 第11回：日本の関税制度
- 第12回：関税効果 (1) 小国による関税と消費者余剰
- 第13回：関税効果 (2) 大国による関税と最適関税
- 第14回：地域統合
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

ミクロ・マクロ経済学の基礎を学習しておくこと。配布資料を正しく管理すること（資料の再配布はしません）。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 澤田康幸著、「国際経済学」(新世社)
  - クルーグマン・オブズフェルド著、「国際経済学：(上) 貿易編」(丸善出版)
- ほとんど毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

**【コメント】**

試験：90% レポート：% 授業への積極的な参加：10%  
 授業への積極的な参加の評価については、授業中に行う数回の小テストの結果によってきまる。

講義名称	曜時
国際法 〈秋集〉	火2/金3

**【教員名称】**

軽部 恵子

**【講義概要】**

この講義では、国際法の基礎を学びます。国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。国際法の理解には世界史の知識が重要です。履修予定者は春学期の国際機構論をなるべく先に履修してください。講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いて、メディア・リテラシーも学びます。

**【学習目標】**

- (1) 国際法の基礎知識を習得する。
- (2) 国際法の視点から国際ニュースを考察する。
- (3) 国際問題の理解に必要な一般教養（歴史、文化、宗教など）を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：国際法とは何か
- 第2回：戦争と平和の法 (1) 宗教改革から三十年戦争へ
- 第3回：戦争と平和の法 (2) アメリカ独立戦争とフランス革命
- 第4回：戦争と平和の法 (3) ナポレオン戦争とウィーン会議
- 第5回：戦争と平和の法 (4) ハーグ平和会議
- 第6回：戦争と平和の法 (5) 赤十字国際委員会の設立
- 第7回：国際法の重要原則 (1) 合意は拘束する
- 第8回：国際法の重要原則 (2) 国際法と国内法の関係
- 第9回：国家 (1) 国際法上の国家
- 第10回：国家 (2) 属地主義と国籍主義
- 第11回：国家 (3) 犯罪人引渡
- 第12回：国家 (4) 領域① 領域の得喪
- 第13回：国家 (5) 領域② 日本の領域
- 第14回：国家 (6) 領域③ 領土紛争
- 第15回：国家 (7) 領域④ 無害通航権
- 第16回：国家 (8) 領域⑤ 通過通航権
- 第17回：国家 (9) 領域⑥ 持続可能な海洋資源の利用
- 第18回：国家 (10) 領域⑦ 領空
- 第19回：国家 (11) 領域⑧ 宇宙空間と核開発競争
- 第20回：国家 (12) 国籍
- 第21回：条約 (1) 条約案の交渉
- 第22回：条約 (2) 条約の署名と採択
- 第23回：条約 (3) 条約の批准
- 第24回：条約 (4) 条約の効力発生
- 第25回：条約 (5) 条約の無効と終了
- 第26回：条約 (6) 条約と国内法の関係
- 第27回：特別テーマ (1) 日本国憲法と日米安保条約
- 第28回：特別テーマ (2) 終戦と国際法
- 第29回：特別テーマ (3) 核軍縮の国際法
- 第30回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

教員の指示に従って、参考サイトで予習・復習してください。

**【テキスト】**

国際条約集 2018 岩沢雄二編集代表 有斐閣

**【参考文献】**

- 庄司真理子・宮脇昇『新グローバル公共政策』改訂第1版 晃光書房 2016年
- 島田征夫編著『国際法学入門』成文堂 2011年
- 杉原高嶺『基本国際法』第2版 有斐閣 2014年

**【コメント】**

出席票を配布するのは受講生が質問等を書くため、「出席点」にはなりません。小テストは成績評価にまったく関係ありません。

講義名称	曜時
コスト・マネジメント 〈秋〉	月2

**【教員名称】**

濱村 純平

**【講義概要】**

この講義では企業が原価計算を用いてコストをどのようにマネジメントし、コストを下げる活動を行っているかについて解説する。伝統的に多くの企業が用いてきたコスト・マネジメントについて解説したのち、近年注目を浴びている戦略的なコスト・マネジメントについて解説することとする。また、どういった経緯で戦略的なコスト・マネジメントが提唱され、伝統的なコスト・マネジメントと比べてどのようなメリットとデメリットがあるかを中心にケースを用いて解説する。本講義は基本的に谷 (2012)『エッセンシャル原価計算』(中央経済社)に基づいて解説する。また、講義のうち1回目と15回目を除く奇数回はグループワークとしてケーススタディをおこなう。実際の企業の経営戦略を考えてもらうことを通じて、学習したコスト・マネジメントを意識してもらう。なお、ケーススタディの内容はその場で考えてもらうため、事前に告知しない(大まかには記載しておくが変更の可能性あり)。

**【学習目標】**

コスト・マネジメントの原価計算を行えるようにする。伝統的なコスト・マネジメントや戦略的なコスト・マネジメントについて理解し、実際にどのようなコスト・マネジメントが実務で行われているかを知る。そして計算によって導き出されたコストが、外部報告だけでなくマネジメントに用いられていることを知ることで、コスト情報を効率的に経営に用いるシステムについて理解する。グループワークを行うことで他人と議論を行う訓練を積む。また、グループワークを通して多くの企業を深く知る機会を提供し、実際に企業が用いているコスト・マネジメントについて知る。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス・原価計算システムとの関係について
- 第2回：標準原価計算
- 第3回：ケーススタディ①—エンターテインメント業のケース
- 第4回：直接原価計算
- 第5回：ケーススタディ②—米国メーカーのケース
- 第6回：ABC/ABM
- 第7回：ケーススタディ③—家電メーカーのケース
- 第8回：品質原価計算
- 第9回：ケーススタディ④—飲食業のケース
- 第10回：原価企画
- 第11回：ケーススタディ⑤—自動車メーカーのケース
- 第12回：マテリアルフローコスト会計
- 第13回：ケーススタディ⑥—小売業のケース
- 第14回：コスト研究の最前線
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

春学期開講の『原価計算システム』の単位を修得済みであることが望ましい。もし、そうでない場合は原価計算システムのテキストを第2部まで読んでおくこと。この講義では主に『エッセンシャル原価計算』の後半について解説します。講義後は、実際にどんな企業が講義で学習した手法を使っているか調べてみてください。また、本講義では計算が重要な位置づけとなりますので、実際に手を動かして講義で解説した内容を確認してください。

**【テキスト】**

エッセンシャル原価計算 谷武幸  
978-4502450006 中央経済社 原価計算システムと同じテキストです。

**【参考文献】**

- タイトル：インサイト原価計算 著者：加登豊 出版社：中央経済社 ISBN：978-4502286704
- タイトル：インサイト管理会計 著者：加登豊 出版社：中央経済社 ISBN：978-4502286605
- タイトル：環境管理会計入門—理論と実践 著者：國部克彦 出版社：産業環境管理協会 ISBN：978-4914953850

**【コメント】**

講義への積極的な参加が50%となっていますが、グループワークへの参加が30%(グループワークの回には個人ワークをした後グループワークをしてもらいます)、グループワークで議論した内容の発表が20%になります。レポートは授業内レポートです。授業内レポートは偶数回に実施します。そのため、奇数回はグループワークで偶数回は授業内レポートとなります。また、公欠以外の欠席(就職活動や電車の遅延など)に対して特別の配慮はしませんので気を付けてください。講義内では私語は慎んでください。私語がひどい場合には減点します。もちろん、質問は歓迎しますし、グループワークの際には積極的に発言してください。

講義名称	曜日
コミュニケーション英文法 B 01 (秋)	水 4

**【教員名称】**

岡本 広毅

**【講義概要】**

本授業では、主に映像を使って英語の基礎を学び直します。これまでに学習した英文法の基礎的な知識を、実際に使えるように訓練していきます。学習する内容は実際に声に出して何度も練習していきますので覚悟してください。英語の実用性を重視しつつ、規則的な文法や構造、そして「フォーマル・インフォーマル」といった言葉の使用域についても考えていきます。

**【学習目標】**

1. 英語の基礎（構造、文法、表現）を理解する。
2. 英語の文法規則を使って英文を作れる（話す・書く）ようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロ
- 第2回：Shopping in Santa Monica 1 助動詞
- 第3回：Shopping in Santa Monica 2 助動詞
- 第4回：Moving Day 前置詞
- 第5回：A Beautiful View 1 現在完了
- 第6回：A Beautiful View 2 現在完了
- 第7回：Sunday Fun 1 比較
- 第8回：Sunday Fun 2 比較
- 第9回：Seeing Stars 1 WH 疑問文
- 第10回：Seeing Stars 2 WH 疑問文
- 第11回：Buying Food for a BBQ 1 動名詞
- 第12回：Buying Food for a BBQ 2 不定詞
- 第13回：Putting on a New Face 接続詞
- 第14回：Nice Surprises 受動態
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

必ず予習をしたうえで、出席すること。アクティビティに積極的に参加すること。

**【テキスト】**

We Love L.A.! L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～  
Robert Hickling・臼倉美里 978-4-7647-4049-5 金星堂

**【参考文献】**

**【コメント】**

試験：70% 授業中の取り組み・グループワークへの参加度：30%  
なお、遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なくして4回以上欠席した場合は、それ以降の出席を認めない。単なる出席 (attendance) だけでなく、授業への参加度 (participation) も評価の対象になる。

講義名称	曜日
コミュニケーション英文法 B 02 (秋)	金 4

**【教員名称】**

Kevin R. Gregg

**【講義概要】**

言葉を使って相手に自分の伝えたい内容を表現するには、その言語の文の作り方の規則（文法）の知識が必要である。この講義では、英語によるコミュニケーションを図る際に求められる文法を中心に学ぶ。この講義は春学期の授業の続きで、受講生がすでにその科目をとったことを前提とする。

**【学習目標】**

英語の構造の知識を深める。

**【講義計画】**

- 第1回：疑問文
- 第2回：修飾
- 第3回：命題と命題態度
- 第4回：事実と可能性（1）
- 第5回：事実と可能性（2）
- 第6回：焦点（1）
- 第7回：焦点（2）受動態
- 第8回：新情報・旧情報（1）
- 第9回：新情報・旧情報（2）
- 第10回：関係節（1）
- 第11回：関係節（2）
- 第12回：前提
- 第13回：丁寧表現（1）
- 第14回：丁寧表現（2）
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

予復習が必要。

**【テキスト】**

なし

**【参考文献】**

なし

**【コメント】**

小テストも期末試験も行なう。宿題を毎回配る。提出しないと単位をとれない。出席するかどうかは各自次第だが、欠席すればするほど単位をとる可能性は減る。

講義名称	曜時
コンピュータ論Ⅰ（秋）	水3

**【教員名称】**

藤間 真

**【講義概要】**

ここ数年「人工知能」という言葉がマスコミにぎわしていることからわかるように、今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具、色々なモノにくみこまれて制御する道具になりつつある。

何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことを、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視点から俯瞰することで明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。

動画資料や一読しただけでは意味が掴みにくい配布資料を用いての講義が大きな部分を占めるので、継続的な出席は単位認定の前提となる。また、必要に応じてグループ・ディスカッションによって議論を深めることもあることも、継続的な出席が必要となる要因である。

第1回で、講義の内容に関する重要なことを扱うので、欠席した場合の不利益はかなり大きなものとなる。受講を検討している諸君は必ず第1回に出席されたい。

なお、高校での教科「情報」の教育が多様化していることを受け、受講生の理解度を頻繁に測り、内容及び進度の調整を行う予定である。その結果、下記の予定に変更がある可能性は高い。詳細は、講義中にアナウンスする。

**【学習目標】**

本講の目的は、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視点から、コンピュータに関する幅広い知識を伝授すると共に、深い考察のきっかけを与えることである。

**【講義計画】**

第1回：第1回はオリエンテーションを行う。

受講希望者は出席のこと。

第2回：思考と機械—チューリング・テストと行動主義

第3回：思考と機械—チューリング・テストとサールの部屋

第4回：思考と機械—フレーム問題

第5回：思考と機械—ディープ・ラーニング

第6回：思考と機械—中間まとめ

第7回：コンピュータによる表現—音声と画像の表現

第8回：コンピュータによる表現—文字の表現

第9回：コンピュータによる表現—数の内部表現

第10回：ハードウェア装置の構成と仕組み

第11回：ソフトウェアの構成と仕組み

第12回：ネットワークの構成と仕組み

第13回：社会におけるコンピュータ利用の実例

第14回：障害者支援のためのコンピュータ

第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事後学習として求める復習のための努力が他の講義に比べて多いため、事前学習（予習）は特に要求しません。

言い換えると、きちんと復習することが単位取得の前提となります。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

新井紀子著、『コンピュータが仕事を奪う』、日本経済新聞出版社、2010

松田卓也著、『2045年問題：コンピュータが人類を超える日』、廣済堂新書、

2013 その他は、授業中に指示します。

**【コメント】**

レポート：80% 授業への積極的な参加：20%

いくつかの課題に関して、レポートを課します。

本講義の目的の一つが、自習するには難しいことを講義形式で伝えることにありますから、レポートの内容は、講義内容を踏まえたものとなります。その意味での「授業への積極的な参加」20%です。詳細は、オリエンテーション時に説明します。

講義名称	曜時
財政学Ⅱ（秋）	木1

**【教員名称】**

木村 佳弘

**【講義概要】**

財政学Ⅰでは、租税について学び、家計・企業とくらべた政府の特徴を知りました。財政学Ⅱでは、「集めたお金をどのように使っているのか」（経費論）、「政府が借金をする理由」（公債論）を学びます。その上で、政府の経済活動をコントロールする仕組みである予算について学びます。

**【学習目標】**

・政府が集めたお金を何に使っているかが分かる。

・家計・企業と政府の「予算」の違いが分かる。

・「税」と「公債」の性質がどう違うかが分かる。

**【講義計画】**

第1回：ガイダンス 3つのサブシステムと財政

第2回：経費論（1） 現代日本の財政支出

第3回：経費論（2） 国際比較から見える日本の歳出規模

第4回：公債論

第5回：財政投融资論

第6回：三つの政府（1） 三つの政府と政府間財政関係

第7回：三つの政府（2） 地方分権と地方行財政統制

第8回：三つの政府（3） 地方債

第9回：三つの政府（4） 社会保障基金

第10回：特別講義 財政の国際化と国際課税

第11回：予算論（1） 予算制度

第12回：予算論（2） 予算編成過程

第13回：予算論（3） 予算制度改革

第14回：日本財政の基本問題

第15回：試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義前の予習は必要ありません。講義後、テキストで復習した上で、提示された問題を必ずといて下さい。

**【テキスト】**

財政学 神野直彦 978-4641162983 有斐閣

**【参考文献】**

池上彦彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス、2015年

持田信樹『財政学』東京大学出版会、2009年

**【コメント】**

特に良い授業態度の方には加点することがあります。

講義名称	曜時
財務会計論（応用）〈秋〉	水3

**【教員名称】**

全 在 紋

**【講義概要】**

会計は「ビジネスの言語」とたとえられます。本講義は、20世紀最高の思想家と目されるF・ソシュールやM・フーコーの言語理論を参照しながら進められます。この科目の基礎編は「技術としての会計」がテーマでした。応用編では「言語としての会計」がテーマとなります。

**【学習目標】**

2011年3月、日本は東日本大震災で福島第一原発事故に見舞われました。被害の深刻さにもかかわらず、政府は原子力発電をやめられないでいます。原因は、何よりも言語としての会計制度にあります。本講義は、この点の解明を学習目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：ビジネスの言語としての会計①
- 第3回：ビジネスの言語としての会計②
- 第4回：ビジネスの言語としての会計③
- 第5回：複式簿記と資本主義①
- 第6回：複式簿記と資本主義②
- 第7回：複式簿記と資本主義③
- 第8回：国際会計論の解明①
- 第9回：国際会計論の解明②
- 第10回：国際会計論の解明③
- 第11回：国際会計論の解明④
- 第12回：権力と中世の会計理論
- 第13回：権力と近代の会計理論
- 第14回：権力と現代の会計理論
- 第15回：学期末試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

予習はともかく、復習は必要です。講義ノートの清書などを通じて、復習してください。なお、この講義は、正当な理由（電車の延着や就活その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

**【テキスト】**

会計の力 全 在 紋 978-4-502-16081-3 中央経済社

**【参考文献】**

全在紋、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

**【コメント】**

- ただし、下記の提出物を、加点評価の対象とする。
- ①ボーナス・カードの枚数＝授業中の質問等に対する正答ごとに一枚支給
- ②日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格証のA4サイズ・コピー

講義名称	曜時
産業構造論Ⅱ 〈秋〉	金4

**【教員名称】**

義永 忠一

**インテ**

**【講義概要】**

現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。産業構造論Ⅱは、「現在の日本における産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。また産業構造論Ⅱでは、講師への積極的な質問を推奨しています。

**【学習目標】**

講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。講義終了後の積極的な質疑応答を通して、発言する力の養成も学習目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：この講義のねらい
  - ・2018年度講義内容紹介（講師の都合により変更の可能性あり）
  - ・テーマ：現在の日本における産業構造の変化（サブテーマを設定する場合があります）
- 第2回：産業構造とは - 現在の日本における産業構造の変化 - 課題の設定
- 第3回：エネルギーの新たな流れ（ガス）
- 第4回：日本における貿易の現状
- 第5回：知的財産権 - 中小企業の挑戦 -
- 第6回：武器製造と日本の産業構造
- 第7回：繊維産業の現状
- 第8回：自動車産業の現状
- 第9回：情報産業 - 起業者の視点 -
- 第10回：シンクタンク・ビジネス
- 第11回：地域における外食産業の現状と課題
- 第12回：観光業におけるホテルの役割
- 第13回：環境に対する視点
- 第14回：産業構造の変化と成長戦略
- 第15回：まとめと課題の再確認

**【事前および事後学習の指示】**

毎回講義に臨む際、あらかじめ当該産業分野についてWebや新聞などにより情報を調べておくことが望ましい。また講義における質疑応答の際は、どんな内容でも構わないので、積極的に質問をすることを期待します。その後、各自で調査・研究することを望みます。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

その都度指示します。

**【コメント】**

- 第1回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。
- 第15回目は、まとめとして全講義を通しての理解を問います。
- 講義期間を数期に分け、各期1～3つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらいます。
- 講義内での提出物とレポートを総合して評価します。

講義名称	曜時
自然科学—進化の科学:生命・心・文化 (秋集)	月2/木3

**【教員名称】**

本間 栄男

**【講義概要】**

〈進化〉をキーワードに、生命の発生と発展、人間の心と文化・文明の発達を概観して総合的な理解への糸口をつかむ。なお、講義の中に〈性〉に関する話題を含むことになるので注意されたい。

**【学習目標】**

自然科学についての個別の知識を羅列的に暗記するのではなく、大まかな流れを把握することができるようになること。そのために、〈進化〉というキーワードを十分に理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 〈進化〉で何がわかるか
- 第3回: 進化思想の背景 (1) 進化思想の始まり
- 第4回: 進化思想の背景 (2) ラマルクおよびラマルク主義の進化思想
- 第5回: 進化思想の背景 (3) ダーウィンの進化論
- 第6回: 進化思想の背景 (4) 遺伝学の展開
- 第7回: 進化思想の背景 (5) 進化の統合説
- 第8回: 宇宙と地球の物質進化 (1) 宇宙の展開と地球の誕生
- 第9回: 宇宙と地球の物質進化 (2) 地球上での生命の発生
- 第10回: 宇宙と地球の物質進化 (3) 生命の化学
- 第11回: 宇宙と地球の物質進化 (4) 遺伝子
- 第12回: 宇宙と地球の物質進化 (5) 大量絶滅と生物進化
- 第13回: 人類の進化 (1) 哺乳類
- 第14回: 人類の進化 (2) 霊長類
- 第15回: 人類の進化 (3) ヒト科の進化
- 第16回: 人類の文化進化 (1) 言語と脳
- 第17回: 人類の文化進化 (2) 都市と宗教
- 第18回: 人類の文化進化 (3) 農業
- 第19回: 人類の文化進化 (4) 哲学と思想
- 第20回: 人類の文化進化 (5) 科学
- 第21回: 人類の文化進化 (6) 技術
- 第22回: 心の進化 (1) 知能
- 第23回: 心の進化 (2) 感情
- 第24回: 心の進化 (3) 美
- 第25回: 心の進化 (4) 倫理
- 第26回: 文化・心・遺伝子 (1) 脳の可塑性
- 第27回: 文化・心・遺伝子 (2) エピジェネティクス
- 第28回: 未来
- 第29回: 結局、〈進化〉とは何か
- 第30回: 試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

自然科学一般についての知見を広めるために、TVの科学番組を積極的に視聴する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

講義中に指示する。

**【コメント】**

期末の試験のみで成績を決める。  
講義には〈性〉に関する話題が出てくるので、注意すること。

講義名称	曜時
自然科学—数理の目で世界を見る (秋集)	火4/金4

**【教員名称】**

藤間 真

**【講義概要】**

多くの人にとっての数学のイメージは、「無味乾燥で現実とは遊離している学問」というものでしょう。また、色々な理由から、嫌いになった人も多いと思われます。しかし、数学の源流をたどると、現実を描写するための学問、他者とコミュニケーションをとるための学問から出発したことがわかります。この講義の目的の一つは、そのような、「世界を見る視座としての数学」に触れてもらうことです。もっとも、その様な視点から見るにしても、数学の基礎的な技能が必要になるわけではありません。そこで、このような技能の復習も扱います。また、試験場でパソコンが使えらるわけでもないので、あまりなじみが無いかもしれませんが、数学をする道具としてのパソコンも近年急速に進歩していますので、それについても扱います。さらに、パソコンを用いた学習システムを援用する予定です。(学習システムについては説明する時間を設けます) 他の講義に比べて、学習に必要な時間は相当多くなると考えられます。また、受講生の状況によっては、グループディスカッションを講義中に行う可能性があります。受講を検討する諸君はこれらの点も考慮に入れてください。 なお、頻繁に習熟度を確認して速度調整を行うことから下記に示した予定から変更がある可能性は大です。 詳細は第一回に示しますので、受講を検討する学生諸君は、必ず出席してください。

**【学習目標】**

この講義の目指す点は三つです。 その一つは、世界を見る視座としての数理科学に触れてもらうことです。 もう一つは、世界を見る視座としての数理科学に必要な中学高校レベルの数学を身につけることです。 最後の一つは、世界を見る視座としての数理科学の道具としてのパソコンについて知ることです。

**【講義計画】**

- 第1回: 本講義は、実習室の配分が講義計画執筆時現在で確定していないため、下記の予定に変更があり得ます。 詳細は第1回で示します。
  - ・オリエンテーション
  - 受講を検討する学生諸君は、必ず出席してください。どうしても出席できなかった人は、早急に担当者にメールで相談してください。
- 第2回: 数学へのコンピュータの応用  
数学支援ソフト Microsoft Mathematics の紹介  
学習システムについての説明
- 第3回: ざっくり把握するための道具—記述統計
- 第4回: 統計のための数学ソフト RStudio の紹介
- 第5回: ざっくり把握するための道具—記述統計  
・集団の表現としての代表値と図 (1)
- 第6回: ざっくり把握するための道具—記述統計  
・集団の表現としての代表値と図 (2)
- 第7回: 部分から全体を予測するための道具—推測統計  
・仮説検定の考え方
- 第8回: 部分から全体を予測するための道具—推測統計  
・仮説検定の基本的な手法
- 第9回: 部分から全体を予測するための道具—推測統計  
・RStudio を用いたシミュレーション (1)
- 第10回: 部分から全体を予測するための道具—推測統計  
・仮説検定に関する最近の話題
- 第11回: 統計まとめ
- 第12回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・数えるものと測るもの
- 第13回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・単位の意味と掛け算・割り算
- 第14回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・自然数と整数の関係  
・整数と有理数の関係
- 第15回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・実数への拡張  
・複素数への拡張
- 第16回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・三角関数と Microsoft Mathematics
- 第17回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・指数関数・対数関数
- 第18回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・行列による表現
- 第19回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・まとめと演習 (1)
- 第20回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・まとめと演習 (2)
- 第21回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・まとめと演習 (3)
- 第22回: 数の概念と量の概念—現象を見る目という視点から  
・まとめと演習 (4)
- 第23回: 定量的思考で意思決定する (1)  
・決定木の紹介
- 第24回: 定量的思考で意思決定する (2)  
・決定木の練習
- 第25回: 変化を表す関数と言う視点で世界を見る  
・関数の意味と表現
- 第26回: 変化を表す関数と言う視点で世界を見る  
・導関数の意義
- 第27回: 変化を表す関数と言う視点で世界を見る  
・微分を使って現象を見る (1)
- 第28回: 変化を表す関数と言う視点で世界を見る  
・微分を使って現象を見る (2)
- 第29回: 総まとめ
- 第30回: 試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

各回ごとに事後学習を指示します。 また、紹介する学習ソフトを使った自学学習も進めてもらいます。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

適宜指示します。

**【コメント】**

講義で扱った各分野について、期末試験と期末レポートの総合して評価します。 なお、本講義の評価時に、出席点は加味することはありませんが、きちんと出席していれば、単位認定できるように講義運営する予定です。 詳細は、オリエンテーション時に示します。

講義名称	曜日
思想—中国思想から今を読む 〈秋集〉	火 3/ 金 2

**【教員名称】**

甲田 久治

**【講義概要】**

中国古代の諸思想を通して、今を読み解く講義です。中国の古代思想は広く東アジアに根を下ろし、人々の物の見方や考え方を形成する上で大きな影響を与えました。そして、その多くが書物となって今に伝えられています。本講義は、中国の知的遺産を解きほぐしながら、今日の我々が抱えるさまざまな問題を見つめ、現実の世界に目を開いて考え直し、一人ひとりの思考を深化させる場とします。したがって、本講義はただ聞いているだけの講義ではなく、学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、数名ごとのグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することとなります。なお、本講義を始めるに当たり、都合三回のオリエンテーションを行います。本講義を履修しようと思う人は、必ずいずれかのオリエンテーションに参加し、本講義の目的・講義の進め方などをしっかり理解し納得した方のみ履修することができます。オリエンテーションに参加せずに本講義に登録しても無効です。

**【学習目標】**

本講義は書物から学ぶものではなく、自分の頭で考え、人の意見に耳を傾け、議論し、考えを整理してそれを他者に言葉（文字）で伝える能力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション (1)
- 第2回：オリエンテーション (2)
- 第3回：オリエンテーション (3)
- 第4回：第一部 発想の転換
  - 1 無用の用
  - 2 水の如く
  - 3 足るを知る
  - 4 多くを求めない幸せ
- 第二部 眞実を見抜く
  - 1 本当に大切なもの
  - 2 本当に怖いもの
  - 3 自己アピール
  - 4 リーダーシップ
- 第三部 人と人との絆
  - 1 家 書
  - 2 ホスピタリティー
  - 3 原心定罪
- 第四部 平和への希求
  - 1 戦争請負業
  - 2 正義の戦い
- 第五部 国家の責務
  - 1 業 民
  - 2 民の口を防ぐ
  - 3 五美四悪
  - 4 国 益
- 第六部 人間の魅力
  - 1 四 知
  - 2 老いのよこび
- のいずれか
- 第5回：同上
- 第6回：同上
- 第7回：同上
- 第8回：同上
- 第9回：同上
- 第10回：同上
- 第11回：同上
- 第12回：同上
- 第13回：同上
- 第14回：同上
- 第15回：同上
- 第16回：同上
- 第17回：同上
- 第18回：同上
- 第19回：同上
- 第20回：同上
- 第21回：同上
- 第22回：同上
- 第23回：同上
- 第24回：同上
- 第25回：同上
- 第26回：同上
- 第27回：同上
- 第28回：同上
- 第29回：最終レポート作成
- 第30回：総括

**【事前および事後学習の指示】**

そのつど指示する。

**【テキスト】**

無用の用 甲田久治  
研文出版

**【参考文献】**

- 林語堂著『支那のユーモア』(岩波新書)
- 林語堂著『中国=文化と思想』(講談社学術文庫)
- 宮崎市定著『中国に学ぶ』(中公文庫)
- 甲田久治著『漢詩酔談』(大修館)
- 甲田久治著『王朝滅亡の予言歌—古代中国の童謡』(大修館)
- 甲田久治著『儒教の知恵—矛盾の中に生きる』(中公新書)
- 甲田久治著『中国古代の「謎」と「予言」』(創文社)
- 甲田久治著『天安門落書』(講談社現代新書)
- KUSHIDA'S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>

**【コメント】**

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。また、本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません(欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります)。遅刻・欠席は講義の妨げとなりますので、講義を辞退していただく場合もあります。毎回の小レポートと複数回の中間レポートが義務づけられ、小レポートおよび中間レポートの不良者は最終レポート作成・提出の資格を失います。レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価します。

講義名称	曜日
社会運動論 〈秋集〉	月 2/ 水 1

**【教員名称】**

上野 淳子

**【講義概要】**

社会運動や市民活動は社会に何をもたらすのか? 講義の前半では、社会運動やボランティア団体、NPO・NGOなど市民社会を支える様々な組織をとりあげ、組織の発生から展開、終焉までの過程を追いながら、それらの組織を社会学的に分析するための方法を学ぶ。後半では、NPO法の成立と市民参加・協働の制度の広がり、グローバル化や人口減少が市民社会に与えた影響を検証し、今後の市民社会を展望する。

**【学習目標】**

社会運動など市民社会を構成する組織を社会学的に理解・分析できるようになることを目指す。まず、基本的な分析概念とアプローチを理解した上で、現代社会において社会運動やNPOが果たす役割を考えていきたい。

**【講義計画】**

- 第1回：市民社会を支えるさまざまな組織
- 第2回：未来を予言する社会運動—反原発運動
- 第3回：社会問題を告発する社会運動—消費者運動
- 第4回：承認をめぐる闘争—水俣病患者たちの運動
- 第5回：市民社会論と社会運動論
- 第6回：事例—①原発立地をめぐる
- 第7回：人はなぜ運動/活動をするか—①不満と集合行動
- 第8回：人はなぜ運動/活動をするか—②合理的選択
- 第9回：社会運動の目標と組織形態
- 第10回：どのように組織を維持するか—①資源とネットワーク
- 第11回：どのように組織を維持するか—②参加とアイデンティティ
- 第12回：いつ、どこで活動するか—①政治的機会構造
- 第13回：いつ、どこで活動するか—②諸要因の比較
- 第14回：いつ、どこで活動するか—③運動が終わるとき
- 第15回：社会運動組織の変化—①変化の4類型
- 第16回：社会運動組織の変化—②社会運動から政党へ
- 第17回：事例—②政党をつくる
- 第18回：1960年代の学生運動
- 第19回：マルクス主義的運動論
- 第20回：新しい社会運動論
- 第21回：社会運動の歴史—断絶と継承
- 第22回：他組織との関係—①行政、議会、政党
- 第23回：他組織との関係—②市場
- 第24回：他組織との関係—③地縁組織
- 第25回：事例—③市民が市民を支援する
- 第26回：政治と宗教
- 第27回：グローバル化と社会運動
- 第28回：「市民社会」論
- 第29回：まとめ①社会運動を分析する
- 第30回：まとめ②市民社会の展望

**【事前および事後学習の指示】**

授業の配布プリントをもとに復習し、疑問点があれば次回の授業時に示してください。また、インターネット、新聞記事検索等を使って日本の市民社会組織を調べ、これまでに学んだ理論や概念を用いて説明してみましょう。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

大畑裕嗣ほか編『社会運動の社会学』有斐閣、2004年。その他、随時紹介します。

**【コメント】**

授業中に指示する課題への取り組み(レポート30%、コメント提出10%)と最終試験(60%)によって評価します。

講義名称	曜時
社会学 03 (秋集)	火4/金5

**【教員名称】**

平野 孝典

**【講義概要】**

本講義では、逸脱論・社会病理学を中心として、社会学的な思考法を解説する。講義の前半では、犯罪社会学の主要な理論や現代日本社会の犯罪動向について解説する。続いて講義の後半では、自殺の社会学の主要な理論や現代日本社会の犯罪動向について解説する。

講義では、小テスト、グループワーク、ミニレポートの提出等を課すため、単位取得には授業時間外の学習が非常に重要となる。

特にミニレポートは4本の提出を求め、そのすべてを提出することが定期試験を受験する条件である点に注意してほしい。

また、講義を円滑に進行するために、受講生の座席を指定することをあらかじめ了解しておくこと。

**【学習目標】**

- (1) 犯罪を社会学的な視点から説明することができるようになる。
- (2) 犯罪統計の読解方法を習得し、日本社会の犯罪動向を適切に説明できるようになる。
- (3) 自殺を社会学的な視点から説明することができるようになる。
- (4) 自殺統計の読解方法を習得し、日本社会の自殺動向を適切に説明できるようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：逸脱論・社会病理学の視点
- 第2回：社会的バンド理論
- 第3回：社会的学習理論
- 第4回：アノミー論
- 第5回：社会解体論・集約的効力論
- 第6回：合理的選択理論
- 第7回：ライフコース論
- 第8回：小まとめ 犯罪社会学理論の現在
- 第9回：デュルケームの犯罪理論
- 第10回：ラベリング論
- 第11回：社会問題の構築主義
- 第12回：犯罪統計の読解方法 (1) 暗数について
- 第13回：犯罪統計の読解方法 (2) 犯罪被害調査
- 第14回：日本社会の犯罪動向
- 第15回：小まとめ 犯罪を社会学する方法
- 第16回：社会学と自殺
- 第17回：デュルケームの自殺理論
- 第18回：社会的統合と自殺 (1) 海外の研究動向
- 第19回：社会的統合と自殺 (2) 日本の研究動向
- 第20回：社会的規制と自殺 (1) 海外の研究動向
- 第21回：社会的規制と自殺 (2) 日本の研究動向
- 第22回：小まとめ デュルケーム自殺理論の継承と発展
- 第23回：自殺の伝染性 (1) メディア報道と自殺
- 第24回：自殺の伝染性 (2) 社会的ネットワークと自殺
- 第25回：自殺のジェンダーパラドックス
- 第26回：自殺統計の読解方法 (1) 2つの統計
- 第27回：自殺統計の読解方法 (2) いじめ自殺と過労自殺
- 第28回：日本社会の自殺動向
- 第29回：小まとめ 自殺を社会学する方法
- 第30回：総まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

各授業の冒頭で復習テストをおこなうので、授業資料をよく復習すること。また、ミニレポートは、授業でとりあげた文献を1つ以上読んだうえで書いてもらう予定である。授業で紹介した参考文献にもしっかりと目を通しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

矢島正見ほか編、『よくわかる犯罪社会学入門 [改訂版]』, 学陽書房, 2009年  
 澤田康幸・上田路子・松林哲也, 『自殺のない社会へ——経済学・政治学からのエビデンスに基づくアプローチ』, 有斐閣, 2013年  
 このほかの文献については、適宜授業中に指示する。

**【コメント】**

成績は (1) 定期試験 (2) ミニレポート (1000字~2000字) × 4 (3) 授業への貢献度 (グループワークへの参加や課題の提出など) によって評価する。  
 定期試験を受験するためには、ミニレポートをすべて提出しなければならない。詳細は初回授業で説明する。  
 なお、遅刻や私語が目立つなど、受講態度が著しく悪い場合は大幅に減点する。

講義名称	曜時
社会学特講—人口減少社会を考える (秋)	月2

**【教員名称】**

村上 あかね

**【講義概要】**

少子高齢化社会、人口減少社会という言葉聞いたことがあるだろう。日本の人口は徐々に減少しはじめています。あなたが将来どのような生き方を目指すとしても、人口減少の影響は避けて通れない。祖父母・親世代とはかなり異なる生き方をする可能性が高い。なぜ日本の人口は減少したのだろうか。私たちの人生にはどのような影響があるのだろうか。私たちはどうしたらいいのだろうか。働き方、恋愛・結婚、コミュニティ、医療や年金を切り口に、人口減少社会について考える。

**【学習目標】**

- ※学習目標  
 この講義の目標は、以下の3点である。
1. データをもとに、人口減少の実態と原因を考えることができるようになる
  2. 人口減少の影響を理解し、解決策を考えることができるようになる
  3. レポートの書き方を学び、レポートを書けるようになる
- 授業の内容をもとに最終レポートを書くため、出席は重要である。レポートの書き方については授業中に繰り返し説明するので、レポートをあまり書いたことがない学生、レポートの書き方に自信がない学生の受講を歓迎する。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：人口減少の現状①：日本の人口はどのくらいいつから減ったのか
- 第3回：人口減少の現状②：人口が増えることが深刻な問題だった時代
- 第4回：人口減少の現状③：あなたの身の回りの人口減少
- 第5回：人口減少の現状④：新聞やニュースではどのように報道されているか
- 第6回：中間まとめ①
- 第7回：人口減少の原因①なぜ減ったのか～恋愛・結婚から考える
- 第8回：人口減少の原因②なぜ減ったのか～働き方から考える
- 第9回：中間まとめ②
- 第10回：人口減少の影響①人口が減少するとどんなことが起こるのか
- 第11回：人口減少の影響②働き方はどう変わるか
- 第12回：人口減少の影響③学校はどう変わるか
- 第13回：人口減少の影響④コミュニティはどう変わるか
- 第14回：人口減少の影響⑤あなた自身の将来を考える
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

毎日、新聞を読んだり、ニュースを見るよう心がけてほしい。レポートは、講義の中で印象に残ったトピックを1つ取り上げるものとする。分量は2,000字程度でパソコンを使って書くことがのぞましい。新聞やニュース、データ、参考文献等を含め、構成を工夫すると良いレポートになる。どのように書けばよいかは授業中に指示する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義名称	曜日
社会学特講—日本人の悩みの変遷 〈秋〉	水 3

**【教員名称】**

池田 知加

**【講義概要】**

この講義は、社会的な観点から新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくことになります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。

**【学習目標】**

「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解したうえで、社会的な観点から分析することができる。人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解し、説明することができる。つまり、個別的な事柄から、普遍的な何かをとりだしてみること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考ができる。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション：講義内容の概要
- 第2回：資料への視点 1: 人生相談に悩みを打ち明ける
- 第3回：資料への視点 2: 社会意識の変化をみてとる
- 第4回：若者の悩み 1: 人生目標の変化
- 第5回：若者の悩み 2: 「個性尊重」の教育への転換
- 第6回：若者の悩み 3: 「個性尊重」の教育の問題
- 第7回：子どもの悩み：教室の中の対人関係
- 第8回：親子間の悩み 1：結婚しない「子ども」について
- 第9回：親子間の悩み 2：自立しない「子ども」について
- 第10回：男性の悩み 1：悩みの言葉を奪われた男性
- 第11回：男性の悩み 2：男性にとっての「仕事」
- 第12回：女性の悩みの変遷 1：女性にとっての「家庭」
- 第13回：女性の悩みの変遷 2：「家庭」と「愛情」の意味変容
- 第14回：重い男性の経済負担・女性の働き方
- 第15回：講義の総まとめ：自己決定主義の現在

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回配布するレジメを読み直して、自分なりに理解を深めること
- ・講義で提示する課題（コメントペーパー）

**【テキスト】**

**【参考文献】**

池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」幸せはどこにある?』光文社新書 4334032968

**【コメント】**

成績は主に試験で評価します。試験は授業の内容を理解しているかを問います。また、授業中に提出するミニレポートを書くことが授業内容の理解につながります。

講義名称	曜日
社会学特講—福澤諭吉と夏目漱石 〈秋〉	月 4

**【教員名称】**

竹内 真澄

**【講義概要】**

拙著『諭吉の愉快と漱石の憂鬱』をテキストに、日本近代化の問題を考える。対象は福澤諭吉と夏目漱石。漱石は諭吉より32歳年下だ。君たちの年齢を仮に20歳だとすれば、50代の先輩とどういふふうにつき合えばいいかという問題になる。連帯する?戦う?無視する?生い立ち、個人とは何か、ものの見方、社会認識の4つの領域で二人がどういふふうに対照的か、考える。どちらに軍配をあげるにせよ、がっぴりよつの大相撲を見てとり、考えて欲しい。

**【学習目標】**

諭吉と漱石は、日本と西洋、市民と階級、近代化と天皇制、アジアと日本、利己と自己、戦争と革命といった主たるテーマを準備した人です。あとで出てくる人々は、二人がしつらえたまな板の上で、ものごとを考えているのです。ですから、二人がつくっているテーマ設定や問題の相互関連構造がどんなものかをよく学んでください。

**【講義計画】**

- 第1回：はじめに
- 第2回：I 生い立ちゆえー〈譜代下っ端侍〉と〈没落名主〉
- 第3回：I 生い立ちゆえー〈一身にして二世を経る〉と〈私は強くなりました〉
- 第4回：II 個人とは何かー〈独立自尊〉と〈自己本位〉
- 第5回：II 個人とは何かー〈個人〉をめぐる分岐
- 第6回：II 個人とは何かー〈人間交際〉と〈彼も人なり我も人なり〉
- 第7回：III ものの見方ー〈社長〉と〈社員〉
- 第8回：III ものの見方ー上からと下から
- 第9回：III ものの見方ー総合的に
- 第10回：IV 社会認識ー諭吉『文明論之概略』と漱石『現代日本の開化』
- 第11回：『石田雄にきく 日本の社会科学と言葉』
- 第12回：IV 社会認識ー〈明治維新〉と〈第二フランス革命〉
- 第13回：IV 社会認識ー漱石の社会史的文学
- 第14回：おわりに
- 第15回：諭吉／漱石と私たち

**【事前および事後学習の指示】**

福澤諭吉と夏目漱石が書いた本は、大小さまざまに出ている。どれでもいいので、解説書ではなく、本人が書いたものをたとえ小品でも良いから、読んでおくことが講義の親近感を引き上げる。

**【テキスト】**

諭吉の愉快と漱石の憂鬱 竹内真澄  
978-4-7634-0681-1 花伝社

**【参考文献】**

『石田雄にきく 日本の社会科学と言葉』  
著者：竹内真澄  
出版社：本の泉社

**【コメント】**

講義名称	曜時
社会学特講一ポピュラー音楽史における公共圏の変遷(秋)	火 1

**【教員名称】**

長崎 励朗

**【講義概要】**

ポピュラー音楽はいつの時代も世代ごとの文化的共通基盤を生み出してきた。各時代に流行した音楽ジャンルがどのような背景のもとに生まれてきたのか。それを知ることは、人の思考が何によって生まれ、また変化していくのかを理解するという知識社会的な意義を持っている。このような考えのもと、本講義では、洋楽を中心にポピュラー音楽の歴史を概観しながら、それを通して社会学の理論を学んでもらう。本講義を通して、自身の愛好する趣味の領域を点ではなく、線で捉える思考やそれを学問と結びつける思考を身につけてほしい。

**【学習目標】**

- ・ものごとを点ではなく線で捉える歴史的な考え方を身につけてもらうこと
- ・社会学の知識を身につけてもらうこと
- ・理論を現実と結びつける思考力を獲得してもらうこと

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：モッズ・ヒッピー比較論① 「族」の系譜
- 第3回：モッズ・ヒッピー比較論② 階級・階層が生み出すコミュニティ
- 第4回：フォークソングからフォークへ 創られた「伝統音楽」
- 第5回：パンクロック 知性とは何か？
- 第6回：ハードコアパンク 禁欲主義と反知性主義
- 第7回：ニューウェーブ リアルとリアリティ
- 第8回：日本のニューウェーブ 再帰性の昂進
- 第9回：ヒップホップ① ブロック・パーティー
- 第10回：ヒップホップ② コミュニケーション資本主義
- 第11回：渋谷系 サンプリングとデータベース消費
- 第12回：オルタナティブ・ロック① フェスの思想的背景
- 第13回：オルタナティブ・ロック② イギリスとアメリカの文化政策
- 第14回：変わるものと変わらないもの
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業内で紹介する書籍に関しては興味を持ったものを自主的に読み込むこと

**【テキスト】**

**【参考文献】**

適宜提示する

**【コメント】**

講義名称	曜時
社会思想史 I (秋)	火 3

**【教員名称】**

梅田 百合香

**【講義概要】**

本講義では、西洋の古典古代から近代および現代の代表的な政治思想を分析することによって、人間性、市民的徳、共和主義などを中心に、民主主義が持つ根源的な問題と現代的課題を考察する。

**【学習目標】**

思想史研究を通じて、現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：講義ガイダンス  
ソクラテスの問い (1) ソクラテス裁判
- 第2回：ソクラテスの問い (2) 無知の知
- 第3回：プラトンの哲人王 (1) 正義の追究
- 第4回：プラトンの哲人王 (2) 哲人王の構想
- 第5回：アリストテレスの倫理学 (1) 倫理学の方法と対象
- 第6回：アリストテレスの倫理学 (2) 徳の探究
- 第7回：アリストテレスの政治学 (1) ポリスと人間
- 第8回：アリストテレスの政治学 (2) 国制論
- 第9回：キケロの共和主義 (1) 正義と慈善
- 第10回：キケロの共和主義 (2) 共和主義
- 第11回：マキアヴェッリの新しい国家観 (1) 統治術
- 第12回：マキアヴェッリの新しい国家観 (2) 共和主義
- 第13回：アレントの複数性の政治 (1) 全体主義
- 第14回：アレントの複数性の政治 (2) 人間の条件
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義内容 (パワーポイント) は、各講義前よりSドライブ (eureka) で見ることができるので、事前学習、事後学習をしておくこと。  
各思想家が提起した問題と関わるような自分の身近な出来事や政治や社会の問題を、できるだけ意識し気にかけておくことが望ましい。

**【テキスト】**

参考文献欄を参照

**【参考文献】**

講義の大部分は、山岡龍一「西洋政治理論の伝統」(放送大学教育振興会、2009年)に沿って進められる。  
宇野重規「西洋政治思想史」有斐閣、2013年。  
仲正昌樹編著『政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。

**【コメント】**

基本的には期末試験の点数で評価されるが、レスポンスシートにより講義に積極的に参加した場合、平常点が加点される。  
毎回、講義の最後に感想・質問をレスポンスシートに記入し提出することができる。提出は義務ではなく任意であるが、このレスポンスシートをもとに次回授業中に質疑応答が行われ、応答に積極的に参加した受講者は平常点として加点される。

講義名称	曜時
社会思想史Ⅱ 〈秋〉	火 4

**【教員名称】**

梅田 百合香

**【講義概要】**

本講義では、西洋の近現代を代表する7人の思想家の主要なテキストに照準を合わせ、彼らの政治思想を分析することによって、現代世界が抱える問題の本質を歴史的な視点から考察する。

**【学習目標】**

思想史研究を通じて、現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：講義ガイダンス  
ホップズ (1) 時代背景と課題
- 第2回：ホップズ (2) なぜ人々は国家を形成するのか
- 第3回：ロック (1) 時代背景と課題
- 第4回：ロック (2) 政府は何のために存在するのか
- 第5回：ルソー (1) 時代背景と課題
- 第6回：ルソー (2) なぜ社会契約が必要なのか
- 第7回：スミス (1) 時代背景と課題
- 第8回：スミス (2) 経済的自由主義の定式化
- 第9回：ミル (1) 時代背景と課題
- 第10回：ミル (2) 個性と自由
- 第11回：マルクス (1) 時代背景と課題
- 第12回：マルクス (2) 資本主義社会批判
- 第13回：ロールズ (1) 時代背景と課題
- 第14回：ロールズ (2) 社会協働と正義の原理
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義内容 (パワーポイント) は、各講義前よりSドライブ (eureka) で見ることができるので、事前学習、事後学習をしておくこと。  
各思想家が提起した問題と関わるような自分の身近な出来事や政治や社会の問題を、できるだけ意識し気にかけておくことが望ましい。

**【テキスト】**

参考文献欄を参照

**【参考文献】**

参考文献は各回ごとに提示される。主な参考文献は下記の通り。  
坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』名古屋大学出版会、2014年。  
宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。  
仲正昌樹編著『政治思想の知恵—マキアヴェリからサンデルまで』法律文化社、2013年。  
山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。

**【コメント】**

基本的には期末試験の点数で評価されるが、レスポンスシートにより講義に積極的に参加した場合、平常点が加算される。  
毎回、講義の最後に感想・質問をレスポンスシートに記入し提出することができる。提出は義務ではなく任意であるが、このレスポンスシートをもとに次回授業中に質疑応答が行われ、応答に積極的に参加した受講者は平常点として加算される。

講義名称	曜時
社会福祉特講—キャンプディレクター論 〈秋〉	木 2

**【教員名称】**

石田 易司

**【講義概要】**

組織キャンプのディレクターとして必要な知識、技術を体験的に学びます。

**【学習目標】**

組織キャンプとは何かを考えると、社会のニーズを理解する広い視野と、それにキャンプという方法で対応する知識、技術が求められます。またディレクターとして、組織、リーダーシップ、コミュニケーション、グループワークなどのソーシャルワークの理論、技術も求められます。実際のキャンプでプログラウディレクター、マネジメントディレクターとして、活躍できるよう学び、日本キャンプ協会のキャンプディレクター 2 級の資格取得を目指します。

**【講義計画】**

- 第1回：社会の現状とキャンプの特性
- 第2回：キャンプディレクターとは
- 第3回：キャンプの計画
- 第4回：キャンプの運営
- 第5回：キャンプの評価
- 第6回：キャンプ組織
- 第7回：リーダーシップ
- 第8回：コミュニケーション
- 第9回：グループワークとキャンプカウンセリング
- 第10回：安全と健康
- 第11回：リスクマネジメントと自己責任
- 第12回：広報と募集
- 第13回：キャンプ場の管理
- 第14回：環境と自然保護
- 第15回：資格認定試験

**【事前および事後学習の指示】**

レポート課題あり

**【テキスト】**

キャンプ専門科目 日本キャンプ協会

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義名称	曜時
社会福祉サービス論B (秋)	火 1

**【教員名称】**

加藤 貴久

**【講義概要】**

社会福祉サービスを通して、サービス提供者としての知識、技術、マインドを学ぶ。  
社会福祉サービスは、実際に行われているものを紹介するとともに、基本的な知識の理解する。  
サービス提供者として、具体的な支援スキルとマインドの理解する。

**【学習目標】**

社会福祉サービスを通して、サービス提供者としての知識、技術、マインドを理解する。  
①社会福祉サービスを通じて、制度、取り巻く環境、利用者について学びます。  
②社会福祉サービスを通じて、支援スキルと継続的な学び方について理解する。  
③社会福祉サービスを通じて、職業倫理を理解し、人権意識を向上させる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション (具体的な福祉サービス、福祉サービス提供者の視点、福祉の学び方)
- 第2回：国民生活と社会福祉サービス
- 第3回：社会福祉サービスの変遷
- 第4回：社会福祉サービスを取り巻く環境① (人口・世帯構造の変化)
- 第5回：社会福祉サービスを取り巻く環境② (生活構造の変化、社会保障給付費)
- 第6回：社会福祉サービスを取り巻く環境③ (社会保障制度改革)
- 第7回：生活困窮者のための制度とサービス
- 第8回：高齢者のための制度とサービス
- 第9回：少子化、子育て支援の制度とサービス
- 第10回：家庭支援の制度とサービス
- 第11回：障がい児・者の制度とサービス
- 第12回：社会福祉サービスの提供者と組織
- 第13回：ソーシャル・ワーク① (ソリューション・フォーカスト・アプローチを中心に)
- 第14回：ソーシャル・ワーク② (EBPとジェネラリスト・アプローチを中心に)
- 第15回：試験・福祉サービスの展望

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習では、新聞やニュースで報じられる社会福祉サービスに関するものに目を通しておくこと。  
事後学習では、わからない用語を調べること。ノートの整理や問題演習を通じて、得た知識をアウトプットしておくこと。

**【テキスト】**

社会保障入門 2018 社会保障入門編集委員会  
978-4-8058-5615-4 中央法規出版

**【参考文献】**

適宜、紹介する

**【コメント】**

講義名称	曜時
Japanese Studies –ヒト脳研究としての言語研究[4] (秋集)	水 1/ 水 2

**【教員名称】**

有川 康二

英語による

**【講義概要】**

Mother Nature created the human brain. The human brain produces a natural language as your mother language. Grammar rules are natural laws. Studying the laws and mechanisms of the human natural language computation is studying natural laws. This class studies the information processing system (the human natural language computation system) that is created by Mother Nature. The class materials are presented in Power Point. The class will mainly be held in English. The examples that we use in this class are your mother languages. (母なる自然はヒト脳を創りました。ヒト脳はあなたの母語のような自然言語を生み出します。文法規則は自然法則です。ヒトの自然言語計算について調べることは、自然法則を調べることです。このクラスでは、母なる自然が創った情報処理システム(ヒト自然言語計算システム)について勉強します。授業の資料はパワーポイントで提示されます。授業は基本的に英語で行われます。このクラスで使用する例はみなさんの母語です。)

**【学習目標】**

The goal is to understand why human language study is a search for natural laws. We also challenge various commonsense dogmas about language. (なぜヒト語の研究が自然法則の探求となるのかを理解することが目標です。言葉に関する様々な常識的なドグマを疑っていきます。)

**【講義計画】**

- 第1回：Introduction (はじめに)  
Grammar study as empirical science (経験科学としての文法研究)  
Mendelian approach to language (言語のメンデル的アプローチ)
- 第2回：What is matter? (モノとは何か?) What is mind? (ココロとは何か?) What is explanation? (説明とは何か?) (1)
- 第3回：What is matter? What is mind? What is explanation? (2)
- 第4回：When did we start speaking? (ヒトは、いつ、喋り始めたのか?)
- 第5回：Questioning commonsense view on language (ことばについての常識を疑う) (1)
- 第6回：Questioning commonsense view on language (2)
- 第7回：Computational system of human natural language (CHL; ホモ・サピエンス自然言語システム), sensorimotor system (SM; 知覚運動システム), conceptual-intentional system (CI; 概念志向システム)
- 第8回：Bee communication (ミツバチのコミュニケーション)
- 第9回：Inertia law in SM: sequential voicing (知覚運動システムで働く慣性の法則: 連濁) (1)
- 第10回：Inertia law in SM (2)
- 第11回：Inertia law in SM (3)
- 第12回：Inertia law in SM (4)
- 第13回：Inertia law in SM (5)
- 第14回：Review, Q & A
- 第15回：Review, Q & A
- 第16回：More evidence for MC (minimal computation) in CHL (CHLにおける最小計算の法則の追加証拠) (1)
- 第17回：More evidence for MC in CHL (2)
- 第18回：Structure yields meaning (構造が意味を生み出す) (1)
- 第19回：Structure yields meaning (2)
- 第20回：Structure yields meaning (3)
- 第21回：Structure yields meaning (4)
- 第22回：CHL as virus check system (ウイルス・チェック・システムとしての言語システム) (1)
- 第23回：CHL as virus check system (2)
- 第24回：CHL as virus check system (3)
- 第25回：CHL as virus check system (4)
- 第26回：Review, Q & A
- 第27回：Review, Q & A
- 第28回：Student presentation (1)
- 第29回：Student presentation (2)
- 第30回：Student presentation (3)

**【事前および事後学習の指示】**

Please review the materials that we cover in each class. This will help you understand the content of the next class more effectively. (毎回、授業の復習をしてください。次回の授業内容をより効果的に理解できるようになります。)

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

You select a topic and perform a Power Point presentation. Active class participation is evaluated. (学生はトピックを選び、パワーポイントでプレゼンを行ないます。積極的な授業参加が評価されます。)

講義名称	曜日
障害者スポーツ論 A 02 (秋)	火 2

【教員名称】  
高橋 明

【講義概要】

一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport = 適応性のスポーツ」であるということを学び、視聴覚教材（ビデオ）等も利用して、そうぞうりよく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。

【学習目標】

- ①障害についての知識と理解を含め、障害者のスポーツを通して生きる力を育む。
- ②障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史について学ぶ。
- ③障害者のスポーツ指導法について学ぶ。
- ④障害者スポーツの現状と課題について学ぶ。

【講義計画】

- 第1回：授業概要説明・ガイダンス 障害者のスポーツビデオ観賞  
第2回：パラリンピックの映像を通して障害を理解する  
第3回：障害者の理解について  
①障害をどう捉えるか  
②障害者の現状 ③障害者スポーツの理解 ④障害者スポーツのビデオ観賞  
第4回：障害者の理解について  
①障害者とリハビリテーション  
②リハビリテーションにおけるスポーツの活用  
第5回：障害者のスポーツ振興  
①障害者スポーツの現状  
②障害者スポーツの意義・効果  
第6回：障害者スポーツの歴史と現状  
①医療スポーツとして ③競技スポーツとして  
第7回：障害者と生涯スポーツ  
①障害者スポーツの動向  
②障害者と生涯スポーツの動向  
第8回：障害者と生涯スポーツの課題  
①障害者スポーツ交流センターについて  
②障害者スポーツセンターについて  
第9回：全国障害者スポーツ大会  
①全国障害者スポーツ大会の歩み  
②全国障害者スポーツ大会の動機  
第10回：障害者と競技スポーツ  
①競技スポーツの現状  
②代表的な国内・国際大会の現状  
第11回：補装具  
①義肢（義足や義手）について  
②車椅子（競技用）について  
第12回：障害者スポーツ指導者制度について  
①指導者制度の歩み  
②障害者スポーツ指導者の種類  
第13回：障害者スポーツとボランティア活動  
①ボランティア活動の意義と理念  
第14回：障害者スポーツの概念と指導法  
①スポーツ指導上の留意事項  
第15回：障害者への運動処方  
①運動処方に当たっての留意事項

【事前および事後学習の指示】

特になし

【テキスト】

授業用に自主制作したテキストの購入

【参考文献】

タイトル「障害者とスポーツ」 出版社（岩波書店・岩波新書）著者（高橋明）

【コメント】

試験の成績と平常点（出席率 80%・授業態度等を含む）を総合評価

講義名称	曜日
証券論（秋集）	水 1/ 金 1

【教員名称】  
松尾 順介

【講義概要】

この講義は、有価証券の定義、株式の発行市場と流通市場、信用取引やデリバティブなど、専門的で高度な内容を講義します。また、金融危機以降、証券市場は急激に変化していますので、最近の変化についても講義します。したがって、かなり難易度の高い内容を含みますが、対話型・参加型形式を取り入れ、双方向型の授業を行い、全受講生が理解できるよう努力したいと思います。毎回の授業では質疑応答、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。

【学習目標】

本講義の学習目標は、第一に証券市場に関する専門的な知識を身につけることです。なぜなら上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれません。ベンチャー企業にとっても、資金調達手段です。また、銀行や証券会社に就職する学生は、証券外務員試験を受験しなければなりませんので、証券市場の知識が不可欠です。さらに、フィナンシャル・プランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要です。第二に、証券市場の現状や課題を考えることによって、「考える」力を高めることです。証券市場には答えのない事象や問題が多々ありますので、これらについて考えることによって、受講生の「考える」力を高めたいと思います。

【講義計画】

- 第1回：はじめに  
第2回：課題ポートフォリオ  
第3回：有価証券 1（有価証券の定義）  
第4回：有価証券 2（有価証券の種類）  
第5回：株式会社 1（様々な会社形態）  
第6回：株式会社 2（株式会社とコーポレートガバナンス）  
第7回：株式 1（配当請求権）  
第8回：株式 2（議決権）  
第9回：株式 3（その他の株主権）  
第10回：株式 4（株式と債権）  
第11回：株式発行市場 1（発行市場と流通市場）  
第12回：株式発行市場 2（新規設立）  
第13回：株式発行市場 3（IPO）  
第14回：株式発行市場 4（上場会社の株式発行：エクイティ・ファイナンス）  
第15回：株式発行市場 5（転換社債と新株予約権）  
第16回：株式流通市場 1（流通市場の機能：価格発見機能と流動化機能）  
第17回：株式流通市場 2（流通市場の制度的条件 1：ディスクロージャー）  
第18回：株式流通市場 3（流通市場の制度的条件 2：不正取引の禁止）  
第19回：証券取引所 1（上場制度と取引参加資格制度）  
第20回：証券取引所 2（売買取引）  
第21回：証券取引所 3（清算・決済制度、自主規制）  
第22回：株価指数  
第23回：信用取引  
第24回：デリバティブ 1（先物取引 1）  
第25回：デリバティブ 2（先物取引 2）  
第26回：デリバティブ（オプション取引）  
第27回：債券市場  
第28回：社債市場  
第29回：クラウドファンディング  
第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

この講義では、頻繁に指名されるので、緊張感を持って受講する必要がある。また、専門的かつ難易度の高い内容を含んでいるので、前回の講義内容をよく復習して講義に臨む必要がある。具体的な準備学習は以下である。①この講義では、キーワードとなる専門用語が頻出するので、まずこれらの専門用語の意味や内容をしっかり頭に入れておくこと、②配布資料は、講義をより深く理解するためのものが数多く含まれているので、それらを自分で読み解き、理解を深めておくこと、③普段から証券市場に関するニュースや新聞記事に目を通し、関連する知識・情報を集めておくこと、などである。

【テキスト】

証券市場論 二上季代司 有斐閣

【参考文献】

日本証券経済研究所編『図説 日本の証券市場』日本証券経済研究所

【コメント】

講義形式は対話型・参加型形式を取り入れますので、授業中に質疑応答、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。期末テストで評価する。ただし、①毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。②課題提出も加点対象とする。③授業中に頻繁に指名回答を求め、良い回答には加点する。④プレゼンテーションやディスカッションも加点対象とする。なお、出席点は一切考慮しない。

講義名称	曜日
精神医学 B (秋)	水 5

**【教員名称】**

岡田 章

**【講義概要】**

精神医学 B (秋) では精神医学の各論について、ICD-10 および DSM-5 に分類されている症状性を含む器質性障害から児童・青年期の精神障害までほぼすべての各疾患の概念、成因、症状、診断、治療、経過について最新の知見に基づいて講義を行う。特に今後増加の可能性のある認知症に関しては十分に時間を割り当てた。講義において理解を深めるためDVDやビデオを使用する予定である。また、講義の習得度も確認するため講義の終わりには小テストを行う予定である。

**【学習目標】**

1 症状性を含む器質性障害を理解させる。2 統合失調症を理解させる。3 気分障害を理解させる。4 神経症性障害を理解させる。5 精神作用物質による精神および行動の障害を理解させる。6 人格障害を理解させる。7 てんかんを理解させる。8 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群を理解させる。9 児童・青年期の精神障害を理解させる。

**【講義計画】**

- 第1回：症状性を含む器質性障害 (1)  
1. 総論 2. 認知症を主とする器質性精神障害
- 第2回：症状性を含む器質性障害 (2)  
1. 総論 2. 認知症を主とする器質性精神障害
- 第3回：症状性を含む器質性障害 (3)  
1. 総論 2. 認知症を主とする器質性精神障害
- 第4回：症状性を含む器質性障害 (4)  
1. 総論 2. 認知症を主とする器質性精神障害
- 第5回：症状性を含む器質性障害 (5)  
1. 総論 2. 認知症を主とする器質性精神障害
- 第6回：統合失調症 (1)
- 第7回：統合失調症 (2)
- 第8回：気分障害
- 第9回：神経症性障害
- 第10回：精神作用物質による精神および行動の障害
- 第11回：パーソナリティ障害・てんかん
- 第12回：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- 第13回：児童・青年期の精神障害 (1)
- 第14回：児童・青年期の精神障害 (2)
- 第15回：まとめと試験

**【事前および事後学習の指示】**

毎回配布される講義レジュメを復習して、疑問な点は次回の講義で質問すること

**【テキスト】**

**【参考文献】**

改訂 精神保健福祉士養成セミナー 精神医学 第1巻 へるす出版 ICD-10 精神および行動の障害 WHO 編 医学書院 DSM-5 精神疾患の分類と手引き APA 編 医学書院 精神病 笠原嘉編 岩波書店精神症状の把握と理解 原田憲一 中山書店

**【コメント】**

試験と出席で評価  
授業の終わりに行う小テストは試験対策に役立つ。

講義名称	曜日
税法 B (秋)	火 1

**【教員名称】**

浦東 久男

**【講義概要】**

企業課税についての基本原則を理解する。国際税法の基礎的概念を理解する。法人税法の概要を講義により学んだ後、国際税法を学ぶ。

**【学習目標】**

- ・租税法律主義の内容と意義を理解する。
- ・法人税法を学び、会社法を中心とする企業法と税法の関係を理解する。
- ・国際税法の基礎的概念、考え方を学ぶことにより、国家の課税権のあり方を考える。
- ・会計学、財政学、公共経済学を学んでいる学生は、税法・国際税法とそれらの科目の関連性を考える。

**【講義計画】**

- 第1回：導入 授業計画の説明 わが国の税制を概観する
  - ・税財政の状況
  - ・税法と他の科目(法分野)との関係
  - ・法人税の特徴
  - ・所得税との相違点
  - ・租税法の法源(法律・政令などの国内税法と租税条約)
  - ・租税法の基本原則(租税法律主義)
- 第2回：租税法の解釈適用の基礎  
企業課税の特徴
  - ・国税としての法人税と地方税としての法人事業税
- 第3回：法人税と所得税との関係 ～法人段階の課税と株主段階の課税、二重課税論～
- 第4回：法人税法における法人の種類 ～同族会社に対する課税～
- 第5回：法人税法と企業会計 ～法人税法 22 条と企業会計原則～  
法人税法における益金 ～受取配当、資産の評価益～
- 第6回：法人税法における損金 (1) ～売上原価、減価償却など～
- 第7回：法人税法における損金 (2) ～役員給与、交際費、寄付金～
- 第8回：国際課税 (1) 国家の課税管轄権について
  - ・無制限納税義務者と制限納税義務者 ～居住者と非居住者、内国法人と外国法人～
  - ・国内源泉所得に対する課税 (その1)
- 第9回：国際課税 (2) 国外の納税者に対する課税
  - ・国内源泉所得に対する課税 (その2)
  - ・恒久的施設と課税所得の範囲
- 第10回：国際課税 (3) 国内の納税者に対する課税
  - ・国際的三重課税と外国税額控除
- 第11回：国際課税 (4) 外国の子会社に関する課税
  - ・受取配当益金不算入
  - ・外国子会社合算課税 (タックスヘイブン税制)
- 第12回：国際課税 (5) 国内租税法と租税条約の関係
  - ・国内法と条約の関係
  - ・OECD モデル租税条約
  - ・日本が締結した租税条約について
- 第13回：国際課税 (6) 租税条約が定める課税
  - ・OECD モデル条約が定める各所得の課税
- 第14回：国際課税 (7) 移転価格税制と国際的租税回避
  - ・移転価格税制と独立企業間価格
  - ・タックスヘイブンと情報交換
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

教科書によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出席される質問に対する解答を自分で考えて、自分のノートに記録すること。授業中に小テストを例題として実施するが、成績評価には含まない。

**【テキスト】**

図説・租税法ノート(十訂版) 八ツ尾順一  
978-4433639273 清文社  
入門国際租税法(新版) 村井正編著  
9784433538330 清文社

**【参考文献】**

- 1 岡村忠生・渡辺徹也・橋祐介著『ベーシック税法(最新版)』(有斐閣)
- 2 吉野維一郎編著『図説日本の税制平成 29 年度版』(財経詳報社)
- 3 三木義一・前田謙二著『よくわかる国際税務入門(第3版)』(有斐閣)
- 4 中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選[第6版]』(有斐閣)

**【コメント】**

- (1) 試験：定期試験として実施
- (2) レポート(その1)：次の課題について、1000 字程度で説明しなさい。  
課題「法人税法と企業会計原則との関係」  
提出期限：11 月の第 1 回目の授業日
- (3) レポート(その2)：次の課題について、1000 字程度で説明しなさい。  
課題「居住者と非居住者の納税義務の相違について」  
提出期限：12 月の第 2 回目の授業日  
定期試験とレポート(2 回分)をあわせて成績評価を行う。

講義名称	曜時
税務会計論入門 〈秋〉	火 3

**【教員名称】**

金光 明雄

**【講義概要】**

税務会計は、企業の経済活動を認識・測定し、法人所得課税の基礎となる課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって生み出された情報は、申告納税制度のもとでは、まず税務当局に対して報告されます。さらに、合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プランニングのための情報として、企業の経営者に対しても報告されます。最近では特に後者の側面に関して、できるだけ納税額を節約して税引後キャッシュフローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されており、税務会計の果たす役割はますます重要なものとなってきています。本講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとその背後にあるルール（税法計算規定）を、財務会計との相違点にも触れながら解説します。

**【学習目標】**

企業会計における利益計算と税務会計における課税所得計算の異同について理解を深め、税務会計の基本構造を体系的に説明できるようになることを学習の到達目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：税務会計とは
- 第2回：法人所得課税制度の概要
- 第3回：課税所得計算の構造
- 第4回：益金計算の原則と特例
- 第5回：損金計算の原則と特例
- 第6回：税務収益の会計（1）：  
販売収益、譲渡収益、請負収益、受贈益、その他収益の税務処理
- 第7回：税務収益の会計（2）：受取配当等の益金不算入
- 第8回：税務費用の会計：与等、寄附金、交際費等、貸倒損失、その他費用の税務処理
- 第9回：税務資産の会計（1）：棚卸資産の税務処理
- 第10回：税務資産の会計（2）：固定資産の税務処理
- 第11回：税務資産の会計（3）：金融資産の税務処理
- 第12回：税務負債の会計：引当金、準備金の税務処理
- 第13回：税務資本の会計：欠損金の税務処理
- 第14回：法人税額の計算
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

前回までの学習内容を復習し、授業に出席してください。

**【テキスト】**

テキストは使用しません。

**【参考文献】**

必要に応じて授業中に指示します。

**【コメント】**

学期末試験（50点）と小テスト（50点）で評価します。

講義名称	曜時
税務戦略論 〈秋〉	金 1

**【教員名称】**

金光 明雄

**【講義概要】**

企業では、納税額を節約して税引後キャッシュフローを増やすことが企業価値最大化のための重要な課題として認識されており、経営戦略におけるタックス・マネジメントの重要性が高まっています。本講義では、合理的な租税負担を可能にするタックス・マネジメントにおける税務会計実務について学習します。

**【学習目標】**

企業の経営戦略における税務問題を分析できるようになることを学習の到達目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：税務会計の仕組み（1）：課税所得計算
- 第2回：税務会計の仕組み（2）：税額計算
- 第3回：税務会計の重要性と特殊性
- 第4回：税務会計実務の変容
- 第5回：税務会計における企業観
- 第6回：税務会計の機能
- 第7回：税務計画（1）：  
税務計画の意義、税務計画における税引後キャッシュフローの予測
- 第8回：税務計画（2）：有効な税務計画の立案
- 第9回：法人の組織形態の多様化と税務会計（1）：  
企業の法的組織形態と税率
- 第10回：法人の組織形態の多様化と税務会計（2）：  
連結納税制度
- 第11回：法人の組織形態の多様化と税務会計（3）：  
グループ法人単体課税制度
- 第12回：経済活動のグローバル化と税務会計（1）：  
国際的な課税問題
- 第13回：経済活動のグローバル化と税務会計（2）：  
外国税額控除制度
- 第14回：経済活動のグローバル化と税務会計（3）：  
移転価格税制、外国子会社合算税制
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

前回までの学習内容を復習し、授業に出席してください。

**【テキスト】**

テキストは使用しません。

**【参考文献】**

必要に応じて授業中に指示します。

**【コメント】**

学期末試験（50点）と演習課題（50点）で評価します。

講義名称	曜日
世界経済事情Ⅱ (秋)	月 1

**【教員名称】**

モグベル ザファル

**【講義概要】**

この授業の主なテーマは国際貿易、国際金融、外国為替市場に係る諸制度です。世界経済でいま何が起きているのか。また、経済の現状を見つめるとき、世界の国々とその国民は何に期待を掛け、何を脅威と受け止めているのか。「世界経済事情Ⅱ」では、このような視点に立って「世界経済入門」の講義を行い、これらの分野に関連するトピックスを取り上げて分かりやすく説明します。できるだけタイムリーな、そして受講生が関心を持てるようなトピックスを選ぶことを目指します。なお、トピックスの内容や順序は、世界情勢の展開により変わることがあります。

**【学習目標】**

世界経済の仕組みと今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の趣旨です。受講生が新聞の国際経済記事に興味をもって読み、自分なりの理解と意見を持てるようになればこの講義の目的は果たされたと考えます。

**【講義計画】**

- 第1回：戦後世界経済のルールとその起源：「近隣窮乏政策」の負の遺産とその封じ込め
- 第2回：GATT / WTO 体制と国際貿易
- 第3回：GATT / WTO 体制の3大原則
- 第4回：自由貿易に向けて：数量規制・関税・非関税障壁の軽減
- 第5回：GATT / WTO 体制におけるさまざまな例外措置：
  - 特恵関税と地域統合を中心に
- 第6回：多角的貿易交渉の過去と現在
- 第7回：日本のFTA戦略：TPP交渉と加盟をめぐる
- 第8回：東アジア地域統合と日本の対応
- 第9回：IMFの組織と仕組み
- 第10回：金融危機とIMFのコンディショナリティー
- 第11回：外国為替事情の仕組み
- 第12回：変動相場制のもとで日本円が歩んできた道・前半
- 第13回：変動相場制のもとで日本円が歩んできた道・後半
- 第14回：経済グローバル化の光と影
- 第15回：経済グローバル化と日本の対応

**【事前および事後学習の指示】**

1. 経済学の基礎を復習しておくこと。
2. 配布資料を正しく管理し、その内容について予習・復習を行うこと。
3. 新聞の、国際経済関連の記事を継続的に読み、世界経済の現状をできるだけリアルタイムで追うこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

テキストの代わりに、資料をほとんど毎回配布するので、配布資料の責任ある管理を期待する。

**【コメント】**

出席点は、授業中に行う数回の小テストの結果による

講義名称	曜日
世界市民—近代日本の戦争と社会 02 (秋)	月 2

**【教員名称】**

島田 克彦

**【講義概要】**

「世界史の中の近代日本」というテーマの下、第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る時期の歴史について講義を行います。ヨーロッパでの第一次大戦勃発は世界史上の画期となりました。「国家総力戦」の思想が広まる時代にあって、人類の英知は「戦争違法化」の潮流を生み出していきます。しかし、帝国主義諸国がみずからの植民地支配を温存したことが世界史に矛盾をもたらし、新しい戦争につながっていきます。このような世界史の中で、東アジアの一角を占める日本はどのように行動していったのでしょうか。授業では、矛盾を深めていく世界史の中で日本が果たした役割を考えていきます。

**【学習目標】**

二つの大戦を生み出した世界史の中で、日本が果たした役割を理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：近代日本の歩みと戦争 —開講にあたって—
  - 第1回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
- 第2回：第一次世界大戦と「21カ条要求」
- 第3回：第一次世界大戦期の東アジアにとシベリア干渉戦争
- 第4回：第一次世界大戦の集結と東アジアの民族運動
- 第5回：国際連盟とワシントン体制 —第一次大戦後の世界—
- 第6回：「戦争違法化体制」の構築
- 第7回：中間まとめ
- 第8回：関東大震災 —大日本帝国の大災害—
- 第9回：近代工業都市大阪の成立と社会変動
- 第10回：1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（1）
  - 満州事変—
- 第11回：1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（2）
  - 枢軸国陣営の形成—
- 第12回：日中戦争の勃発
- 第13回：第二次世界大戦からアジア太平洋戦争へ
- 第14回：第二次世界大戦の終結と戦後世界
- 第15回：全体のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。

**【テキスト】**

使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

**【参考文献】**

- 江口圭一『体系日本の歴史 14 二つの大戦』小学館、1993年（ライブラリー版）
- 木畑洋一『第二次世界大戦 —現代世界への転換点』吉川弘文館、2001年（歴史文化ライブラリー）
- 小林啓治『戦争の日本史 21 総力戦とデモクラシー』吉川弘文館、2008年
- 伊香俊哉『戦争の日本史 22 満州事変から日中前線戦争へ』吉川弘文館、2007年
- 吉田裕・森茂樹『戦争の日本史 23 アジア・太平洋戦争』吉川弘文館、2007年
- 荒井信一『空爆の歴史 —終わらない大量虐殺』岩波書店、2008年（新書）
- 宮地正人監修『日本近現代史を読む』新日本出版社、2010年
- 山室信一『複合戦争と総力戦の断層—日本にとっての第一次世界大戦』人文書院、2011年

**【コメント】**

学期末試験 40%、レポート（2回程度）30%、出席・平常点 30%。  
講義の最後に、その日の講義内容をまとめた小レポートを提出していただきます。この蓄積が平常の成績となります。  
試験では、受講生のみなさんが授業を通じて身につけた力を確認します。

ア  
—  
カ  
サ  
—  
タ  
—  
ナ  
—  
ハ  
—  
マ  
—  
ヤ  
—  
ラ

講義名称	曜日
世界市民—グローバル化する社会に生きる(秋)	火 3

**【教員名称】**

篠原 千佳

**【講義概要】**

桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」である。この講義は新入生を対象にし、本学の目指す「世界の市民」とは何か、また、どうしたらそうなるのかを共に学び考える。講義の序盤では、そのための概論として本学の歩んできた歴史、キリスト教、世界事情、人権、平和、環境などについて学ぶ。その後、近年のグローバル化社会に見られる現象と問題を、国際社会学的な視点で考察する。

**【学習目標】**

大学での学びには、絶対的な正解はない。ただ単に「答え」を覚えようとする態度では、「世界の市民」への道は遠のくばかりである。この講義では、世界市民としての知識を増やすだけではなく、自ら疑問を持って積極的に考えていく姿勢を身につける。グローバル化する社会で起こっている現象や問題について、法・制度の変化と影響を考えながら、社会学的に理解・分析する基礎能力を育成する。この学期の最終目標は、「世界市民」であるための基礎知識を習得し、価値観の多様化する現代社会の現象・問題を、多角的な社会学的視点で理解・分析できるようになることである。

**【講義計画】**

- 第1回：建学の精神と「世界の市民」
- 第2回：キリスト教
- 第3回：世界事情と国際交流
- 第4回：人権
- 第5回：環境問題
- 第6回：戦争と平和
- 第7回：これまでのまとめと復習
- 第8回：国際人口移動
- 第9回：多文化社会
- 第10回：国際組織と制度
- 第11回：グローバル化と日本における市民権の拡大
- 第12回：日本社会と移民
- 第13回：韓国社会と国際移動—労働、養子、結婚、留学
- 第14回：移民の国アメリカ社会—移民の国の移民政策と文化
- 第15回：学期のまとめと復習

**【事前および事後学習の指示】**

講義時の指示に従い、教科書と関係資料を毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。基本的には、教科書の該当する章（週に平均20ページほど）と配布資料がある場合にはそれを熟読し、授業中の課題に取り組みるよう準備しておくこと。講義時間内外での提出課題は、個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。

**【テキスト】**

よくわかる国際社会学【第2版】樽本 英樹  
ISBN-13: 978-4623075911 ミネルヴァ書房  
現代人の国際社会学・入門—トランスナショナルリズムという視点 西原和久・樽本英樹【編】 ISBN978-4-641-17421-4 有斐閣コンパクト

**【参考文献】**

教科書以外の参考文献は講義時間内に指示する。

**【コメント】**

出席と授業参加30%、小レポート30%、期末試験レポート40%  
※但し、受講者数等によって変更となる可能性がある。  
授業中の参加・貢献（課題）と講義・教科書・文献の内容理解を試験レポートで確認し、総合的な判断で評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に授業参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生ともコミュニケーションをとりながら理解を深める事が求められる。

講義名称	曜日
世界市民—現代日本の形成(秋)	金 3

**【教員名称】**

小島 和貴

**【講義概要】**

現代日本の直接的な起点は近代であることから、前近代と近代の連続性と非連続性の視点から近代をとらえ、近代が現代にいかにつなげたのかを解明することとする。その際、「近代化」、「自由民権運動」、「富国強兵・殖産興業」、「憲政」、「大正デモクラシー」、「戦時体制」、「GHQと民主化政策」、「戦後復興」、「自民党一党優位体制」、「地方分権」、等を手がかりにすることとしたい。先人のあゆみを振り返り、現在のわれわれの社会を読み解くヒントを得ることを目指す。

**【学習目標】**

この講義では以下の点が重視される。  
・維新以降の日本のあゆみについて概観することができる。  
・「明治維新」、西欧諸思想の影響、戦争、日本国憲法、サンフランシスコ講和条約、GHQ等のタームを理解し、日本の現代を説明することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション。この授業の進め方、扱う資料、授業中のアクティビティ等について説明を行う。
- 第2回：西欧の衝撃。幕末から本格化する西欧諸国の日本のアプローチと日本が受けた影響について検討する。この時期活躍した福沢諭吉の視点を加味する。
- 第3回：幕末維新期の政府の動き。大政奉還、王政復古、五箇条のご誓文、版籍奉還、廃藩置県等の現代的な意義について検討する。
- 第4回：明治初期の出来事。鳥羽伏見の戦い、明治六年政変、西南戦争、自由党の結成等、明治初期の出来事に関する現代的意義を検討する。
- 第5回：大日本帝国憲法の制定。大日本帝国憲法の制定が目指されるようになった背景、実際の動き、その内容について、現代的な意義を検討する。
- 第6回：西欧諸思想の流入。明治中期から後期にかけて紹介・議論された、マルクス主義や社会主義、民主主義党の現代的な意義について検討する。
- 第7回：満州事変から日米戦争へ。軍部大臣現役武官制の復活等を通じて、軍部の政局に対する影響力が強まっていった時期の日本の状況について検討する。
- 第8回：GHQの間接統治。終戦からGHQの間接統治の時期の日本について検討する。
- 第9回：日本国憲法の制定。日本国憲法が制定されたことの歴史的意義について検討する。
- 第10回：サンフランシスコ講和条約から戦後復興へ。サンフランシスコ講和条約の意義や戦後復興を進める日本の課題等について検討する。1955年の「保守合同」についても注目する。
- 第11回：高度経済成長。戦後日本の「保守本流」路線や池田勇人内閣の経済政策等について検討する。国民生活の変容についても注目する。
- 第12回：沖繩返還から日本列島改造論の登場前後。佐藤栄作内閣の進めた沖繩返還交渉や田中角栄内閣の歴史的意義について検討する。
- 第13回：新自由主義路線の登場と自民党一党優位体制の終焉。ポスト高度経済成長路線として登場してきた新自由主義の意義とうについて検討する。
- 第14回：ポスト自民党一党優位体制と地方分権論。1993年以降強調されるようになる地方分権論の歴史的意義について検討する。
- 第15回：まとめ。日本の現代を理解する際に有益となる視点について検討する。

**【事前および事後学習の指示】**

（事前学習）国史大辞典や政治学事典等の資料を活用しながら、現代日本を語る上で重要となる版籍奉還、大日本帝国憲法、日米戦争、GHQ、日本国憲法、所得倍増計画等の事項や福沢諭吉、伊藤博文、マッカーサー等重要人物について確認する。  
（事後学習）授業で学んだことを具体的に説明することができる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義名称	曜時
世界市民—紛争解決の知識とスキル 〈秋〉	木 3

**【教員名称】**

山本 順一

**【講義概要】**

わたしたちは好むと好まないにかかわらず、身の回りにもめごと、紛争が発生し、それにいやおうなく巻き込まれてしまいます。そのような日常的紛争にどのように対応するのかについて、アメリカの考え方、自力紛争解決法 (pro se litigation) などの考え方を参考にしながら、これからの身の処し方について思いを巡らせてみましょう。

**【学習目標】**

ひとの世にもめごと、紛争と事件、事故は不可避です。一生のうち必ず何度かは遭遇する身の回りのもめごと、紛争に関して、主体的に解決するための基本的知識とスキルを身につけることを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：\*以下に予定している15回の講義内容を示しますが、おおむねの目安です。タイムリーな時事のトピックが発生したときなどは、臨機応変に講義内容に反映させようと思っています。内容と順序についても、履修者の理解の程度を確かめながら、臨機応変に対応します。
- はじめに：もめごとと学ことはじめ
- 第2回：まさかわたしに：私自身にふりかかった余計な事件
- 第3回：紛争事実の調べ方
- 第4回：事件、紛争と人間
- 第5回：アメリカ交渉学の現状
- 第6回：調停 (mediation) や仲裁 (arbitration)
- 第7回：ディスカバリー (証拠開示) の哲学
- 第8回：日本のもめごと、民事訴訟の実態：  
日本の裁判は国民に信頼されているか？
- 第9回：最近のアメリカの事件を参考に
- 第10回：日本の紛争裁断に関する諸制度：  
もめると原状回復、もとに戻ることはできない⇒新しい秩序の形成
- 第11回：フォーラム・ショッピング
- 第12回：日本とアメリカの少額訴訟
- 第13回：スラップ訴訟：政府、大企業、富裕者の横暴
- 第14回：アメリカ人の破産と倒産裁判所 (bankruptcy court)
- 第15回：まとめ：リーガル・リテラシー

**【事前および事後学習の指示】**

時間の余裕のあるときに、近くの大阪地方裁判所堺支部や岸和田支部、堺簡易裁判所や岸和田簡易裁判所などに出かけてみてください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

Paul Bergman and Sara Berman, Represent Yourself in Court: How to Prepare and Try a Winning Case. 8th ed., Nolo, 2013.  
橋 玲『臆病者のための裁判入門』文春文庫, 2012.  
河野順一『身の回りの法律トラブル対処法』自由国民社, 2007.

**【コメント】**

まじめに出席し、一緒に考えていただければ、一定程度の交渉能力、紛争回避能力、紛争処理能力が修得できます。授業中にみなさんに対してしばしば質問をなげかけます。上手に応えられれば加点措置をとらせていただきます。楽しみながら一緒に考えましょう。

講義名称	曜時
世界のメディア 〈秋集〉	月 1/木 3

**【教員名称】**

小池 誠

**【講義概要】**

この講義では、世界の多様なメディアを取り上げ、ふだん身近に接している日本のメディアとの比較を通して、メディアとそれを創り出す社会・文化との関係を考えます。第一に、メディア・リテラシーの観点から異文化の描き方を検討し、第二に、マンガ・アニメや音楽を対象に、現代世界におけるメディアのグローバル化の問題を考え、第三に、インドとインドネシアの映画を取り上げ、映画と社会・文化との関係を考えていきます。授業のなかで、身近な日本のマンガから、ふだんあまり目にするのがないアジアの映画まで幅広く取り上げ、世界のメディアにアプローチしたいと思います。この講義は、世界のメディアを通して、幅広く現代世界のさまざまな文化とグローバル化の動向に対する理解と関心を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」と「現代の諸問題への対応」につながることを目的としています。

**【学習目標】**

- 講義をとおして、以下の4つの目標を達成できるようにします。
- 1 現代世界におけるメディアのグローバル化について理解し、授業で取り上げたテーマについて自分の考えを的確に述べるができる。
  - 2 アジアの映画と社会・文化との関係について、授業で取り上げた題材を使って論じることができる。
  - 3 外国映画に描かれた日本人または日本文化・社会について、自分の意見をまとめることができる。
  - 4 毎回の授業で学んだことをまとめ、それについて自分の意見を述べるができる。

**【講義計画】**

- 第1回：授業ガイダンス：世界のメディアへのアプローチ
- 第2回：メディア・リテラシー：海外取材番組における異文化の描き方
- 第3回：『世界ウルルン滞在記』とNHKドキュメント
- 第4回：アメリカ映画に描かれた日本 (1)
- 第5回：アメリカ映画に描かれた日本 (2)
- 第6回：メディアのグローバル化：日本製マンガの海外進出 (1)
- 第7回：メディアのグローバル化：日本製マンガの海外進出 (2)
- 第8回：日本製アニメの海外における人気 (1)
- 第9回：日本製アニメの海外における人気 (2)
- 第10回：『花より男子』のドラマ化
- 第11回：アジアを駆けめぐる『花より男子』
- 第12回：K-POPの海外進出戦略 (1)
- 第13回：K-POPの海外進出戦略 (2)
- 第14回：ハロウィンのグローバル化とローカル化
- 第15回：インドネシアのポピュラー音楽グンドゥット
- 第16回：インドネシアの多様なポップス
- 第17回：インドネシアにおけるJKT48の人気
- 第18回：ヨーロッパにおけるkawaii人気
- 第19回：パリのJapan Expo
- 第20回：世界の日本文化紹介イベント
- 第21回：政府支援によるクールジャパン戦略
- 第22回：韓国映画産業のグローバル化
- 第23回：現代の多様なインド映画 (1)
- 第24回：現代の多様なインド映画 (2)
- 第25回：世界のクリスマスとサンタクロース
- 第26回：サンタクロースのグローバル化とメディア
- 第27回：現代の多様なインドネシア映画
- 第28回：インドネシア映画に描かれた宗教
- 第29回：インドネシア映画のなかの日本人
- 第30回：講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業で取り上げたテーマに関連するテレビ番組や映画などを積極的に観るようになしてください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

講義のなかで必要に応じて紹介します。

**【コメント】**

期末試験の成績と、毎回の講義で実施する小テスト (出席チェックを兼ねる)の内容を総合的に評価して成績を決めます。

講義名称	曜時
戦略管理会計〈秋〉	木 4

**【教員名称】**

山田 伊知郎

**【講義概要】**

この講義では、管理会計分野の中でも特に組織の目標や方向性に向かって変革していくときに有効な考え方・ツールについて扱う。具体的には、予算管理、コスト・マネジメント、バランス・スコアカード、ライフサイクルコストリング、マテリアルフロー会計である。戦略管理会計の根底にある考え方は、制度や仕組みというものは、作り出された時の状況にもっとも適したものを目指して創造されるが、社会や環境の変化はそれが作り出された状況を変化させていく。一方、制度や仕組みは自動的に変化しない。そこで組織において仕組みを見直して不断に状況に適合したものに作り替えていく努力が必要だと考えられる。戦略管理会計の分野は、今ある仕組みに仕事を従属させるのではなく、仕事の目的に沿った仕組みを作り出すことに役立つ科目として活用していただきたい。

**【学習目標】**

組織の中に存在する仕組み・システムがどのように成り立っているのかを具体的に理解する。また、仕組み・システムが作られた時の状況に依存し、環境の変化に応じて再構築を必要とされることを理解することを目的とする。管理会計の基礎知識を獲得すると同時に、受講生自身が興味を持ったいくつかのトピックスについて、深く理解し、自分の言葉で人に説明できるようになることを達成目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：戦略とは・管理会計とは（イントロダクション）
- 第2回：予算管理と脱予算管理
- 第3回：伝統的コストマネジメントの現代的問題点とその克服方法
- 第4回：戦略的コストマネジメント（活動基準原価計算）
- 第5回：戦略的コストマネジメント（直接原価計算）
- 第6回：戦略的コストマネジメント（制約の理論）
- 第7回：戦略的コストマネジメント（原価企画）
- 第8回：知的資産管理（1）知的資産とは
- 第9回：知的資産管理（1）知的資産の管理
- 第10回：BSC(1)BSCとは
- 第11回：BSC(2) 戦略マップ
- 第12回：BSC(3) 戦略マップの作成
- 第13回：BSC(4)BSCの作成と活用
- 第14回：環境管理会計（1）ライフサイクルコストリング
- 第15回：環境管理会計（2）マテリアルフロー会計、まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業の開始前に、参考文献を一読しておくことをお勧めします。

**【テキスト】**

管理会計入門（第二版）加登豊  
978-4-532-11369-8 日本経済新聞社

**【参考文献】**

谷武幸著（2011）『エッセンシャル管理会計 第2版』、中央経済社。  
加登豊著（1999）『管理会計入門』日本経済新聞社

**【コメント】**

講義名称	曜時
ソーシャルワーク論 I B 〈秋〉	金 5

**【教員名称】**

梅谷 進康

**【講義概要】**

〔授業の目的・ねらい〕  
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。  
〔授業全体の内容の概要〕  
ソーシャルワーク実践論の入門と位置づけ、ソーシャルワークの視点、実践概念、実践の構成要素、実践方法、実践の過程とその展開、各論的方法の特性などの解説と考察を通して、総合的な視野から理解を深める。基本的な内容は I A と同様だが、I B では、ソーシャルワーカーの価値と倫理や実践活動に必要なとされる知識や技術について、より具体的な実践場面との関連性の中で体系的に理解することを目的とする。

**【学習目標】**

- ①社会福祉概念を明確にすること
- ②ソーシャルワーク概念を明確にすること
- ③ソーシャルワーク実践の構成要素への考察を深めること
- ④ソーシャルワーク実践研究としての過程研究への考察を深めること
- ⑤ソーシャルワークの実践方法への考察を深めること
- ⑥ソーシャルワーク実践への専門的・科学的視点を明確にすること
- ⑦ソーシャルワーク・インターベンション（intervention）の意義・方法・体系について理解を深めること

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション ソーシャルワーク論 I B の目的・展開・方法について
- 第2回：ソーシャルワーク実践における過程の意義
- 第3回：ソーシャルワーク実践過程の枠組みと問題
- 第4回：局面過程の展開（Ⅰ）
- 第5回：局面過程の展開（Ⅱ）
- 第6回：局面過程の展開（Ⅲ）
- 第7回：ソーシャルワーク実践のフィールドとソーシャルワーカーの役割
- 第8回：実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅰ）
- 第9回：実践者の記録から学ぶソーシャルワークの原則（Ⅱ）
- 第10回：実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅰ）
- 第11回：実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅱ）
- 第12回：実践者の記録から学ぶソーシャルワーク支援に必要な知識と技術（Ⅲ）
- 第13回：ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅰ）
- 第14回：ソーシャルワーク実践における最近の動向（Ⅱ）
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習：社会福祉やソーシャルワークと関連する新聞記事を毎日読み、理解する。  
事後学習：テキスト、ノート、配布プリントを読み込み理解を深める。

**【テキスト】**

ソーシャルワーク；ジェネラリストソーシャルワークの相談援助 得津 慎子  
978-861-866-951 ふくろう出版

**【参考文献】**

授業中に適宜提示する。

**【コメント】**

講義名称	曜時
ソーシャルワーク論Ⅱ B (秋)	金 3

**【教員名称】**

南 友二郎

**【講義概要】**

グループの視点から、ソーシャルワークとソーシャルワーカーについて学ぶ。個別援助、地域援助も取り入れながら、特に集団援助の過程を学ぶ。チャートを多く取り入れた実践形式の授業を行うので、出席を重視する。

**【学習目標】**

- ①個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について、最新の情報を入れながら、具体的な方法論を学ぶ。
- ②社会福祉調査法、社会福祉計画、施設運営管理、社会活動法、スーパービジョン、ケアマネジメントなどの技術論、方法論について学習し、実践に役立つ知識、技術を身に着ける。
- ③具体的な支援事例を多く体験することにより、実践感覚を身に着ける。

**【講義計画】**

- 第1回：グループワークの過程
- 第2回：準備期のポイント①：アセスメント
- 第3回：準備期のポイント②：マネジメント
- 第4回：開始期のポイント：アイスブレイク
- 第5回：作業期前期のポイント①：プログラム
- 第6回：作業期前期のポイント②：問題行動とその支援
- 第7回：作業期前期のポイント③：チームビルディング
- 第8回：作業期後期のポイント
- 第9回：スーパービジョン①
- 第10回：スーパービジョン②
- 第11回：グループワークの組織と役割
- 第12回：記録の取り方
- 第13回：振り返り
- 第14回：評価と効果測定①
- 第15回：評価と効果測定②

**【事前および事後学習の指示】**

ソーシャルワーク論Ⅰ A における学習を復習したうえで授業に臨むこと。自身のグループワーク体験を常に振り返ること。福祉、教育の現場でグループ活動支援をすること。

**【テキスト】**

相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版) 社会福祉士養成講座委員会  
978-4-8058-5103-6 中央法規出版

**【参考文献】**

その都度、必要に応じて紹介する。

**【コメント】**

講義名称	曜時
地域経済論Ⅱ (秋)	金 5

**【教員名称】**

角谷 嘉則

**【講義概要】**

本講義は、日本国内の地域経済(狭義)だけでなく、国際社会の中の地域という視点から地域経済(広義)を把握し、地域の主体が試行錯誤しながらも活性化しようとする活動について学習していく。特に、地域活性化と多様な主体の活動についてケースを通じて学びを深めていく。

**【学習目標】**

- ・国際社会の中で地域と地域経済の変化を把握できる
- ・地域の主要な産業と企業の活動について理解する
- ・地域活性化の手法や今後の方向性を理解する

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション  
地域経済と地域社会についてのレクチャーと講義の流れを説明する。
- 第2回：地域開発①(高度経済成長期の開発)
- 第3回：地域開発②(公害などの外部不経済)
- 第4回：地域開発③(リゾート開発)
- 第5回：地域開発④(リゾート開発②)
- 第6回：地域開発⑤(サービス経済化の進展と知識産業の発展)
- 第7回：まちづくり志向①(サスティナビリティ)
- 第8回：まちづくり志向②(ソーシャルキャピタルとNPO)
- 第9回：まちづくり志向③(コミュニティの体制)
- 第10回：地域活性化策①(中心市街地活性化)
- 第11回：地域活性化策②(観光集客化)
- 第12回：地域活性化策③(行事の継承とイベントの創造)
- 第13回：地域活性化策④(地域ブランド)
- 第14回：地域活性化策⑤(商人家族と家業の再構築)
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

特に指示しない。

**【テキスト】**

株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神 角谷嘉則  
978-4-7944-2316-0 創成社

**【参考文献】**

授業内で紹介する。

**【コメント】**

講義名称	曜時
地域研究Ⅱ（秋集）	月1/木3

**【教員名称】**

塚田 鉄也

**【講義概要】**

大航海時代以降、積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきたヨーロッパ諸国は、「世界の中心」とはいえなくなった現在においてもなお、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、そうしたヨーロッパ諸国の政治や社会の有り様を、各国間の違いにも注意しながら、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点、という三点にわたって検討していきます。

**【学習目標】**

- ①ヨーロッパ各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解する
- ②ヨーロッパ統合が各国の政治や社会に与えた影響を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：ヨーロッパ研究の意義
- 第2回：政治の基礎知識
- 第3回：歴史の中のヨーロッパ
- 第4回：世界の中のヨーロッパ
- 第5回：イギリス①：歴史的背景
- 第6回：イギリス②：政治の基本構造
- 第7回：イギリス③：現代の争点
- 第8回：フランス①：歴史的背景
- 第9回：フランス②：政治の基本構造
- 第10回：フランス③：現代の争点
- 第11回：ドイツ①：歴史的背景
- 第12回：ドイツ②：政治の基本構造
- 第13回：ドイツ③：現代の争点
- 第14回：イタリア①：歴史的背景
- 第15回：イタリア②：基本構造と争点
- 第16回：ベネルクス三国①：歴史的背景
- 第17回：ベネルクス三国②：基本構造と争点
- 第18回：北欧諸国①：歴史的背景
- 第19回：北欧諸国②：基本構造と争点
- 第20回：南欧諸国①：歴史的背景
- 第21回：南欧諸国②：基本構造と争点
- 第22回：中東欧諸国①：歴史的背景
- 第23回：中東欧諸国②：基本構造と争点
- 第24回：ロシア①：歴史的背景
- 第25回：ロシア②：政治の基本構造
- 第26回：ロシア③：現代の争点
- 第27回：EU①：歴史的背景
- 第28回：EU②：政治の基本構造
- 第29回：EU③：現代の争点
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

ヨーロッパ各国に関する予備知識がほとんどない場合は、参考文献を使って各国に関する大まかなイメージをつかんでおくようにしてください。

**【テキスト】**

用いない

**【参考文献】**

馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック [第2版]』（東京大学出版会、2010年）

**【コメント】**

講義名称	曜時
地域福祉論B（秋）	金2

**【教員名称】**

所 正文

**【講義概要】**

地域福祉の理論と多様な実践内容をふまえて、主として地域福祉の推進方法を中心に、

1. コミュニティワークの理論と特徴
2. コミュニティワークの展開過程
3. コミュニティワークの実践モデル
4. コミュニティワーカーの役割
5. 社会福祉調査法（地域診断の方法）
6. 地域福祉計画の策定方法などについて学ぶとともに、最新の技術や動向についても学ぶ。

その際、可能な限り、具体的な実践事例を素材として、学習する。将来、学生がコミュニティワーカーとして活用できることを目標にした実践的学習ができるよう進めていく。

**【学習目標】**

- ①地域福祉の概念および特徴について理解する。
- ②地域福祉の推進方法について、そのアプローチの種類や内容、方法について理解する。
- ③ソーシャルワークと地域福祉との関係について理解する。
- ④ローカル・ガバナンスや自治と地域福祉との関係について理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：地域福祉論Aの復習  
社会福祉・ソーシャルワークと地域福祉・コミュニティワーク
- 第2回：地域福祉の考え方と地域福祉の歴史（イギリス・アメリカ・日本）
- 第3回：地域を基盤としたソーシャルワーク  
個別支援（相談援助）と地域支援（コミュニティワーク）
- 第4回：コミュニティワークの理論と方法①
- 第5回：コミュニティワークの理論と方法②
- 第6回：地域診断の方法と実際① 地域踏査、既存データの活用、地域プロフィールづくりなど
- 第7回：地域診断の方法と実際② 量的調査、質的調査、住民座談会など
- 第8回：地域組織化の方法と実際
- 第9回：小地域福祉活動の実際とコミュニティワーカーの役割
- 第10回：当事者組織の組織化の方法と実際
- 第11回：地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定方法と実際①
- 第12回：地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定方法と実際②
- 第13回：福祉教育の推進方法と実際①
- 第14回：福祉教育の推進方法と実際②
- 第15回：自治の構築とコミュニティワーク自治の構築  
ローカル・ガバナンスとコミュニティワーク

**【事前および事後学習の指示】**

シラバスを確認のうえ予習しておくこと。

**【テキスト】**

よくわかる地域福祉（第5版）上野谷代子・松端克文・山縣文治編  
978-4-623-06302-4 ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

**【コメント】**

毎回出席をとります。リアクションペーパーはしっかり記入すること。

講義名称	曜日
地方財政論Ⅱ 〈秋〉	金 4

**【教員名称】**

田代 昌孝

**【講義概要】**

経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言えよう。本講義では地方分権の基礎的な議論を踏まえたうえで、わが国の地方財政の実態について説明する。

**【学習目標】**

新聞報道で伝えられた地方分権に関する記事、たとえば市町村合併、大阪府構想、東日本大震災、ふるさと納税と地方財政のあり方について私見が述べられることを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス。  
地方分権とは何か。  
成績評価についての説明。  
講義を受けるうえで注意事項。
- 第2回：地方分権改革と政府間競争
- 第3回：地方分権と三位一体改革
- 第4回：市町村合併と広域行政
- 第5回：大阪府構想について
- 第6回：道州制の議論
- 第7回：地方財政と福祉
- 第8回：地域経済の発展と地方財政
- 第9回：地方財政の効率化と自治体行政
- 第10回：新しい地方公共サービスの供給（PFI事業）
- 第11回：地方公営企業のあり方
- 第12回：第三セクター問題
- 第13回：夕張市の財政破綻問題
- 第14回：東日本大震災と地方財政
- 第15回：ふるさと納税の現状と課題

**【事前および事後学習の指示】**

事前にレジュメを熟読しておいて下さい。

**【テキスト】**

地方財政 新版 林宜嗣  
9784641183643 有斐閣ブックス

**【参考文献】**

- 林 宏昭・橋本恭之著『入門地方財政 第3版』中央経済社、2013年。(ISBN978450265)
- 佐藤主光著『地方財政入門』新世社、2009年。(ISBN9784883841332)
- 和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政 第3版』有斐閣ブックス、2004年。(ISBN4641183074)

**【コメント】**

試験は70点満点とします。出席を何回取るかは第1回のガイダンス講義で決めたいと思います。

講義名称	曜日
中国史Ⅱ 〈秋〉	木 4

**【教員名称】**

石黒 亜維

**【講義概要】**

19世紀半ば以降、中国は列強諸国によって主権を脅かされ、その後、隣国日本との戦争によって甚大なる被害を被り、中華人民共和国の成立後は国際的・国内的諸矛盾のなかにおかれるなど、中国にとって20世紀はまさに激動の世紀であった。本講義では中国の近現代史を東アジア諸国との関係を視野に入れた多角的にとりあげ、現代中国との歴史的連続性や日中関係の歴史についても考察する。

**【学習目標】**

- (1) 20世紀の中国社会はどのようなパラダイムで把握されてきたのかを理解する。
- (2) グローバル化の流れのなかにおける中国社会の変容を歴史的に検討する。
- (3) 日中関係はどのような変遷をたどったのかを考察する。

**【講義計画】**

- 第1回：プロローグ—中国史とは何か
- 第2回：清朝の成立とその治世①
- 第3回：清朝の成立とその治世②
- 第4回：「西洋の衝撃」と中国の反応①
- 第5回：「西洋の衝撃」と中国の反応②
- 第6回：辛亥革命と中華民国の成立①
- 第7回：辛亥革命と中華民国の成立②
- 第8回：中国ナショナリズムの高揚①
- 第9回：中国ナショナリズムの高揚②
- 第10回：第二次世界大戦と中国①
- 第11回：第二次世界大戦と中国②
- 第12回：内戦から新中国誕生へ
- 第13回：中華人民共和国—社会主義建設の時代①
- 第14回：中華人民共和国—社会主義建設の時代②
- 第15回：エピローグ—現代中国の新たな展開

**【事前および事後学習の指示】**

テキストを十分に活用し、予習・復習に努めてください。また歴史的視点から現代中国に関する時事問題等も適宜とりあげますので、日頃から新聞・雑誌等のメディアを通じて、関連事項の情報収集を心がけてください。

**【テキスト】**

中国の歴史（ちくま文庫）岸本美緒 筑摩書房

**【参考文献】**

- 池田誠、副島昭一、西村成雄、安井三吉『図説中国近現代史（第3版）』法律文化社、2009年
- 田中仁、加藤弘之、日野みどり、岡本隆司、菊池一隆『新・図説中国近現代史』法律文化社、2012年
- 吉澤誠一郎『歴史からみる中国』放送大学教育振興会、2013年

**【コメント】**

レポートは「ミニレポート」として授業中に行うものとする。

講義名称	曜日
中小企業論Ⅱ (秋)	金 2

**【教員名称】**

義永 忠一

**【講義概要】**

2008年から世界的に経済環境が激変し、我が国経済は大きな変革の中がありました。さらに2011年には、大震災やその後の事故等があり、2016年以降では世界経済において保護主義の動きが見られます。2017年末時点では景気拡大は継続していますが、東アジア地域には不安定要素が存在します。中小企業論Ⅱでは、現状における中小企業に関する様々な問題、特にグローバル化について注目し、その変化に対する対応策について講義参加者と一緒に考えていきます。そして、一つの対応策として中小企業論が注目してきた「産業集積」に関する講義を展開します。

**【学習目標】**

講義内容を時事問題との関連で把握するために、講義開始15分を当日の新聞記事をピックアップしお伝えします。この新聞チェックにより、現実起こるグローバル化の影響を的確に把握できるようになることを、第一の目標とします。次に、中小企業論が注目してきた「産業集積」の理解を深め、グローバル化の影響下の、中小企業が抱える課題を如何に解決するかについて、考え始める基礎を築くことを学習の目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：中小企業論とは何か～中小企業研究の課題～  
以下の講義計画において、教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。また、小テスト実施の関係から、講義計画の進展が変更される場合があります。  
小テストに関する説明～新聞チェック：あなた自身の分析軸を作る～
- 第2回：中小企業をめぐる環境の変化ーグローバル化（1-1）1980年代の映像
- 第3回：中小企業をめぐる環境の変化ーグローバル化（1-2）1980年代の理解
- 第4回：中小企業をめぐる環境の変化ーグローバル化（2）2000年以降の変化
- 第5回：環境変化をいかに捉えるのか グループディスカッション
- 第6回：中間まとめ
- 第7回：産業集積における理論的背景（1）
- 第8回：産業集積における理論的背景（2）
- 第9回：産業集積に関する事例（1-1）東大阪
- 第10回：産業集積に関する事例（1-2）東大阪
- 第11回：産業集積に関する事例（2-1）東京都大田区・墨田区
- 第12回：産業集積に関する事例（2-2）東京都大田区・墨田区
- 第13回：技能と技術と承継の課題ー産業集積の視点ー
- 第14回：産業集積の役割の変化と可能性
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。詳細は、成績評価の欄を参照してください

**【テキスト】**

中小企業・ベンチャー企業論 新版 グローバルと地域のはざままで 4-641-16431-4 有斐閣

**【参考文献】**

その都度指示します。

**【コメント】**

毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト（40%）と学期末試験（60%）で評価します。小テスト実施の関係から、上記の授業計画の進展が変更される場合があります。また中小企業論Ⅱでは、新聞チェックを、受講者によるグループディスカッションにて実施し、発表することも行います。

講義名称	曜日
ドイツの文化 B (秋)	木 4

**【教員名称】**

高田 里恵子

**【講義概要】**

「ドイツを知ると日本が見えてくる！」＝異文化を理解する力をつけよう！  
この講義は第1部と第2部に分かれているが、共通のテーマとしては「戦争と学校」ということが挙げられよう。第1部ではナチスの学校政策について扱う。ナチスが台頭してくる歴史的状況、ナチスの思想などを考察しながら、ナチスが作った学校の特徴をとらえる。第2部ではドイツと日本の学徒兵を比較する。第一次大戦では多くのドイツ人学徒兵が戦死する。彼らがどのように哀悼されたか、それが日本にどのような影響を与えたか、20世紀前半のドイツと日本の歴史を振り返りながら考察する。

**【学習目標】**

文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とする。ドイツと他のヨーロッパの国やアメリカとの相違点、近現代日本と欧米諸国との相違点に注目し、ドイツおよび日本の近代史を知ることを目指す。  
この講義では、授業の内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたい。したがって、レジュメは配布しないので、そのつもりで授業に臨むこと。小テストなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をする。また、グループディスカッションにおいては、自分の意見を言う、他の人の意見を理解する、全体をまとめて発表する練習をする。  
この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではない。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となる。

**【講義計画】**

- 第1回：講義の進め方や試験・成績評価について説明する。  
第一次大戦から第二次大戦までの歴史の流れを概観する。
- 第2回：第1部 ナチスの教育政策  
1900年前後のドイツ教育批判
- 第3回：ナチスの教育政策
- 第4回：ナチスが作った学校の特徴
- 第5回：ナチスが作った学校の終焉
- 第6回：戦争と世代間闘争
- 第7回：第2部 徴兵と学徒兵  
近代徴兵制とドイツ
- 第8回：日本の徴兵制の特徴
- 第9回：第一次大戦とドイツ人戦死者
- 第10回：ドイツの学徒兵の特徴
- 第11回：陸軍と帝国大学の対立
- 第12回：日本の学徒兵の特徴
- 第13回：死者を哀悼すること（ドイツの場合）
- 第14回：敗戦後のドイツと日本
- 第15回：全体のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業で扱う作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめる。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな読書に挑戦することは重要である。  
また、「学習目標」の箇所に書いたように、授業後にノートの内容をパソコンで整理し、不明な部分は自分で調べたり、教員に質問したりして補っておくことをすすめる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 坂井栄八郎『ドイツ史10講』（岩波新書）
- ウォルター・ラカー『ドイツ青年運動——ワンダー・フォーゲルからナチズムへ』（人文書院）
- 加藤陽子『それでも、日本人は戦争を選んだ』（新潮文庫版）

**【コメント】**

70点満点の試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。試験の問題はすべて記述式である。  
出席点は、小テスト、グループディスカッション、挙手（質疑応答）など、授業への積極的な参加を総合的に判断してつける。詳細は初回の授業の際に説明する。

講義名称	曜時
統計学総論Ⅱ (秋)	火 4

**【教員名称】**

井田 憲計

**【講義概要】**

記述統計 (= 統計データの整理と記述の方法) について概説し、推測統計 (= 確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法) の基礎的な考え方について、講義を進めていく。

「統計学総論Ⅰ」と「統計学総論Ⅱ」では、大きな流れはどちらも共通しており、Ⅰで十分に扱えないトピックスをⅡで扱う。

**【学習目標】**

記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについてより深く理解することを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく。「統計 (学) 的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものである。

**【講義計画】**

- 第1回: ガイダンス  
(各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある)
- 第2回: 記述統計と推測統計
- 第3回: 算術平均 (相加平均) と幾何平均 (相乗平均)
- 第4回: 単純平均と加重平均 (ウェイト付き平均)
- 第5回: GPA (グレード ポイント アベレージ)
- 第6回: ちらばりの指標 (分散・標準偏差、レンジ等)
- 第7回: ヒストグラムにおける階級の設定
- 第8回: 確率
- 第9回: ベイズの定理
- 第10回: 確率変数と確率分布
- 第11回: 密度関数、一様分布と正規分布
- 第12回: 点推定と区間推定
- 第13回: 比率の推定
- 第14回: 回帰分析
- 第15回: 試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

教科書の練習問題での復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。

**【テキスト】**

よくわかる統計学 - I 基礎編 - (第2版) 金子治平・上藤一郎編  
978-4-623-06111-2 ミネルヴァ書房 (¥2600+ 税)

**【参考文献】**

郡山彬 + 和泉澤正隆 = 著『統計・確率のしくみ (入門ビジュアルサイエンス)』  
日本実業出版社 (税込 ¥1365) ISBN:978-4534026620

**【コメント】**

[ 中間レポート ] (配分 30%) は学期途中に一回実施、[ 出席・講義時間中の小テスト ] (配分 30%) は不定期に実施する予定。

講義名称	曜時
東洋史 02 (秋集)	月 1 / 木 3

**【教員名称】**

辻 高広

**【講義概要】**

東アジアの国々は、時代によってその密度に濃淡はあるものの、中国を中心とした一定の関わりをもって、ひとつの「東アジア世界」を形成してきた。本講義では、中国歴代王朝の変遷を縦軸にしなが、周辺地域との文化的・経済的・政治的交流を中心に東アジア世界の歴史的展開を概括する。

なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。授業の最初に適宜小テストを行なうので知識に自信のない者は事前に高校の教科書などを読んで学んでおくこと。

**【学習目標】**

東アジア世界を形成してきた有機的なつながりについて学びながら、歴史が断絶のなかに形成されてきたのではなく、連続性をもって現代につながっていることを理解する。

**【講義計画】**

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 先秦時代 1 - 「中華」世界の萌芽
- 第3回: 先秦時代 2 - 今に残る「古代中国」
- 第4回: 秦漢時代 1 - 統一帝国の形成と内実
- 第5回: 秦漢時代 2 - 徐福と渡来伝説
- 第6回: 三国時代 1 - 後漢の滅亡と三国鼎立
- 第7回: 三国時代 2 - 邪馬台国と東アジア国際情勢
- 第8回: 南北朝時代 1 - 晋による統一と異民族国家の乱立
- 第9回: 南北朝時代 2 - 南北朝の対立と古代日朝関係
- 第10回: 隋唐時代 1 - 隋唐世界帝国
- 第11回: 隋唐時代 2 - 世界帝国唐の繁栄と衰退
- 第12回: 隋唐時代 3 - 遣唐使の時代
- 第13回: 五代十国 - 唐末の混乱と軍閥割拠
- 第14回: 宋代 1 - 文人国家宋
- 第15回: 宋代 2 - ゆらぐ「中華」
- 第16回: 宋代 3 - 商業の発達と海を渡る貨幣
- 第17回: 元代 1 - 遊牧民族国家としてのモンゴル
- 第18回: 元代 2 - 国際商業国家としてのモンゴル
- 第19回: 明代 1 - 征服王朝の崩壊と漢民族王朝の復活
- 第20回: 明代 2 - 永楽帝の対外政策と朝貢貿易体制の成立
- 第21回: 明代 3 - 北虜南倭と銀の時代
- 第22回: 清代 1 - 「中華」王朝の完成
- 第23回: 清代 2 - 清とモンゴル・チベット・ウイグル
- 第24回: 清代 3 - 清とヨーロッパ
- 第25回: 中華民国時代 1 - 革命から近代国家へ
- 第26回: 中華民国時代 2 - 軍閥割拠
- 第27回: 中華民国時代 3 - 抵抗の時代
- 第28回: 中華人民共和国時代 1 - 共産主義革命と東西対立
- 第29回: 中華人民共和国時代 2 - 新たな東アジア世界の模索
- 第30回: 総括とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998年  
講談社『中国の歴史』シリーズ (全 12 巻)、2004 年 ~ 2005 年  
木村靖二ほか著『詳説世界史』山川出版社、2017 年改訂

**【コメント】**

期末に論述試験を課す。また授業中に適宜行なわれる小テストを出席点 (平常点) として評価の材料とする。

講義名称	曜日
都市社会学 (秋集)	火 1/金 2

**【教員名称】**

竹中 英紀

**【講義概要】**

都市社会学は、都市の近代化や人口の増大といった状況のもと、ヨーロッパの近代社会学に端を発し、20世紀アメリカの「シカゴ学派」において確立をみた学問分野である。この授業では、都市社会学の学問的な系譜と、その後の展開（マルクス主義陣営からの批判、コミュニティ論・ネットワーク論との相互浸透など）について解説する。また、現代および歴史上の世界と日本の都市を取り上げ、そこで生起している問題が、社会的にはどのようにとらえられるかを考えていく。講義は教科書に沿って行い、適宜、小テストを実施して理解度を確保する。

**【学習目標】**

都市社会学の学説史に関する基本的な知識の習得と、都市問題に対する社会的な分析力・表現力の獲得。

**【講義計画】**

- 第1回：都市社会学の問い [序章]
- 第2回：都市社会学の始まり (1) [第1章]
- 第3回：都市社会学の始まり (2) [//]
- 第4回：アーバニズム (1) [第2章]
- 第5回：アーバニズム (2) [//]
- 第6回：都市生態学と居住分化 (1) [第3章]
- 第7回：都市生態学と居住分化 (2) [//]
- 第8回：第1～3章の補足・まとめ
- 第9回：地域コミュニティ (1) [第4章]
- 第10回：地域コミュニティ (2) [//]
- 第11回：都市と社会的ネットワーク (1) [第5章]
- 第12回：都市と社会的ネットワーク (2) [//]
- 第13回：都市圏の発展段階 (1) [第6章]
- 第14回：都市圏の発展段階 (2) [//]
- 第15回：第4～6章の補足・まとめ
- 第16回：情報化・グローバル化と都市再編 (1) [第7章]
- 第17回：情報化・グローバル化と都市再編 (2) [//]
- 第18回：インナーシティの危機と再生 (1) [第8章]
- 第19回：インナーシティの危機と再生 (2) [//]
- 第20回：郊外のゆくえ (1) [第9章]
- 第21回：郊外のゆくえ (2) [//]
- 第22回：第7～9章の補足・まとめ
- 第23回：都市再生と創造都市 (1) [第10章]
- 第24回：都市再生と創造都市 (2) [//]
- 第25回：文化生産とまちづくり (1) [第11章]
- 第26回：文化生産とまちづくり (2) [//]
- 第27回：アジアの都市再編と市民 (1) [第12章]
- 第28回：アジアの都市再編と市民 (2) [//]
- 第29回：第10～12章の補足・まとめ
- 第30回：授業の総まとめ [第13・14章は講義や試験の対象としない]

**【事前および事後学習の指示】**

授業計画を参照して、教科書の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。また授業中にとったノートをごまめに整理し、自己の理解を確認すること。

**【テキスト】**

都市社会学・入門 松本康編 978-4-641-22015-7 有斐閣

**【参考文献】**

松本康編(2011)『都市社会学セクション1 近代アーバニズム』日本評論社  
井上俊・伊藤公雄編(2008)『社会学ベーシック4 都市的世界』世界思想社  
野次慎司編訳(2006)『リーディングス ネットワーク論』勤草書房  
※スライドなどの教材は、学内ネットワークドライブの教材用フォルダ (S:/bamboo) を用いて公開する。

**【コメント】**

期末テスト (80%) と、授業時間内に実施する小テスト (複数回、20%) の結果を総合して成績を評価する。

講義名称	曜日
日本近代史Ⅱ (秋)	木 3

**【教員名称】**

島田 克彦

**【講義概要】**

「世界史の中の近代日本」というテーマの下、第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る時期の歴史について講義を行います。ヨーロッパでの第一次大戦勃発は世界史上の画期となりました。「国家総力戦」の思想が広まる時代にあって、人類の英知は「戦争違法化」の潮流を生み出していきます。しかし、帝国主義諸国がみづからの植民地支配を温存したことが世界史に矛盾をもたらし、新しい戦争につながっていきます。このような世界史の中で、東アジアの一角を占める日本はどのように行動していったのでしょうか。授業では、矛盾を深めていく世界史の中で日本が果たした役割を考えていきます。

**【学習目標】**

二つの大戦を生み出した世界史の中で、日本が果たした役割を理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：近代日本の歩みと戦争 一開講にあたって一  
第1回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
- 第2回：第一次世界大戦と「21カ条要求」
- 第3回：第一次世界大戦期の東アジアにとシベリア干渉戦争
- 第4回：第一次世界大戦の集結と東アジアの民族運動
- 第5回：国際連盟とワシントン体制—第一次大戦後の世界—
- 第6回：「戦争違法化体制」の構築
- 第7回：中間まとめ
- 第8回：関東大震災—大日本帝国の大災害—
- 第9回：近代工業都市大阪の成立と社会変動
- 第10回：1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争 (1)  
—満州事変—
- 第11回：1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争 (2)  
—枢軸国陣営の形成—
- 第12回：日中戦争の勃発
- 第13回：第二次世界大戦からアジア太平洋戦争へ
- 第14回：第二次世界大戦の終結と戦後世界
- 第15回：全体のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。

**【テキスト】**

使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

**【参考文献】**

江口圭一『体系日本の歴史 14 二つの大戦』小学館、1993年(ライブラリー版)  
木畑洋一『第二次世界大戦—現代世界への転換点』吉川弘文館、2001年(歴史文化ライブラリー)  
小林啓治『戦争の日本史 21 総力戦とデモクラシー』吉川弘文館、2008年  
伊香俊哉『戦争の日本史 22 満州事変から日中全面戦争へ』吉川弘文館、2007年  
吉田裕・森茂樹『戦争の日本史 23 アジア・太平洋戦争』吉川弘文館、2007年  
荒井信一『空爆の歴史—終わらない大量虐殺』岩波書店、2008年(新書)  
宮地正人監修『日本近現代史を読む』新日本出版社、2010年  
山室信一『複合戦争と総力戦の断層—日本にとっての第一次世界大戦』人文書院、2011年

**【コメント】**

学期末試験 40%、レポート (2回程度) 30%、出席・平常点 30%。  
講義の最後に、その日の講義内容をまとめた小レポートを提出していただきます。この蓄積が平常の成績となります。試験では、受講生のみなさんが授業を通じて身につけた力を確認します。

講義名称	曜日
日本経済史Ⅱ（秋）	火 1

**【教員名称】**

梅本 哲世

**【講義概要】**

この講義では、日露戦後から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、日本資本主義について考える。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

なお、この日本経済史Ⅱは日本経済史Ⅰと内容が連続しているので、日本経済史Ⅰと日本経済史Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

**【学習目標】**

この講義では以下の内容について学習し、理解を深めることを目標とする。  
 第1に、第1次世界大戦を経過して、日本経済がどのような変容を遂げたかを、アメリカを中心とした世界経済の展開と関わらせて学習する。  
 第2に、1929年に始まった世界恐慌が日本経済に与えた影響について学習する。そのさい、世界経済のブロック化と経済の軍事化について注目したい。  
 第3に、戦後の日本経済について学習する。日本経済の復興、高度経済成長とその終焉、バブルの発生と崩壊について説明し、現在の日本経済の課題について検討する。

**【講義計画】**

- 第1回：第1次世界大戦と日本経済
- 第2回：1920年代の日本経済
- 第3回：金融恐慌
- 第4回：金解禁
- 第5回：昭和恐慌と金輸出再禁止
- 第6回：高橋財政と景気回復
- 第7回：統制経済の展開
- 第8回：戦時下の日本経済
- 第9回：敗戦と戦後経済改革
- 第10回：戦後復興
- 第11回：高度経済成長
- 第12回：高度成長の終焉
- 第13回：平成不況
- 第14回：世界金融危機と3.11
- 第15回：日本経済の現状と課題

**【事前および事後学習の指示】**

授業前に教科書の該当章を読んでください。

**【テキスト】**

概説日本経済史 近現代【第3版】三和一良  
 987-4-13-042138-6 東京大学出版会

**【参考文献】**

石井寛治『日本経済史』（東京大学出版会）  
 三和一良・原朗編『近現代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

**【コメント】**

1. 講義中の小テスト（2～3回程度の予定）（10％）
  2. 期末試験（90％）
- 以上を総合して成績評価をする。なお、受講生が多人数で厳正な小テストの実施が不可能な場合、小テストを成績に含めないこともある。

講義名称	曜日
日本経済論Ⅱ（秋）	月 2

**【教員名称】**

澤田 鉄平

**【講義概要】**

日本経済はバブル崩壊以降長期の不況に沈んでいる。それは内的には一貫した内需縮小（消費税導入、増税、少子高齢化、産業空洞化）と外需依存構造の深化に規定され、さらに外的には BRIC's 諸国の台頭、EU 経済（通貨）統合など国外の経済環境変化の中で国が向かうべき方向を見失っているためである。

そこで本講義では、バブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察していく。

**【学習目標】**

日本経済の戦後史を振り返ることで、現在日本経済の大局的なとらえ方を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：本経済の学びとは何か？（イントロダクション）  
新自由主義経済、失われた25年について
- 第2回：主力産業の海外生産、浮かれた内需と消費税導入  
：バブル崩壊前夜
- 第3回：内需の急速な収縮、複合不況  
：平成不況（その1）
- 第4回：不良債権と貸しはがし、倒産増大と投資低調、産業空洞化  
：平成不況（その2）
- 第5回：公共事業の増加と「経済成長」、消費税増税  
：平成不況（その3）
- 第6回：護送船団方式の終焉・金融再編  
：平成不況（その4）
- 第7回：多軸化する世界経済と日本  
：冷戦構造の崩壊とグローバル競争の新基軸（その1）
- 第8回：BRIC's 諸国の台頭、生産拠点から消費市場へ、そして日本との競争  
：冷戦構造の崩壊とグローバル競争の新基軸（その2）
- 第9回：金融再編、持株会社解禁、企業集団の再編成  
：6大企業集団の再編
- 第10回：インターネット時代の到来、在来型ビジネスからの転換  
：ITと日本
- 第11回：制度問題、都市部と地方過疎、低下する賃金と高騰する生活費  
：少子高齢化問題と雇用流動化
- 第12回：生み出せない内需と外需の破綻  
：リーマンショック
- 第13回：事業仕分け、経済低調、そして消費税増税へ  
：公共事業依存型経済と改革
- 第14回：円安誘導、雇用創出、地方創成、対米関係、国家財政歪みの極地へ  
：アベノミクスの功罪
- 第15回：日本経済、明日への展望  
—今、何が生じているのか—

**【事前および事後学習の指示】**

参考文献のうちのいずれかを選び、バブル崩壊後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

紺谷典子（2008）『平成経済20年史』幻冬舎新書。  
 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直（2011）『現代日本経済 第3版』有斐閣。

**【コメント】**

講義名称	曜日
日本語の音声 (秋集)	月1/木2

**【教員名称】**

村中 淑子

**【講義概要】**

文字にすれば全く同じ文であっても、発音を聞くと、外国人学習者である、あるいは自分と異なる地域の出身者である、とわかる場合が多い。語彙や文法ではなく、音声の特徴だけでも、違いがわかるわけである。音声のどこがどう違っているのだろうか。「なんとなく違う」というのではなく、「音声を分析的にとらえる」ための知識を身につけることを目的とする。日本語の具体的な音声について、口の中のどの部分がどう使われているのか、あるいは長さ・高さ・強さがどうなっているのか、などをひとつひとつ自分の口と耳で確認しながら学ぶ。音声教育のための教材をグループで分析し発表する時間も設ける。また、身の回りの人々やテレビ・ラジオ等から聞く音声についても、音声学的に捉える練習を行ないたい。

**【学習目標】**

日本語の母音・子音・アクセント・イントネーション・リズム等について、分析的に理解すること。  
日本語学習者にとって日本語習得上難しいと感じられる音声上の特徴について、理解すること。  
音声教育についての知識を得ること。

**【講義計画】**

- 第1回：音声学とは (何を明らかにするのか)
- 第2回：日本語の母音
- 第3回：日本語の子音1
- 第4回：日本語の子音2
- 第5回：日本語の子音3
- 第6回：特殊拍1
- 第7回：特殊拍2
- 第8回：音声と音韻
- 第9回：拍と音節とリズム
- 第10回：母音の無声化
- 第11回：まとめ (1)
- 第12回：日本語のアクセント1
- 第13回：日本語のアクセント2
- 第14回：日本語のアクセント3
- 第15回：日本語のアクセント4
- 第16回：日本語のアクセント5
- 第17回：イントネーションとプロミネンス
- 第18回：ポーズとリズム
- 第19回：まとめ (2)
- 第20回：日本語教育における音声教育1 (グループ発表)
- 第21回：日本語教育における音声教育2 (グループ発表)
- 第22回：日本語教育における音声教育3 (グループ発表)
- 第23回：日本語教育における音声教育4 (グループ発表)
- 第24回：身の回りの音声に注目して1 (グループ発表)
- 第25回：身の回りの音声に注目して2 (グループ発表)
- 第26回：身の回りの音声に注目して3 (グループ発表)
- 第27回：日本語教育能力検定試験における音声問題1
- 第28回：日本語教育能力検定試験における音声問題2
- 第29回：復習・総まとめ
- 第30回：復習・総まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業の前半には、ほぼ毎回、小テストを課す。小テストは最終的なテストの内容とも重なるので、授業内容をよく復習して臨むこと。  
グループ発表に際しては、授業外の時間を使って十分に準備を行うことが必須となる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

国際交流基金日本語国際センター「教師用日本語教育ハンドブック⑥発音改訂版」(凡人社)1990年、文化庁「日本語教育指導参考書1 音声と音声教育」(大蔵省印刷局)1971年、天沼寧・大坪一夫・水谷修「日本語音声学」(くろしお出版)1978年、松崎寛・河野俊之『よくわかる音声』(アルク)1998年、斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』(三省堂)2006年、福盛 貴弘『基礎からの日本語音声学』(東京堂出版)2010年

**【コメント】**

出席点の中にはグループごとの口頭発表への評価も含まれる。

講義名称	曜日
日本語文法論 (秋集)	火3/金4

**【教員名称】**

有川 康二

**【講義概要】**

消化の法則とメカニズムを理解するために胃腸という臓器 (食物 (情報) を分解、吸収する消化システム) を調べます。免疫の法則とメカニズムを理解するために血液やリンパ系細胞等の免疫システム (情報を守る器官) を調べます。この授業では、ヒト自然言語の情報処理の法則とメカニズムを理解するためにヒト脳という臓器 (情報を処理するシステム) を調べます。といっても、脳を解剖したり (簡単にどこでもできません)、1台何億円もするMRIを使って脳を調べるわけではありません。実際、解剖やCTでは言語システムで働く文法の詳しい法則や仕組みは全然分かりません。私達各々が自分の母語 (韓国語、中国語、日本語など) を使って、つまり、各々が自分の脳の働きを徹底的に観察して、実験 (思考実験) を行い、言語現象の論理的な説明をしていきます。母なる自然の創造したヒト脳 (1300gのタンパク質の塊) という情報処理システムで働く法則とメカニズムの説明を行います。紙と鉛筆があればできます。

**【学習目標】**

人間の脳の言語システムは、母なる自然が創った複雑な情報処理システムです。言語システムの意味と構造の情報処理の法則とメカニズムを調べます。例えば、「太郎は毎日料理と掃除をする」とか「John cooks and cleans everyday」はOK、「太郎は毎日料理をする」と掃除をする」は変。「John knows Mary」はOK、「太郎は花子を知る」は変。「家は鼻が長い」の主語は？「花子が太郎が好きなこと」では主語は二個？「あ、雨だ！」では主語はない？「昨日は寒かった」はOK、「It colded yesterday」は変。「もうご飯食べた？」と聞かれて、「うん、食べた」はOK、「いや、まだ食べなかった」は変。「猫は金魚を食べた」「猫が金魚を食べた」「猫が金魚は食べた」「金魚は猫が食べた」「金魚が猫に食べられた」「金魚を猫に食べられた」はどう違う？「は」「が」「を」の意味はあるのか、ないのか？「猫を金魚を食べた」は変だが、このような変な例は、なぜ、変なのか？頭の中ではどんな言語情報の計算が行われているのか？このような問題を考えながら、母なる自然の創造したヒト脳の自然言語情報処理システムの法則とメカニズムを炙り出していきます。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロ。ヒト脳の自然言語システムの法則とメカニズムを調べるには、どうしたらいいのか。ヒト脳の文に対する容認性反応 (OKか、変か、どの程度、変か) を調べることは、私たち一人一人が自分の脳を使って行う実験だ。
- 第2回：日本語学習者のミスから日本語の法則を探る (1)
- 第3回：日本語学習者のミスから日本語の法則を探る (2)
- 第4回：品詞分類テスト (言語情報検出のリトマス試験紙) (1)
- 第5回：品詞分類テスト (2)
- 第6回：品詞分類テスト (3)
- 第7回：主語とは何か？ (「～は」「～が」が主語という定義は間違い) (1)
- 第8回：主語とは何か？ (2)
- 第9回：主語とは何か？ (3)
- 第10回：活用とは何か？ (国語で習った活用表は矛盾だらけ) (1)
- 第11回：活用とは何か？ (2)
- 第12回：活用とは何か？ (3)
- 第13回：二種類の「た」(「もう食べた?」「いや、まだ食べなかった。」が変なわけ) (1)
- 第14回：二種類の「た」(2)
- 第15回：二種類の「た」(3)
- 第16回：格助詞の「格」とは何か？ (言語情報処理におけるウィルスチェックのメカニズム) (1)
- 第17回：「格」とは何か？ (2)
- 第18回：「格」とは何か？ (3)
- 第19回：「格」とは何か？ (4)
- 第20回：言語システムの自己組織化 (「食べれる」のような「ら」抜き言葉はちゃんと法則に従っているし、計算/伝達効率もよい。むしろ、「ら」入りの「食べられる」のほうが法則を無視しており、計算/伝達効率も悪い。) (1)
- 第21回：言語システムの自己組織化 (2)
- 第22回：言語システムの自己組織化 (3)
- 第23回：言語システムの自己組織化 (4)
- 第24回：言語情報計算における経済性原理 (言語システムで物理法則が働いている) (1)
- 第25回：言語情報計算における経済性原理 (2)
- 第26回：言語情報計算における経済性原理 (3)
- 第27回：言語情報計算における経済性原理 (4)
- 第28回：復習とQ & A
- 第29回：復習とQ & A
- 第30回：復習とQ & Aと試験

**【事前および事後学習の指示】**

前にやったことを順次理解していないと、だんだん、珍漢漢(ちんぷんかんぶん)になります。予習、復習をしてください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

寺村秀夫 (1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版  
寺村秀夫 (1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版  
宮本陽一 (2009)『生成文法の展開—「移動現象」を通して』大阪大学出版会

**【コメント】**

毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートやプリントは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙 (出席カードではありません) にいい質問やいいコメントをした人、ボーナス点として加算されます。

講義名称	曜時
ネットビジネス技術 B (秋)	月 3

**【教員名称】**

村山 博

**【講義概要】**

多機能なスマホやオンラインゲームや情報家電のように、インターネットの進歩は目覚ましく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが必要な情報技術の基礎を習得することを目的とする。

**【学習目標】**

インターネットビジネスの技術を習得し、その技術を応用した具体的なビジネスの特徴を理解し、ネットビジネスの未来を考える力を養います。

**【講義計画】**

- 第1回：講義概要と、さまざまなコンピュータ
- 第2回：最先端コンピュータ（スーパーコンピュータ、人工知能、ロボット）、ナノテクノロジー、
- 第3回：さまざまな情報とその活用
- 第4回：コンピュータの歴史
- 第5回：コンピュータの5大機能
- 第6回：入力装置、出力装置
- 第7回：記憶装置、制御装置、演算装置
- 第8回：主記憶の高速化（メモリインターリーブ、キャッシュメモリ、命令パイプライン）
- 第9回：クライアント・サーバー方式、分散システム
- 第10回：オペレーティング・システム
- 第11回：インターネット、通信技術（変調、復調、多重化など）
- 第12回：通信プロトコル、TCP/IP、OSI 参照モデル
- 第13回：ネット社会の光と影
- 第14回：ネットビジネス技術の未来
- 第15回：試験と講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

高校で学習した「情報」を復習しておいてください。

**【テキスト】**

進化するネットビジネス技術 村山博 プイツーソリューション

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義名称	曜時
農業経済論 II (秋)	水 2

**【教員名称】**

浦出 俊和

**【講義概要】**

近年、輸入食料の安全問題、食品偽装問題等、食の安全問題が社会問題化しており、消費者の食の安全に対する関心も高まっている。一方で、WTO体制下での農産物貿易の自由化が進展してきている。このような状況下で、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。

本講義では、まず世界の食料問題を取り上げ、次に、農産物貿易の特徴について取り上げる。さらに、先進国における農業保護政策とその問題について講義するとともに、農産物輸入大国である日本における食に関わる問題の背景と要因についても取り上げる。

農業経済論 II では、若干ミクロ経済学の理論を援用するが、ミクロ経済学の基礎については、講義の中で解説しながら進める予定であるので、ミクロ経済学を履修していなくても歓迎する。

**【学習目標】**

本講義が目標とすることは、各自が日本の農業政策について、正しく認識し、そのあり方について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

**【講義計画】**

- 第1回：食糧問題とは？一需要と供給のギャップ
- 第2回：世界の食糧需給の現状
- 第3回：食糧問題と農業問題
- 第4回：途上国の農産物市場
- 第5回：途上国の農業政策—政府による農産物市場への介入
- 第6回：先進国の農業問題
- 第7回：先進国の農業政策—政府の農産物市場への介入
- 第8回：農業政策の経済余剰分析
- 第9回：農産物貿易の基礎理論—比較生産費説
- 第10回：自由貿易と保護貿易
- 第11回：農業保護政策—国境措置の比較
- 第12回：農業保護政策—国内農業保護政策の比較
- 第13回：農産物自由化の過程と意義と問題点
- 第14回：日本における農業政策の変遷
- 第15回：試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

新聞を毎日読むよう習慣付けること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
- 2) 荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
- 3) 矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

**【コメント】**

講義名称	曜時
ファイナンスⅡ (秋)	月 3

**【教員名称】**

北野 友士

**【講義概要】**

ファイナンスⅠでは、家計による意思決定を念頭において、ファイナンス理論の基礎を学びました。しかしながら、家計として何かの意思決定を行う際には、実際に選択可能な金融商品はどれか、法的な規制はどうか、社会保険による保障はどの程度か、など現実の制度的な要因を無視することはできません。

ファイナンスⅡでは、実際に家計の金融上の意思決定（パーソナル・ファイナンシャル・プランニング）を行う上で必要な知識を学びます。また金融機関のみならず、さまざまな分野で評価されるFP技能士の取得に必要な知識を得られます。

**【学習目標】**

- ・パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの実行に必要な知識を得る。
- ・学習で得た知識を活かして、提案書を作成することで、実践的な能力を高める。
- ・3級ひいては2級FP技能検定の合格に必要な内容を学ぶ。

**【講義計画】**

- 第1回：ファイナンシャル・プランニング概論
- 第2回：ライフプランニング①ライフプランニングと社会保険
- 第3回：ライフプランニング②年金制度の全体像
- 第4回：タックスプランニング①税制と所得税
- 第5回：タックスプランニング②個人に関する税制
- 第6回：リスクマネジメント①保険制度と生命保険
- 第7回：リスクマネジメント②損害保険および第三分野の保険
- 第8回：金融資産運用設計①金融経済の基礎知識
- 第9回：金融資産運用設計②金融商品に関する制度
- 第10回：不動産運用設計①不動産に関する基礎知識
- 第11回：不動産運用設計②不動産に関する法令および税制
- 第12回：相続・事業承継設計①相続の基礎知識
- 第13回：相続・事業承継設計②贈与税および事業承継
- 第14回：提案書の作り方
- 第15回：ファイナンスⅡのまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前にファイナンスⅠの内容を復習し、また事後に問題演習に率先して取り組んでください。そしてぜひFP技能検定に挑戦してみてください。

**【テキスト】**

ファイナンシャル・プランニング入門—for Students—第4版 日本FP協会（編） 978-4907001346 日本FP協会

**【参考文献】**

貝塚啓明・吉野直行・伊藤宏一（編）（2013）『実学としてのパーソナルファイナンス』中央経済社。

**【コメント】**

毎回グループで取り組む課題を出しますので、その提出をもって出席点とします。

講義名称	曜時
福祉NPO論 (秋)	木 4

**【教員名称】**

隅田 耕史

**【講義概要】**

「福祉NPO」の具体的な活動を、実践者から聴き、多様な人々の暮らしや課題、活動について理解を深める。従来の福祉を超えた活動をどのように運営し、継続していくかを学び、自分自身に関連した課題として考える。

**【学習目標】**

多様な人々の暮らしについて理解を深める。現状の課題を理解したうえで、どのように課題解決に取り組む活動を継続、活性化していくか、既存の枠にとらわれず、自分自身に引き寄せて考えていくことができるようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：「福祉NPO」の概要…NPO法人の特徴、経緯。従来の福祉との違い、など。
- 第2回：「福祉NPO」の活動紹介①…コミュニティカフェ（世代間・地域交流）
- 第3回：「福祉NPO」の活動紹介②…こども食堂
- 第4回：「福祉NPO」の活動紹介③…子育て支援（地域子育て支援拠点事業、認可外保育）
- 第5回：「福祉NPO」の活動紹介④…高齢者グループハウス
- 第6回：「福祉NPO」の活動紹介⑤…地域共生ケア
- 第7回：「福祉NPO」の活動紹介⑥…就労支援、ニート・ひきこもり支援
- 第8回：「福祉NPO」の活動紹介⑦…配食サービス（生活支援型食事サービス）
- 第9回：「福祉NPO」の活動紹介⑧…移動サービス（福祉有償運送）
- 第10回：「福祉NPO」の運営①…行政との協働
- 第11回：「福祉NPO」の運営②…事務局のはたらき、組織マネジメント
- 第12回：「福祉NPO」の運営③…役員のはたらき、経営
- 第13回：「福祉NPO」の個別支援①…ケアマネジメント・相談援助
- 第14回：「福祉NPO」の個別支援②…ホームヘルプ、認知症ケア
- 第15回：「福祉NPO」の可能性と課題、ネットワーキング

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習：近所や通り道、新聞やTV、ネットなどを通じて、「福祉NPO」に関するものごとについて情報を収集する。  
事後学習：講義で学んだことについて、「福祉」という枠ではなく、自分自身の暮らしに引き寄せ、自分なりに考える。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

毎回の感想用紙の提出により、講義の内容をふまえた上で、一般的なコメントではなく、自分なりに感じたこと、考えたことをしっかりと書くことができているかどうかを評価する。  
期末レポートを、「福祉NPO」について学んだこと、考えたこと、感じたこと、これから活かしていきたいこと、などを自分で考え、自分の言葉で書いているかどうかを評価する。

講義名称	曜日
文化社会学 (秋集)	月1/木2

**【教員名称】**

名部 圭一

**【講義概要】**

1980年代から1990年代にかけての日本における知と文化の移り変わりを、それぞれの時代を代表する論者を取り上げながら解説する。80年代に席卷したポストモダンの思想と文化は、90年代以降どのようなかたちで受け継がれ、またどのような点で変容したのか？当時の社会状況と関連づけながら、これらふたつの時代の連続性と断絶を探る。

**【学習目標】**

- ・戦後日本社会における文化変容を社会的観点から理解すること。
- ・少し前の時代との比較を通して、現代とそうした時代の連続性と差異を把握すること。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：戦後日本社会を振り返る①
- 第3回：戦後日本社会を振り返る②
- 第4回：ポストモダンと脱構築①
- 第5回：ポストモダンと脱構築②
- 第6回：ポストモダンと脱構築③
- 第7回：スキゾ・キッズの逃走論（浅田彰）①
- 第8回：スキゾ・キッズの逃走論（浅田彰）②
- 第9回：スキゾ・キッズの逃走論（浅田彰）③
- 第10回：消費社会の美学（山崎正和）
- 第11回：差別化と〈私〉探しゲーム（上野千鶴子）①
- 第12回：差別化と〈私〉探しゲーム（上野千鶴子）②
- 第13回：《他者》と単独性（柄谷行人）①
- 第14回：《他者》と単独性（柄谷行人）②
- 第15回：インターミッション①：「大きな物語」の解体をどう評価するか？
- 第16回：新人類／オタク分析と島宇宙化する社会（宮台真司）①
- 第17回：新人類／オタク分析と島宇宙化する社会（宮台真司）②
- 第18回：成熟社会とまったり革命（宮台真司）①
- 第19回：成熟社会とまったり革命（宮台真司）②
- 第20回：成熟社会とまったり革命（宮台真司）③
- 第21回：インターミッション②：まったり革命は起こったか？
- 第22回：虚構の時代の果て（大澤真幸）①
- 第23回：虚構の時代の果て（大澤真幸）②
- 第24回：動物化するポストモダン（東浩紀）①
- 第25回：動物化するポストモダン（東浩紀）②
- 第26回：インターミッション③：融解するサブカルチャーとポスト真実の時代
- 第27回：まとめ：前期ポストモダンから後期ポストモダンへ
- 第28回：試験概要発表
- 第29回：試験対策①（全体質問）
- 第30回：試験対策②（個別質問）

**【事前および事後学習の指示】**

日ごろから、新聞、雑誌、ネットなどで（サブカルチャーを含む）文化にかかわる記事や情報に接するよう心がけてください。また、本を読んだり音楽を聴いたり映画やドラマを見たりする際、それらの作品が何年に発表されたものなのかを意識するようにしてください。

**【テキスト】**

教科書の代わりにレジュメと資料を配布する。

**【参考文献】**

- ・吉見俊哉『日本近現代史9 ポスト戦後社会』岩波書店（岩波新書）
- ・佐々木敦『ニッポンの思想』講談社（講談社現代新書）
- ・仲正昌樹『集中講義！日本の現代思想』NHK出版（NHKブックス）
- ・斎藤美奈子・成田龍一（編著）『1980年代』河出書房新社（河出ブックス）
- ・大澤聡（編著）『1990年代論』河出書房新社（河出ブックス）
- ・宮沢卓夫＋NHK「ニッポン戦後サブカルチャー史」制作班『NHKニッポン戦後サブカルチャー史』NHK出版

**【コメント】**

試験（70%）と授業中もしくは課題として提出するミニレポート（30%）により総合的に評価。ミニレポートには、その日の授業の感想やテーマに即した自身の考えなどを書いてもらう。なお、提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので注意。

講義名称	曜日
法学特講一 刑事法特殊講義 (秋)	水3

**【教員名称】**

福岡 恵太

**【講義概要】**

刑法・刑事訴訟法が実際の法的手続きにおいてどのように適用されているのかを学ぶことにより、各法律の理解を深める。

**【学習目標】**

現代社会における様々な犯罪行為について、刑事法に基づき分析する力身に着ける。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：刑事手続きの流れ
- 第3回：刑法総論（1）
- 第4回：刑法総論（2）
- 第5回：刑法各論（1）
- 第6回：刑法各論（2）
- 第7回：刑法各論（3）
- 第8回：刑法各論（4）
- 第9回：捜査（1）
- 第10回：捜査（2）
- 第11回：公判（1）
- 第12回：公判（2）
- 第13回：その他の法律問題
- 第14回：まとめ
- 第15回：試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習 30 時間、事後学習 30 時間

**【テキスト】**

ポケット六法 平成 31 年版 有斐閣

**【参考文献】**

山口厚『刑法（第三版）』（有斐閣）

**【コメント】**

適宜小テストを行い、試験評価に加味する。

講義名称	曜日
法学特講－実践行政法 〈秋〉	木 4

【教員名称】  
寺田 友子

【講義概要】

日本の国内法の80%は、行政に関わる法律等、行政法であると言われている。その理由は、日本国憲法によって拡大された国民の権利・利益を保障するために、行政活動領域も当然に拡大されたからである。ところが、日本国憲法制定前から、国民の自由を守るために、具体的な行政権力の行使は、法律（国民の間接的合意）に従って行われなければならない（法律による行政の原理）。法律に違反した行政活動によって、国民の権利利益が侵害されれば救済されなければならない。民法等のように法典がなく多数の法律等からなる行政法を、総体的に認識し、行政法学の対象を画するために、行政法学は救済の対象である行政行為という学問的概念を作り出した。この行政行為（許可・下命・禁止・認可等）は、行政作用法の多くに規定されているので、それを中心に行政法の体系を構築した。すなわち、それを発する主体を行政庁、それを発する前の手続（行政調査・事前手続）、発した後の行政上の不服申立、最終的には行政と分離している裁判所による救済制度である取消訴訟である。この体系に即して本講義を行う。一方的に講義する授業形式でなくて、学生の予習復習を前提にして、過去問等を学生が解答することにより、実践的に諸試験対策を行っていただきたい。

【学習目標】

行政法を理解するために必要な基礎的概念を理解し、行政法が課されている試験（法学校定・公務員試験・行政書士等）に対応できる能力を修得することを目的とする。

【講義計画】

- 第1回：受講の注意・成績評価について  
行政法を学ぶにあたって基礎的概念・知識について（テキストである岩本章吾『行政法・第2版』（以下テキストという。）第1章～第4章参照）特に行政法とは何か。行政組織について（テキスト57～83頁）概略説明をする。  
行政活動に関する総論（テキスト96頁）  
行政活動と個人の救済（テキスト242～244頁）  
テキストの各項目の範囲に長短があるため、若干講義内容を変更する場合もありうる。
- 第2回：法律による行政の原理（テキスト40～56頁）  
行政上の法律関係における私人（テキスト84～93頁）
- 第3回：行政作用序説  
行政活動の企画立案（96～114頁）  
情報収集手続・行政調査  
説明責任  
行政計画  
行政立法
- 第4回：行政活動の実態（テキスト115～135頁）  
行政契約  
行政指導
- 第5回：行政行為（テキスト136～167頁）  
行政行為の概念  
行政行為の効力
- 第6回：行政行為に係る手続（テキスト168～199頁）  
行政手続法  
行政行為の瑕疵  
行政勾引取消撤回
- 第7回：義務履行確保制度（199～219頁）
- 第8回：行政活動に対する監視・評価（220～240頁）  
政策評価制度  
公文書官吏制度、行政情報公開制度及び個人情報保護制度
- 第9回：国家補償と損失補償（245～253頁）  
国家賠償法概説（255～269）及び国家賠償法1条（テキスト頁）
- 第10回：国家賠償法2条（268～278頁）
- 第11回：行政争訟（テキスト243～244頁）と行政不服申立て（テキスト279～302頁）
- 第12回：行政不服申立て（302～326頁）  
真理手続  
裁決・決定  
行政准審判
- 第13回：行政訴訟総説（テキスト327～342頁）  
取消訴訟の訴訟要件①（1）処分性と（2）訴えの利益（テキスト342～379頁）
- 第14回：取消訴訟の訴訟要件（テキスト380～417頁）
- 第15回：その他の行政事件訴訟（テキスト417～263頁）  
無効等確認訴訟  
不作为の法確認訴訟  
義務付け訴訟・仮の義務付け  
差止め訴訟・仮の差止め  
当事者衆議  
民衆訴訟  
機関訴訟

【事前および事後学習の指示】

春学期に実践憲法を履修した上で、行政法を履修してほしい。事前に、テキストの当該箇所を熟読して、授業に臨んでほしい。ただし、テキストの各項目の範囲には、長短があるので、変更する場合があるが、事前にその旨を指示する。

【テキスト】

行政法・第2版 岩本章吾  
成文堂・2017年  
ポケット六法・平成31年版  
有斐閣

【参考文献】

宇賀克也ほか2名編『行政判例百選1（第7版）』『行政判例百選Ⅱ（第7版）』（有斐閣・2017年）

【コメント】

この単位の修得を含めて、諸試験に合格するには、出席することを前提として、講義前・講義後に予習復習等を行うことが必要である。受け身的学習では、合格することはおぼつかないことを肝に銘じてほしい。そのため、毎回チェックペーパー等を提出してもらおうが、それは出席点でなく平常点として加味する。

講義名称	曜日
法学特講－消費者と消費者法 〈秋〉	木 1

【教員名称】  
田中 志津子

【講義概要】

この世から、消費者を食い物にする悪質な事業者がいなくなることはないだろう。法規制の不備もあるかもしれないが、規制を待っている間にあなたが被害者となるかもしれない。また、遵法精神に則り商売をしている事業者であっても、事業者として利益を追求している以上、消費者の利益とぶつかることもある。そのような場合に、私達は1人の消費者としてまた社会の一員として、どのように行動すべきなのだろうか。具体例を挙げながら、賢い消費者としての行動を学ぶ。

【学習目標】

各自が「消費者市民社会」の中の消費者の1人であることを自覚し、賢い消費者となるために身につけておくべき知識と、問題を見分けて適切に対処できるようにする。

【講義計画】

- 第1回：「消費者市民社会」の歩き方  
第2回：消費者と消費者法① 消費者契約法  
第3回：消費者と消費者法② 特定商取引法  
第4回：消費者と表示① 家庭用品品質表示法  
第5回：消費者と表示② 景品表示法  
第6回：消費者と旅行① 民泊  
第7回：消費者と旅行② 標準旅行約款  
第8回：消費者と健康① 医薬品と医薬部外品  
第9回：消費者と健康② 健康被害  
第10回：消費者と保険 告知と免責  
第11回：消費者と投資 適合性原則  
第12回：消費者と借金 過払金問題と総量規制  
第13回：消費者と仕事のあっせん 業務提供誘引販売  
第14回：消費者と住まい 欠陥住宅  
第15回：消費者と裁判 消費者裁判手続特例法

【事前および事後学習の指示】

- ・各項目について新聞等に目を通し、社会問題となっている事象について、消費者・事業者・監督官庁等行政の各目線から問題の解決策を考えること。
- ・各自でダウンロードが必要なもの（小テスト用の用紙等）については、初回講義時に説明する。

【テキスト】

【参考文献】

必ず毎時限最新の六法を持参すること。

【コメント】

上記比率は参考。小テストをすることがある。

講義名称	曜時
法女性学 (秋集)	水1/金1

**【教員名称】**

松田 聡子

**【講義概要】**

男女共同参画社会基本法が制定されて以来、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが国や自治体で実施されている。本講義では、民法や刑法、労働法などを素材にして、わが国における女性・男性・性を取り巻く法環境を概観し、男女平等の視点から法制度の問題点やこれからの展望を探っていく。国際法および諸外国との比較検討も欠かせない視点である。

**【学習目標】**

- 次の三点を学習の目標にする。
- ① ジェンダー概念を理解しさまざまな事象を分析できる応用性をつけること。
  - ② 憲法の平等規定や男女共同参画社会基本法が目指す「多様性を認め合う社会」について理解すること。
  - ③ 女性に対する暴力がなぜ問題か理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンスー法女性学が目指すもの
- 第2回：墮胎罪と中絶規制
- 第3回：中絶規制と産む権利
- 第4回：優生保護法から母体保護法へ
- 第5回：人口政策と「リプロ」
- 第6回：家族法の概観
- 第7回：婚姻制度 (1) 婚姻の成立条件
- 第8回：婚姻制度 (2) 婚姻の法的効果
- 第9回：婚姻制度の課題
- 第10回：戸籍制度と国際結婚
- 第11回：離婚制度の概要
- 第12回：離婚制度の課題
- 第13回：同性愛と法
- 第14回：性のグラデーション、ジェンダーそして法
- 第15回：親子関係と法①法の概要
- 第16回：親子関係と法②法の課題
- 第17回：生殖補助技術の現状
- 第18回：生殖補助技術の法的課題
- 第19回：生殖補助技術とジェンダー
- 第20回：性暴力と法
- 第21回：ストーカー行為と法
- 第22回：ドメスティックバイオレンスと法
- 第23回：恋人間の暴力と法
- 第24回：人身売買・売買春と法
- 第25回：働く権利と法
- 第26回：男女雇用機会均等法の課題
- 第27回：養育・介護・年金とジェンダー
- 第28回：政治過程とジェンダー
- 第29回：男女共同参画社会が目指す社会
- 第30回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

シラバスに沿って、配布プリントや参考文献の該当箇所などをあらかじめ読んでおくことが望ましい。また、ノートを整理することも次の講義の準備になるので、丁寧なノート整理を心がけてほしい。復習してわからない用語があれば書きだして調べておくこと。なお、コメントペーパーを求めることがある。

**【テキスト】**

用いない

**【参考文献】**

三成美保『ジェンダー法学入門』（法律文化社）、辻村みよ子『憲法とジェンダー』（有斐閣）、辻村みよ子『概説ジェンダーと法』（不磨書房）、浅倉むつ子他『ジェンダー法学』（不磨書房）、金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣）、山下泰子他『法女性学への招待』（有斐閣）、吉岡睦子他『ジェンダー法講義』（民事法研究会）

**【コメント】**

論述方式の試験を実施し、その結果のみで評価する。

講義名称	曜時
簿記 02 (秋集)	水2/金2

**【教員名称】**

中村 勝之

**【講義概要】**

ある意味、企業は数字のカタマリである。それを統一的に記録・整理・公開する手続きが簿記である。この講義では、日商簿記検定3級レベルの内容を中心しつつ、簿記の基本構造について概略していく。そして、簿記の手続きを経て完成する「財務諸表」がどう利用されるのか、この点についても押さえていくことにする。

**【学習目標】**

- ・「簿記はパズルである」という感覚をつかむこと。
- ・完成した簿記というパズルは、読む人によってさまざまな理解の仕方があることを理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス (成績評価基準等の提示)
- 第2回：簿記の基本構造① (複式簿記)
- 第3回：簿記の基本構造② (財務諸表の基本)
- 第4回：仕訳の基本
- 第5回：転記の基本
- 第6回：決算の基本① (試算表)
- 第7回：決算の基本② (精算表)
- 第8回：現金預金取引
- 第9回：商品売買① (三分法による理解)
- 第10回：商品売買② (商品有高帳)
- 第11回：売掛金・買掛金
- 第12回：手形① (振出・取立)
- 第13回：手形② (裏書譲渡・割引)
- 第14回：有価証券
- 第15回：その他の債権債務
- 第16回：固定資産の処理① (取得・売却)
- 第17回：固定資産の処理② (減価償却)
- 第18回：貸倒引当金、資本金&引出金
- 第19回：収益と費用
- 第20回：伝票による処理
- 第21回：決算① (試算表)
- 第22回：決算② (決算整理)
- 第23回：決算③ (精算表)
- 第24回：第1回実践演習
- 第25回：第2回実践演習
- 第26回：第3回実践演習
- 第27回：第4回実践演習
- 第28回：経営分析① (安全性指標)
- 第29回：経営分析② (収益性指標)
- 第30回：期末試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・事前学習に関して特段の指示はしない。
- ・私がどんな講義を担当しても、受講生に求めるレベルの高さは変わらない。そのあたりを重々覚悟して事後学習に励むこと。

**【テキスト】**

検定簿記講義 3級 (平成26年版) 渡部裕巨・片山寛・北村敬子 (編著) 中央経済社  
 検定簿記ワークブック 3級 渡部裕巨・片山寛・北村敬子 (編著) 中央経済社

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【コメント】**

- ・コースワーク [小レポート] (100点満点)
- ・実践演習 (100点満点)
- ・期末試験 (100点満点)
- ① 上記3つの指標から評点を計算。
- ② 上記3つの指標と各指標の平均点から、加点措置を決定。
- ③ 評点と加点措置の合計が60点以上の受講生に単位を認定する。

講義名称	曜日
ボランティアコーディネート論 (秋)	水 4

**【教員名称】**

石田 易司

**【講義概要】**

ボランティア組織やボランティアコーディネート組織をマネジメントし、社会のボランティアニーズを見極め、ボランティア希望者の成長を促すボランティア活動を創造する知識を身に付ける。そのために自身でボランティア活動に参加し、ボランティア活動を体験する。また、その結果をプレゼンテーションする。

**【学習目標】**

ボランティア組織、あるいはボランティアコーディネート組織で実際にボランティアコーディネートができるように、必要な技術、知識を学ぶ。

**【講義計画】**

- 第1回：授業ガイダンス  
ボランティアコーディネートとは何か  
評価、体験ガイダンス
- 第2回：ボランティアとは何か
- 第3回：私のボランティア体験（経験者による発表）
- 第4回：ボランティアの必要な社会
- 第5回：ボランティア活動の組織
- 第6回：様々なボランティアプログラム
- 第7回：エリア型とテーマ型のボランティア活動
- 第8回：ボランティアコーディネートの必要
- 第9回：ボランティアコーディネーターの技法①（相談とコミュニケーション）
- 第10回：ボランティアコーディネーターの技法②（リーダーシップ）
- 第11回：ボランティアコーディネーターの技法③（グループワーク）
- 第12回：地域課題の発見
- 第13回：バーンアウトとスーパービジョン
- 第14回：調査、研究
- 第15回：ボランティアコーディネート体験をプレゼンテーション

**【事前および事後学習の指示】**

実際にボランティア組織あるいはコーディネート組織の体験をし、それをプレゼンテーションできるようにまとめる

**【テキスト】**

体験するボランティアコーディネート論 石田易司

**【参考文献】**

**【コメント】**

教室で講義を受けて学習するだけでなく、学外のボランティア組織に関与し、コーディネート体験をすることを求めます。

講義名称	曜日
マクロ経済学 03 (秋集)	月 4/ 木 1

**【教員名称】**

井田 大輔

**【講義概要】**

この講義では、マクロ経済学の基礎理論を勉強します。マクロ経済学では以下のような問題を考えます。経済はどのような要因で成長するのだろうか。失業はどうして発生するのか。好況・不況を生み出すメカニズムはなんだろうか。経済が安定的に成長する経済政策はどのようなものなのか。これらの問題に解答を与えていくことがマクロ経済学の役割です。現実の経済問題を考えるうえで、マクロ経済学は有用な分析ツールの1つになります。

**【学習目標】**

この講義は、上述のように、マクロ経済学の基礎理論を勉強します。講義を通じてマクロ経済学の内容を理解し、現実の経済問題を考える上での一つの分析ツールとして学生の皆さんに使ってもらえるような講義にしたいと思います。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス（講義計画、成績評価方法、マクロ経済学の講義内容の説明など）
- 第2回：GDPと物価（1）：GDPの定義
- 第3回：GDPと物価（2）：物価とは
- 第4回：経済主体と市場
- 第5回：経済数学の復習：基礎的な数学の復習（1）（方程式、関数などの基礎的な概念）
- 第6回：経済数学の復習：基礎的な数学の復習（2）（グラフを使った分析の基礎）
- 第7回：経済モデル
- 第8回：GDPの決定（1）：45度線分析（モデルの説明）
- 第9回：GDPの決定（2）：45度線分析（有効需要の原理）
- 第10回：GDPの決定（3）：45度線分析（マクロ経済政策）
- 第11回：乗数理論（1）：乗数とは？
- 第12回：乗数理論（2）：政府支出乗数と租税乗数
- 第13回：乗数理論（3）：均衡予算乗数
- 第14回：貨幣市場（1）：貨幣需要
- 第15回：貨幣市場（2）：貨幣供給
- 第16回：まとめと中間テスト
- 第17回：IS-LM分析（1）：IS曲線の導出
- 第18回：IS-LM分析（2）：LM曲線の導出
- 第19回：IS-LM分析（3）：IS-LM分析（財政金融政策の効果）
- 第20回：IS-LM分析（4）：IS-LM分析（流動性のわな）
- 第21回：AD-AS分析（1）：AD曲線の導出
- 第22回：AD-AS分析（2）：AS曲線の導出
- 第23回：AD-AS分析（3）：AD-AS分析における経済政策の効果
- 第24回：物価変動とマクロ経済学（1）：フィリップス曲線（インフレーションと失業）
- 第25回：物価変動とマクロ経済学（2）：自然失業率仮説
- 第26回：物価変動とマクロ経済学（3）：IAD-IAS分析
- 第27回：新しいケインズ経済学（1）：IS-MP分析とは
- 第28回：新しいケインズ経済学（2）：IS-MP分析における経済政策の効果
- 第29回：日本経済とマクロ経済学（理論と実践）
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

板書量がそれなりに多い講義ですので、履修する際はこれを覚悟して挑んでください。なお、授業では数学を積極的に使用しますが、必要な数学についてはしっかりと準備をしますので、数学の予備知識は特に必要ありませんが、苦手な人はしっかりと復習することが求められます。勉強は積み重ねです。コツコツ毎回の授業に出ないと絶対苦労するので、粘り強く取り組んでくれる真面目な受講生を歓迎します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

北坂真一「マクロ経済学・ベーシック」（有斐閣、2003年）

**【コメント】**

授業評価に関するアナウンスは1回目の授業の際に説明しますので、必ず1回目の授業に参加するようにしてください。

講義名称	曜日
マルチメディア文化論 〈秋集〉	月3/月4

**【教員名称】**

前田 恵

**【講義概要】**

たとえば、「ロシアに夏はあるのか？」という問いにあなたはどうか答えるだろうか？「なぜ、ロシア人は笑わないのか」と問われたら？そこで、この講座ではロシア・ソ連および、その周辺諸国で製作された実写映画や記録映像を鑑賞し、そこに現れるそれぞれの国の素顔に接し、さらに配布プリントにより知識を深める。

**【学習目標】**

映像から受け取ったイメージを分析し、その歴史的背景や文化的背景ともすりあわせながら、ロシア・ソ連および、周辺諸国の特色などを掘り下げる。つまり、受容したイメージを各受講生が自らの視点によって考察し、判断する力を養う。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：CM鑑賞
- 第3回：ソ連時代のコメディ映画①
- 第4回：ソ連時代の学生生活とは？
- 第5回：ソ連時代のコメディ映画②
- 第6回：ソ連時代の社会生活の一端を知ろう
- 第7回：ソ連時代の恋愛映画①
- 第8回：男女平等社会の恋愛とは？
- 第9回：ソ連時代の恋愛映画②
- 第10回：離婚率が高いのはなぜか？
- 第11回：ソ連時代の戦争映画
- 第12回：検閲官が否定したもの
- 第13回：ソ連時代の革命映画
- 第14回：なぜ、彼女は戦場に帰ったのか
- 第15回：ロシア時代の映画①
- 第16回：SF映画に見えるロシア的なものは何か？
- 第17回：ロシア時代の映画②
- 第18回：社会の変化がもたらしたものの
- 第19回：東欧諸国をめぐる記録映像
- 第20回：友情に影を落としたものは何か？
- 第21回：周辺諸国の映画①
- 第22回：社会が抱える問題とは？
- 第23回：周辺諸国の映画②
- 第24回：若者から見る社会
- 第25回：周辺諸国の映画③
- 第26回：文化的背景を探る
- 第27回：周辺諸国の映画④
- 第28回：社会の変化を知る
- 第29回：周辺諸国の映画⑤
- 第30回：映像が伝えるメッセージとは？

**【事前および事後学習の指示】**

図書館 AV ルーム・視聴覚室が所蔵する DVD、無料の動画サイト「GYO!」などを利用して、日頃から映像文化に触れ、授業での考察に役立てましょう。

**【テキスト】**

プリントを配布する

**【参考文献】**

**【コメント】**

- 主に、学期末試験によって評価する。
- ① 授業開始 15 分以降の入退室は認めない。
- ② 携帯およびスマートフォンはバッグの中。机やポケットに入っていないと、減点する。
- ③ 授業態度が悪い受講生は退室ないし、失格とする。
- ④ 授業中の質問および発言について積極的に評価する。

講義名称	曜日
ミクロ経済学 03 〈秋集〉	月1/木2

**【教員名称】**

矢根 真二

**【講義概要】**

標準的なミクロ経済学の入門講義です。問題練習の反復と理解が不可欠なため、受講者の理解度によって多少進度を変更する場合があります。

**【学習目標】**

第1に、問題練習を繰り返すことにより標準的なミクロ経済モデルを理解できる論理力を磨くこと、第2に、その知識と技術をもって初回に説明する文献リストのようなミクロ経済関連の文献を自在に読める読解力を習得することです。

**【講義計画】**

- 第1回：履修情報とテキスト選択リストの解説：カモになる or カモを釣る？
- 第2回：C1 競争の自由な市場
- 第3回：C2 需要曲線とその変動
- 第4回：C3 弾力性とビジネス
- 第5回：C4 供給曲線と企業の意思決定
- 第6回：C5 「神の見えざる手」の予測
- 第7回：C6 政府の失敗と効率化原則
- 第8回：C7 Part C 競争市場のの総括と Exam1C
- 第9回：R1 ホモ・エコノミカスと曲線の勾配
- 第10回：R2 限界原理と供給曲線
- 第11回：R3 限界利益と需要曲線
- 第12回：R4 コブダグラス型関数と等高線
- 第13回：RR5 利潤最大化と費用最小化
- 第14回：R6 効用最大化と比較静学
- 第15回：R7 Part R 合理的意思決定の総括と Exam2R
- 第16回：M1 市場支配力と市場の区分。
- 第17回：M2 カルテルと独占
- 第18回：M3 価格設定
- 第19回：M4 最適反応とバックワードインダクション
- 第20回：M5 戦略的行動
- 第21回：M6 寡占
- 第22回：M7 Part M 市場支配力の総括と Exam3M
- 第23回：I1 不完全な市場と財の区分
- 第24回：I2 外部性
- 第25回：I3 公共財 <2>
- 第26回：I4 アドバースセクション
- 第27回：I5 モラルハザード
- 第28回：I6 政府の活用
- 第29回：I7 Part I 情報の経済学の総括と Exam4I
- 第30回：講義総括：カモにならずカモ釣らず？

**【事前および事後学習の指示】**

下記の教員サイトの授業スライドの問題練習が不可欠ですから、必要な文献を選んで学習して下さい。

- 経済学部教員サイト：<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/>

**【テキスト】**

**【参考文献】**

問題練習に必要なテキストは、初回に解説するテキスト選択リスト（神取道宏 (14) 『ミクロ経済学の力』日本評論社やヴァリアン (15) 『入門ミクロ経済学』勁草書房）から各自のレベルと必要度に応じて選択してもらいます。

**【コメント】**

ただし初回に説明するように、授業中の問題練習等を若干加味する場合があります。

講義名称	曜日
メディアリテラシー論 〈秋集〉	月3/木1

**【教員名称】**

境 真理子

**【講義概要】**

別の基礎的な講義である「メディア・リテラシー入門」に続く理論編で、より専門的で理論的な性格をもつ。  
授業では私たちが無自覚・無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的、歴史的、社会的な特性を問いなす。講義は、学際的、領域横断的な内容であり、情報社会をより豊かに生きるための基礎体力となるよう設計される。内容は大きく三期に分かれ、一期はメディア・リテラシーに関する基礎的な理論から始まる。二期は、映像の歴史とメディアの特性、三期は「実践・応用」編で、議論を交えながらコミュニケーションと表現の力をみがく。

**【学習目標】**

情報の側面から社会と人間を深く理解することを目指す。私たちはさまざまなメディアに囲まれ、身近になった情報機器を操作し、あまり意識せずに、メディアに触れる、見る、使う、作る、楽しむ生活をしている。一方で、膨大な量の情報に戸惑うことはないだろうか。メディアがあふれる情報社会の中で、メディアの選び方や接し方、使い方を理解し、応用力のある「知」へ発展させる。さらに、さまざまなメディアを表現のツールとして使いこなすことを学びながら、創造力や表現能力を伸ばすのが学習のねらいである。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーションと概論：メディア・リテラシー8つの基本概念
- 第2回：メディアの歴史1：通信・電話の事例から
- 第3回：メディアの歴史2：ラジオの事例から
- 第4回：メディアの歴史3：写真、
- 第5回：メディアの歴史4：映像とドキュメンタリー
- 第6回：今日的課題1：メディア・リテラシーと内外の情報教育
- 第7回：今日的課題2：ジャーナリズムとの協働
- 第8回：今日的課題3：メディア・リテラシーの世代間格差
- 第9回：ワークショップ1：ケータイ写真で物語る
- 第10回：ワークショップ2：ストーリーと音楽
- 第11回：マスメディア：放送の「送り手」と「受け手」新しい関係の模索
- 第12回：マスメディア：新聞とNIE活動、マスメディアの課題
- 第13回：ドキュメンタリーの表現1：映像の表象
- 第14回：ドキュメンタリーの表現2：映像の修辞学とメタファー
- 第15回：前半の振り返りとディスカッション
- 第16回：情報化社会とリテラシー1：デジタル環境がもたらす変化
- 第17回：情報化社会とリテラシー2：情報格差とオータナティブ・メディア
- 第18回：情報化社会とリテラシー3：市民社会と草の根メディア、パブリックアクセス
- 第19回：放送と倫理：BPOと放送、市民、リテラシー
- 第20回：言論・表現の自由と諸課題
- 第21回：映像特性とレトリック
- 第22回：インターネットとメディア：激変する環境と知的財産権
- 第23回：インターネットとメディア：動画サイトの現在
- 第24回：映像作品を批評する1
- 第25回：映像作品を批評する2
- 第26回：読み解く：映像情報の受容と発信
- 第27回：プレゼンテーション1：メディア・プロデュース
- 第28回：プレゼンテーション2：相互批評
- 第29回：総合ディスカッション
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

すでに基礎編の「メディアリテラシー入門」を受講していることが望ましい。授業の性格が、初歩的・入門的な内容ではなく、メディア知識を前提として授業を進めるためである。専門的なメディア用語も多用する。さらに、授業理解を深めるため、日ごろから「メディア」や「ジャーナリズム」「コミュニケーション」にかかわる書籍、記事、広告、映画、テレビなどに接し、メディアからの情報を注意深く読み解く習慣をつけるように努めてほしい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 「大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング」長谷川一 村田麻里子編著 三省堂 2015年
- 「メディア・リテラシーの道具箱」水越伸編 東大出版会 2005年
- 「メディア・リテラシー マスメディアを読み解く」カナダ・オンタリオ州教育省編 リベルタ出版 1992年
- 「メディア・リテラシー教育 学びと現代文化」バックingham著 世界思想社 2006年

**【コメント】**

随時、理解を問うミニテストが実施されるほか、複数回のレポート課題が求められる（約3回）。また授業への積極的参加やプレゼンテーション能力も含め総合的に評価する。29回中（30回目は試験予定）、原則として8回以上の欠席は受講放棄とみなし、自動的に、D評価（不可）となる。15分以上の遅刻は原則として入室は禁止。

講義名称	曜日
ヨーロッパ経済論Ⅱ 〈秋〉	火2

**【教員名称】**

岩見 昭三

**【講義概要】**

EUは、統合が進展しているとはいえ、現在はまだ多様な国家の集合体である。主要国間でも、「ドイツの一人勝ち」やイギリスのEU離脱に見られるように、格差が拡大している。さらに、ギリシャ危機に象徴されるEU内の「南北問題」や、旧中・東欧諸国の停滞は、EUを一律に論じることの困難性を示している。この現状を踏まえ、EUの主要国、周辺国の現状と問題点を学習する。

**【学習目標】**

EU各国の経済構造・経済発展度の違いを、EU統合に起因するものと、各国経済の独自性に起因するものとを峻別して理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：EU主要国経済の概観
- 第2回：フランス経済①
- 第3回：フランス経済②
- 第4回：ドイツ経済①
- 第5回：ドイツ経済②
- 第6回：イギリス経済①
- 第7回：イギリス経済②
- 第8回：イタリア経済
- 第9回：スペイン経済
- 第10回：ギリシャ経済
- 第11回：中・東欧諸国の経済
- 第12回：ポーランド経済
- 第13回：EUの対外通商関係
- 第14回：ユーロの国際通貨機能と、ユーロ軸通貨圏
- 第15回：EU経済の展望

**【事前および事後学習の指示】**

まず自分の好きな国の経済を詳しく理解・学習し、それと関連させて他の国の経済にも関心を向け、体系的に学習してほしい。

**【テキスト】**

- 現代ヨーロッパ経済 第4版 田中素香他
- 978-4-641-22027-0 有斐閣

**【参考文献】**

- 川野祐司「ヨーロッパ経済とユーロ」文眞堂

**【コメント】**

出席点は高くないが、出席して毎回文章を書く訓練をしておけば、試験の合格答案作成が容易になる。

講義名称	曜時
臨床心理学 B (秋)	月 2

**【教員名称】**

岡井 哲明

**【講義概要】**

「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（精神的疾患を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問としての「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。

現代の世相は落ち着きを失いつつあり、ますます複雑化している。私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、その速度も増している。何が起こるのかの予測も立ちにくく、人々の心はそれに十分ついていけず、生きていくための拠り所が見いだせない人もいる。心の病は誰でもが罹るのではないかと不安になる人もいる。現代人にとって、どのように生きるかは益々大きな課題となっている。

本講義では、フロイドと並び無意識の概念を早くから臨床に導入し、人間の自律的かつ力動的な個性化の過程について、臨床経験と自身の内なる探求を通じて明らかにしたユングの「分析心理学」を中心に据えて分かりやすく展開する。

必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介する。

**【学習目標】**

臨床心理学の概要と主要な理論や事例を通じて、人間の心に対する一層の理解を深め、悩める人への援助について関心を抱き、受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、自分自身についてもじっくり考えるようになり、対人援助に向かおうとする人もそうでない人にとっても、今後の人生に役立つ契機となること。

**【講義計画】**

- 第1回：分析心理学～ユング① ユングの生涯
- 第2回：分析心理学～ユング② 連想実験とコンプレックス
- 第3回：分析心理学～ユング③ 影
- 第4回：分析心理学～ユング④ 影
- 第5回：分析心理学～ユング⑤ イメージ、象徴、元型
- 第6回：分析心理学～ユング⑥ 個人的無意識と普遍的無意識
- 第7回：分析心理学～ユング⑦ 夢分析（夢の機能と構造）
- 第8回：分析心理学～ユング⑧ 能動的想像
- 第9回：分析心理学～ユング⑨ ペルソナ
- 第10回：分析心理学～ユング⑩ アニマ
- 第11回：分析心理学～ユング⑪ アニマ
- 第12回：分析心理学～ユング⑫ アニムス
- 第13回：分析心理学～ユング⑬ 自己（セルフ）と個性化の過程
- 第14回：分析心理学～ユング⑭ 人間のタイプ
- 第15回：分析心理学～ユング⑮ 共時性

**【事前および事後学習の指示】**

詳細については、講義の中でその都度指示する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

その都度配布する。

**【コメント】**

レポート：50% 授業への積極的な参加：50%

講義名称	曜時
歴史学—近代日本の歴史と戦争 (秋集)	火 3/ 金 4

**【教員名称】**

梅本 哲世

**【講義概要】**

この講義では、明治維新以後の近代日本における戦争の歴史について概観する。戦前の日本は、台湾出兵以来、日清戦争、日露戦争、第1次世界大戦、日中戦争、太平洋戦争など、多くの戦争を経験してきた。これらの戦争は、日本人のみならず、アジアの国々の多くの人びとに大きな苦難を与えた。アジア諸国との相互理解・友好の発展のために、私たちは過去のこのような戦争について深く学ぶ必要があるだろう。この講義がそのための一助となれば幸いである。テキストは使用せず、毎回レジュメを配布し、ビデオ教材もテーマに応じて利用する。

**【学習目標】**

戦前日本の戦争について、歴史学の現時点での到達点を踏まえて紹介し、これらの戦争について正確な理解をもつことをめざす。さらに、アジアの近隣各国としばしば問題となる「歴史認識」の違いについても、考える糸口を提供したい。歴史に興味を持つ多くの学生諸君の参加を歓迎する。

**【講義計画】**

- 第1回：はじめに—近代日本の「戦争」を学ぶ意味
- 第2回：「征韓論」と台湾出兵
- 第3回：日清戦争 その1
- 第4回：日清戦争 その2
- 第5回：日露戦争 その1
- 第6回：日露戦争 その2
- 第7回：日露戦争 その3
- 第8回：韓国併合
- 第9回：第1次世界大戦
- 第10回：ワシントン体制と軍縮、パリ不戦条約
- 第11回：満州事変 その1
- 第12回：満州事変 その2
- 第13回：日中戦争 その1
- 第14回：日中戦争 その2
- 第15回：日中戦争 その3
- 第16回：日独伊三国同盟
- 第17回：太平洋戦争 その1
- 第18回：太平洋戦争 その2
- 第19回：太平洋戦争 その3
- 第20回：太平洋戦争 その4
- 第21回：太平洋戦争 その5
- 第22回：大東亜共栄圏と大東亜会議
- 第23回：終戦工作とポツダム宣言
- 第24回：降伏と敗戦
- 第25回：極東国際軍事裁判
- 第26回：日本国憲法の制定
- 第27回：「歴史認識」について その1
- 第28回：「歴史認識」について その2
- 第29回：「歴史認識」について その3
- 第30回：まとめ—戦争と平和について

**【事前および事後学習の指示】**

前回のレジュメを復習するとともに、講義予定のテーマについて指示する関連文献を読んでおくこと。

**【テキスト】**

テキストは使わない。レジュメを配布する。

**【参考文献】**

- 藤岡信勝他『日本人の歴史教科書』、自由社、2009年。
- 日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 [第2版]』、高文研、2006年。
- 加藤陽子『それでも日本人は戦争を選んだ』、朝日出版社、2009年。
- その他の関連文献については、講義のなかで紹介する。

**【コメント】**

学期末試験の成績を主とし、小テスト（2～3回程度）も判断の材料とする。学期末試験（90%）、小テスト（10%）の予定。ただし、受講生が多数で厳正な小テストができない場合、小テストを成績に含めない場合もある。

講義名称	曜日
歴史学—歴史から何を学ぶか (秋集)	火 2/ 金 3

**【教員名称】**

申田 久治

**【講義概要】**

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光(しばこう)が著した歴史書『資治通鑑(しぢつがん)』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑(かがみ)とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る(人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る)」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

なお、本講義を始めるに当たり、都合三回のオリエンテーションを行います。本講義を履修しようと思う人は、必ずいずれかのオリエンテーションに参加し、本講義の目的・講義の進め方などをしっかり理解し納得した方のみ履修することができます。オリエンテーションに参加せずに本講義に登録しても無効です。

**【学習目標】**

本講義は書物から学ぶものではなく、自分の頭で考え、人の意見に耳を傾け、議論し、考えを整理してそれを他者に言葉(文字)で伝える能力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション (1)
- 第2回：オリエンテーション (2)
- 第3回：オリエンテーション (3)
- 第4回：第一部 歴史を記録することの意味
  - 1 History と 史
  - 2 直 筆経と緯
  - 3 春秋・構机・乗
- 第二部 歴史と思想
  - 1 陰陽五行思想
  - 2 十干十二支
  - 3 経(たていと)と緯(よこいと)
  - 4 天の思想：革命・天道・災異
- 第三部 歴史を読み解く
  - 1 名と実
  - 2 婦人の義
  - 3 宋襄の仁
  - 4 経と権
  - 5 過 失
  - 6 神格化のいずれか

- 第5回：同上
- 第6回：同上
- 第7回：同上
- 第8回：同上
- 第9回：同上
- 第10回：同上
- 第11回：同上
- 第12回：同上
- 第13回：同上
- 第14回：同上
- 第15回：同上
- 第16回：同上
- 第17回：同上
- 第18回：同上
- 第19回：同上
- 第20回：同上
- 第21回：同上
- 第22回：同上
- 第23回：同上
- 第24回：同上
- 第25回：同上
- 第26回：同上
- 第27回：同上
- 第28回：同上
- 第29回：最終レポート作成
- 第30回：総括

**【事前および事後学習の指示】**

そのつど指示する。

**【テキスト】**

儒教の知恵—矛盾の中に生きる 申田久治  
中公新書(電子書籍)

**【参考文献】**

- 入江 昭著『歴史を学ぶということ』(講談社現代新書)
- 呂崎市定著『中国に学ぶ』(中公文庫)
- 市井三郎著『歴史の進歩とは何か』(岩波新書)
- 申田久治著『王朝滅亡の予言歌—古代中国の童謡』(大修館)
- 申田久治著『中国古代の「謎」と「予言」』(創文社)
- 申田久治著『無用の用—中国古典から今を読み解く』(研文出版)
- 申田久治著『ゆっくり楽に生きる漢詩の知恵』(学研)
- 申田久治著『天安門落書』(講談社現代新書)
- 今村仁司著『近代性の構造』(講談社選書メチエ)
- 武田泰淳著『司馬遷—史記の世界』(講談社学術文庫)
- 加地伸行著『史記—司馬遷の世界』(講談社現代新書)
- KUSHIDA'S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>

**【コメント】**

本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません(欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります)。レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、毎回のレポートおよび中間レポート(複数回)不良者は最終レポート作成・提出の資格を失います。

講義名称	曜日
労働法 (秋集)	火 1/ 金 2

**【教員名称】**

瀧澤 仁唱

**【講義概要】**

労働法は会社や官庁などとそこで働く者との間に関わる法である。労働法の世界では、働く人を労働者、それを使用する方を使用者と呼ぶ。その関係を労働関係といい、そこで生じる様々な問題を解決し、しかも会社などでの様々な「働き方」に関わる制度を労働法はつくる役割をもっている。社会で働く人々の大多数が「労働法」に深いかわりをもって生きているので、そのような法律を学ぶのが「労働法」講義である。

**【学習目標】**

1. 労働法の法体系及び関係法の概要理解。2. 労働法の実施体制の概要理解。講義の目的としては、①制度を知る、②概念をきちんとおさえる、③社会的科学的なものの見方を養う、④試験準備。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス—「労働法」という名前の法律はなく、皆さんが卒業してからだけでなく、アルバイトで働くときにいろいろな面で関わっている法律群をまとめて呼んだものである。アルバイトの残業代はどう計算されるのか、アルバイト中にけがしたら、治療費は誰が払ってくれるのか、といった切実な問題を解決するのが労働法である。これら問題に関わる法律の集まりであるから「労働法」の数は決まっていない。
- 第2回：労働法の意義—労働法は多義的な概念
- 第3回：労働法の発生—労働法の歴史
- 第4回：憲法と労働法—市民法の3原則と労働法
- 第5回：労働法の中の各法律の位置
- 第6回：労働法における登場人物—労働者、使用者、労働組合  
労働条件はどう決まるのか?
- 第7回：労働契約法 (1) 労働契約法総則
- 第8回：労働契約法 (2) 労働契約の成立
- 第9回：労働契約法 (3) 労働契約の継続および終了、期間の定めのある労働契約
- 第10回：労働契約法 (4) 労働契約法まとめ
- 第11回：労働基準法 (1) 労働基準法にいう労働者、使用者、賃金
- 第12回：労働基準法 (2) 労働条件の原則、決定、均等待遇、男女同一賃金
- 第13回：労働基準法 (3) 強制労働の禁止、中間搾取の排除、公民権行使の保障
- 第14回：労働基準法 (4) 労働契約、契約期間等、労働条件の明示、賠償予定の禁止、前借金相殺の禁止、強制貯金
- 第15回：労働基準法 (5) 解雇
- 第16回：労働基準法 (6) 賃金に関わる原則
- 第17回：労働基準法 (7) 労働時間、休憩、休日および年次有給休暇
- 第18回：労働基準法 (8) 労働時間などに関わる例外
- 第19回：労働基準法 (9) 年少者
- 第20回：労働基準法 (10) 妊娠婦等
- 第21回：労働基準法 (11) 災害補償
- 第22回：労働基準法 (12) 就業規則
- 第23回：労働基準法 (13) 監督機関
- 第24回：労働組合法 (1) なぜ労働組合法があるのか
- 第25回：労働組合法 (2) 労働組合と労働協約
- 第26回：労働組合法 (3) 不当労働行為とは(使用者がやってはいけないこと)
- 第27回：労働組合法 (4) 労働委員会
- 第28回：労働組合法 (5) 労働委員会、労働組合法と他の法律
- 第29回：労働環境の変化と労働法の新たな課題 (1)  
—非正規労働者の増加をめくって
- 第30回：労働環境の変化と労働法の新たな課題 (2)—動き続ける労働法

**【事前および事後学習の指示】**

労働法は、憲法、民法および刑法の基礎知識が必要な法分野である。準備学習として予習を重視するので、指示・配布された教材に常に注意をはらっていただきたい。

**【テキスト】**

ベーシック労働法 [第6版補訂版] 浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子  
978-4-641-22070-6 有斐閣 版の古いものは法律内容が違うので購入しないこと。

**【参考文献】**

より詳しく調べたい方は、小六法(2018年版)を持参していただきたい。必要に応じ参照条文はコピーしてわたすので、購入する必要はない。古い六法は使えないので、ご注意ください。

**【コメント】**

論述式筆記試験